

武士神格化一覧・稿：上・東日本編

高野，信治

<https://doi.org/10.15017/1547166>

出版情報：九州文化史研究所紀要．47，pp.1-105，2003-03-31．九州大学九州文化史研究所
バージョン：
権利関係：



武士神格化一覧・稿（上・東日本編）

高 野 信 治

はじめに

本稿では、人が神格化されることの意味、とりわけ武士が神格化される意味を、本来は武力行使による人の殺傷を職分とし武力で裏付けられた「武威」を背景に政治を行っていた武士への眼差しという問題を前提に、考察する一環として、武士神格化の一覧を試みたい。

ここでいう武士とは、前近代日本において武力行使と政治支配の二つの局面に何らかのかたちで関わる身分にあった人物と考える。また神格化とは信仰の対象として社（寺や小祠・顕彰碑なども含めた宗教的施設と広義にみたい）に祭神として祀る宗教的行為と捉よう。対象時期は武士を神にまつりあげる行為がみられる全ての時代を想定している。当初の意図は近世（安土・桃山～江戸時代）期の武士の神格化を考えていたが（もちろんこれは当面の私自身の研究課題であるのだが）、もう少しレンジを広げ、いわば日本史における武士像を捉える視野がなければ所期の目的の達成は困難のように思われ、かかる設定にした。具体的には、武士が歴史上登場するとされる平安中期頃より現在までである。なお、とくに平安末期から南北朝期、具体的には保元・平治の乱から源平争乱、承久の変、南北朝内乱などの各時期には、武士的性格をもった皇族・公家が多く見られ、一覧に加えるべきか判断に迷った人物がある。また、江戸時代では士分としての由緒をもつとされる村落の有力者や逆に士分に取立てられた人物についても一覧に加えるべきか微妙な問題がある。しかし、小稿においては明確な基準を設けるにいたらず、結果、恣意的選択の恐れがあることをあらか

じめお断りしておく。もっとも、繰り返しになるが私自身の問題関心が、武士自身の自己認識や武士身分以外の階層による武士認識、つまり、前近代から近現代まで通した、大仰な言い方が許されれば日本史における武士をめぐる自他認識という問題を神格化という切り口で検討する、ということにあることから判断したというのは付記しておきたい。ただ揺れがあるのも事実でかかる問題は今後に熟考したい。

一覧に選択すべき人物・祭神はかなりの数にのぼろう。同一人物でも神体が別であれば別の祭神としてカウントするので（つまり別の人物や社会集団による神格化）、徳川家康の事例などを出すまでもなく、個別祭神数は膨大である。短期間の調査では言わずもがなの限界がある。しかし、武士神格化のおよその傾向性を探ることは、いわゆる日本人の人神観念や天皇制の問題、ひいては宗教と社会の関係性を検討する上でも好個の素材を提供しよう。かかる観点から、不十分さは承知の上で「一覧」の「稿」として提供する次第である。

一覧作成にあたり、留意した点（凡例）は次の通りである。

（1）配 列

配列は都道府県単位とし、そのなかで祭神名の五十音順とした。したがって同一祭神の場合は一連で示される。これは武士神格化の地域的特性を探ることを一覧作成の目的の一つとしたいからである。その地域は様々なレベルが想定できようが（例えば国郡単位、あるいは天領・藩領などの領単位）、ここでは便宜的に現行の行政区域を基準とした。ただし、同一族の祭神が並ぶ場合は必ずしも五十音順の原則にしたがわないことがある。例えば歴代藩主を配列する際には在位順（代数順）としたものもある。また本藩主と支藩主が同一姓で並ぶ場合も、五十音順とせず藩単位の在位順に並べた事例がある。このように同一族については一覧の便宜性を優先させることがある。なお本号での都道府県別収載範囲は東日本（北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島・茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・新潟・富山・石川・福井・山梨・長

野・岐阜・静岡・愛知・三重）とし、西日本は次号掲載とする。

（2）祭神名

祭神名は神名・通称名・官途名・本姓などで示される場合も、原則として実名表示とした。例えば、高讓味道根之命は徳川光圀、蒲冠者は源範頼、新羅三郎は源義光、八幡太郎は源義家、源家康は徳川家康、堀田相模守は堀田正睦などの如くである。しかし、祭神名と地域性などを考慮した場合もある。例えば源義仲はいわゆる木曾地方（長野・岐阜県域）では木曾義仲とする如くである。したがって祭神名に、実名以外の名称の一部または全部を（ ）内に付記することもある。なお祭神名の前の＊印は、その祭祀社の主祭神ではなく配祀・合祀されたことを示す。周知のように明治初期の神仏分離、あるいは明治中後期や太平洋戦争後の神社合祀政策で、祭神の合祀化が進んだが、歴史的に見れば本来、単一の神体（あるいは一族神）として信仰の対象となっていたものである。その検証は困難な場合が多いが、判明分を備考欄に記す。

（3）祭祀社

判明する限り、創祠された段階ないしそれに近い祭祀社名（祭祀された宗教施設として寺院や顕彰碑なども含む）を記すが、それが困難な場合は現在名となる。収集資料（後述）の関係でむしろこの場合が多いのをあらかじめ断っておく。なお（ ）内に注記を付す。「A社（B社境内社）」とある場合は、祭祀されているA社がB社の末社・摂社などを含む境内社であることを示す。また「C社（D社）」とある場合は、C社が後にD社に社名変更したことを示す。これらの点は祭神・社の歴史の変遷を検討する材料となるが適宜備考に記した。

（4）創祠時期・創祠者

これも検証することが困難な場合が極めて多いが、小稿では伝承などのデータを記載した場合もある。また、創祠時期の前の＊印は、その時期に社の再興・祭神の合祠などがあって存在が確実な場合を示す。したがって本来の創祠時期はそれ以前となる。これらの事情も備考に記す。

（５）所在地

祭神は合祀・末社化などでまつられる社を移遷する場合がある。所在地は判明する限り、創祠時期のそれを現行地名で記す（ただし、都・府・県・大字の文字は省略し、小字・番地なども複数の社相互が区別できない場合を除き省略）。そして現所在地への移遷の経緯を社名変遷などとともに備考欄に記す。しかしこれも他項目同様に特定が難しいことが多い。その場合は現所在地を記している。なお、現行地名表記を原則とするが、現在消滅している社など、地名特定が困難な場合は、その限りではない。

（６）備考

これまで掲げた祭神名、祭祀社、創祠時期、創祠者、所在地などの情報を記す。武士が神格化される背景は多様に想定され、また、祭神や社の性格は歴史的に変化していると思われる。現段階では、武士の神格化の背景や方向性について、

ア）氏神化、先祖神

イ）民俗神化、地域神・鎮守神・利益神・救済神

ウ）国家神・民族神化、「公」に尽くしたとされる人物の祭祀

エ）神社の創祠・再興・寄進などで合祀

オ）怨霊の神格化、御霊信仰

などの見通しを持っている。この場合、エ）とオ）は、ア）からウ）に複合化する場合があり、またア）からオ）が相互に複合化する事例もみられる。例えば、江戸期、城中に先祖神として祀られていた藩主が、明治期になり城外や城跡に新たな社が創建され、地域神としての性格を持つ祭神に変容するような事例は祭神の性格変化の典型を示そう。このように神格化された武士が信仰の対象としてもつ性格は歴史的に変わると考えられるので、備考欄は伝承なども含めいささか詳述したことがある。了とされたい。ただし、これも資料的制約で意を尽くせず、また空白欄も多くある。創祠の背景や地域社会での信仰・祭礼のあり方など個別情報

の収集が今後の課題である。なお、祭神に関する記述は、その地域での神格化をめぐる背景の情報化となるように努めたが、これも個別地域の歴史的事実をさらに踏まえた調査が必要であり、不十分に終わっている。また本欄で、「当社」という表現は当該データの祭神が直接まつられる社、「本社」という表現はその社を摂社・末社など境内社として包摂する社、ないし当該祭神が合祀された社をさす。

（7） 典 拠

祭神収集にあたっての典拠資料は各都道府県別に刊行されつつある神社誌類と、神社本庁による「全国神社祭祀祭礼総合調査」のデータ（「平成祭データ」）を基本とした。なおこれらは神社本庁包括社を主としたいわば現状の祭神データを示すにとどまっており、歴史的に存在した祭神・社で廃絶したものも少なくないであろう。それは例えば近世の地誌類に記される祭神と比較すれば容易に想定できる。武士の祭神もその例外ではなかろう。しかし、①先述のように武士の神格化について近現代の問題も射程に入れ検討する課題意識をもっていること、②寺院の廃絶と比較して社が廃絶された場合の祭神は他の社に合祀・配祀される可能性が高かったと思われること、③摂社・末社の境内社や合祀・配祀の状況から祭神や社の歴史的変遷をある程度復元できる可能性があること、④一定の基準資料を典拠に祭神の収集を図ることで作業についてある程度の網羅性と合理性が保証される可能性が考えられること、などの理由から、かかる典拠に基づくことにした。しかし、神社本庁データには創祀時期・創祀者を含めた歴史的変遷に関する内容は皆無であり、各神社誌類も埼玉県神社庁神社調査団編『埼玉の神社』（三巻本、埼玉県神社庁、一九八六～九八年）にみるような、歴史文献調査や民俗祭礼調査などが充実した例は残念ながら少ない。そこで、各自治体史はもとより地元の情報収集機関（歴史資料館・図書館・教育委員会等）、当該神社やその氏子などの方々にも情報提供でお世話になっている。ただし当方の調査不足で不備・誤謬が少なからずあると思われる。新たな情報提

供も含めご教示願えれば幸いである。

祭神収集の典拠資料で略称を用いたものは、次のようである。

本庁データ＝神社本庁「全国神社祭祀祭礼総合調査」のデータ
（「平成祭データ」）

名鑑＝神社本庁調査部編『神社名鑑』（神社本庁、一九六二年）

全国＝全国神社名鑑刊行会史学センター 編刊『全国神社名鑑』上・
下（一九七七年）

神社誌料＝明治神社誌料編纂所編『明治神社誌料』上・中・下（講
談社、一九七五年復刊）

東照宮＝高橋晴俊『家康公と全国の東照宮』（東京美術、一九九二
年）

なお、本項は祭神確認の典拠資料記載を基本としている。したがって、
『国史大辞典』（吉川弘文館）、『藩史大事典』（雄山閣）や各種の人名・地
名辞典など、多くの辞事典類も各項記述にあたり参照したが、自治体史類
などとともに特に記す必要性があると判断される場合を除き割愛した。ま
た、機関名・組織名・人名は、各項の記述内容が直接にこれらの聞取対象
者の情報にもよることを示す。

謝 辞

本稿作成に当たっては先述のように多くの方にお世話になった。厚く御
礼申し上げたい。とくに各地域の神社や寺院、その氏子や檀家などの方々
から貴重なお話を多々うかがわせて頂いた。神社本庁教学研究所瀬尾芳也
氏・福岡県神社庁望月司郎氏には私にとっては不慣れな祭神調査について、
当方の研究意図をご理解いただき資料閲覧等で格別のご高配を頂戴した。
また國學院大學附属図書館にも大変お世話になった。さらに高橋晴俊氏の
著作からも多くのデータを採録させて頂いた。記して謝辞のしるしとする。

追記 本稿は科学研究費補助金・基盤研究（C）（2）（平成13～16年度）課題
番号 13610390（研究代表者・高野信治）「民俗神や民族神との関係分析を
通した近世武家権力神の基礎的研究」の研究成果の一部である。

武士神格化一覧

武士神格化一覧・稿（上・東日本編）

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
(北海道)				
池田忠継	鳥取神社（東神社）	明治33	旧鳥取藩士	北海道岩見沢市東
池田忠雄	鳥取神社（東神社）	明治33	旧鳥取藩士	北海道岩見沢市東
池田光仲	鳥取神社（東神社）	明治33	旧鳥取藩士	北海道岩見沢市東
池田慶徳	鳥取神社（東神社）	明治33	旧鳥取藩士	北海道岩見沢市東
*石川昭光(源)	幡守神社	明治7	角田領旧臣	北海道室蘭市石川町
*石川有光(源)	幡守神社	明治7	角田領旧臣	北海道室蘭市石川町
*加藤清正	江別神社	明治18		北海道江別市萩ヶ岡
小山隆政	岩城神社（泊神社境内社）			北海道松山郡江差町田沢村
佐藤信景	開拓神社（北海道神宮境内社）	昭和13		北海道札幌市中央区宮ヶ丘
武田信広(蠣崎若狭守信広)	松世祠（松前神社）	*江戸期	松前氏	北海道松前町松城
武田信弘	開拓神社（北海道神宮境内社）	昭和13		北海道札幌市中央区宮ヶ丘
武田信広	夷王山神社(上ノ国八幡宮境内社)			北海道松山郡上ノ国町上ノ国
伊達邦直	阿蘇神社（当別神社）	明治29	旧臣	北海道石狩郡当別町元町
伊達邦直	開拓神社（北海道神宮境内社）	昭和13		北海道札幌市中央区宮ヶ丘
*伊達邦成	伊達神社	明治8	伊達邦成	北海道伊達市末永町
徳川家康	鳥取神社（東神社）	明治33	旧鳥取藩士	北海道岩見沢市東
徳川家康	東照宮	寛政年間	幕府	北海道函館市陣川
徳川家康	エトロフ東照宮	文化2	山田鯉兵衛	択捉島紗那
徳川家康	フウレベツ東照宮	安政年間頃	択捉島振別	
鍋島直正	開拓神社（北海道神宮境内社）	昭和13		北海道札幌市中央区宮ヶ丘
*鍋島直正	上川神社	明治26		北海道旭川市神楽岡公園
蜂須賀家政	雨竜神社	明治29	雨竜町開拓移住者・蜂須賀農場関係者	北海道雨竜郡雨竜町満寿
前田利家	前田神社	明治20		北海道岩内郡共和町前田
*松平直政	興国神社	明治27	松平直亮	北海道旭川市上川郡東鷹栖
*松平康長	雨竜神社	大正4	雨竜町開拓移住者・蜂須賀農場関係者	北海道雨竜郡雨竜町満寿
*松前広峰	徳山大神宮			北海道松前郡松前町
松前慶広	開拓神社（北海道神宮境内社）	昭和13		北海道札幌市中央区宮ヶ丘
*源為朝	徳山大神宮			北海道松前郡松前町神明

備 考	典 拠
池田岡山藩初代藩主。弟忠雄の子光仲が鳥取藩主として入封。明治33年鳥取県より移住した藩士などにより傍谿神社を勧請、鳥取神社と称した。明治39年東神社と社号変更	北海道神社庁誌 p451
池田岡山藩 2代藩主。子の光仲が鳥取藩主として入封	北海道神社庁誌 p451
池田岡山藩 2代藩主忠雄の子。光仲が鳥取藩主として入封	北海道神社庁誌 p451
幕末維新期の池田鳥取藩主	北海道神社庁誌 p451
近世初期に陸奥石川より角田移封、角田城主。伊達政宗叔父。明治3年角田領主石川邦光の家臣が室蘭に移住。明治7年石川氏氏神として祀られていた角田の幡守神社の分霊を遷座	北海道神社庁誌 p611
平安中期の初代陸奥三芦城主。石川氏祖	北海道神社庁誌 p611
明治18年北海道開拓のため、熊本県より入植した屯田兵の守護神として江別市飛鳥山の地に建立。明治28年現在地へ移る	本庁データ
蠣崎氏重臣で泊城主。蠣崎信広に長禄3年、謀反のかどで滅ぼされる	本庁データ
出羽の人。元禄年間に蝦夷地で稲作に成功という	本庁データ
松前家にて当初松世祠を設け代々の神霊を奉斎。明治となり松世祠に祀られていた松前藩祖の信広を旧福山城北の丸址を境内地として社殿建立	北海道神社庁誌 p305
開道70年にあたり、北海道開拓功労者36柱を奉斎した一つ	北海道神社庁誌 p231
本社は、文明5年、武田信弘の創祠で、居城勝山館の鎮護神として創立。古くは館上八幡宮。慶長3年上ノ国村人の創祀した相殿大蔵明神は漁業神	本庁データ
明治5年伊達邦直（幕末・明治期の仙台藩一門岩出山領主）は当別に移り小社を移遷し阿蘇神社とする。邦直死去後まつる	北海道神社庁誌 p259
	北海道神社庁誌 p231
武豊大神他へ配祠。明治2年旧仙台亘理領主伊達邦成が有珠郡支配を命じられ、開拓の業のため旧田とともに移住。亘理郡鹿島村の鹿島天足和气神社を分祭、移遷。昭和10年邦成らを合祀	全国上 p21
入植者が創祠	北海道神社庁誌 p451
幕府、外敵追討の志気鼓舞のため東照宮をおく議を奏上。寛政11年東叡山等持院僧正に命じ攘夷・北島開拓の祈祷を修す。安政年間社殿造営。平成4年に宝来町より現在地へ移遷	名鑑 p6
山田は幕臣。日光大権現社勧請。文化4年ロシアの兵火で焼失し廃絶	東照宮 p136
観世音を祀るとされるが東照宮の可能性	東照宮 p139
幕末期佐賀藩主。初代北海道開拓使長官	北海道神社庁誌 p231
天照大神を奉祀した本社に黒田清隆・永山武二郎等と合祀	北海道神社庁誌 p504
蜂須賀農場中興の祖家政を祭神とする徳島の国端彦神社の分霊をまつる	北海道神社庁誌 p486
加賀藩祖。移住者の定着心喚起のため建立出願。金沢尾山神社の分霊をうける	北海道神社庁誌 p413
出雲松江藩祖。大国主命と合祀。松平農場開設の際、出雲大社と松江神社を勧請	北海道神社庁誌 p501
近世初期大名で戸田家中興の祖康長を合祀して、雨竜神社と改称	北海道神社庁誌 p486
本社の創立年代不詳。承応元年、松前高広が伊勢の内宮・外宮を勧請	本庁データ
初代松前藩主	北海道神社庁誌 p231
本社の創立年代不詳	北海道神社庁誌 p306

祭 神 名	祭 祀 社	創祀時期	創 祀 者	所 在 地
源經基	幡守神社	明治7	角田領旧臣	北海道室蘭市石川町
源義経	義経神社	寛政10	近藤重蔵等	北海道沙流郡平取町
毛利敬親	大江神社	明治20	移住村民	北海道余市郡仁木町大江
毛利元徳	大江神社	明治20	移住村民	北海道余市郡仁木町大江
最上徳内	開拓神社（北海道神宮境内社）	昭和13		北海道札幌市中央区宮ヶ丘
（青 森）				
*大浦光信	種里神社	慶長2	津軽為信	青森西津軽郡鰺ヶ沢町
*北畠顕家	谷地頭神社	*昭和27	地域民	青森三沢市三沢
*北畠顕成	八甲田神社	昭和30年代	有志	青森青森市幸畑
*北畠顕信	八甲田神社	昭和30年代	有志	青森青森市幸畑
北畠顕信	谷地頭神社	昭和27	地域民	青森三沢市三沢
*北畠親治	八甲田神社	昭和30年代	有志	青森青森市幸畑
*北畠親能	八甲田神社	昭和30年代	有志	青森青森市幸畑
*北畠守親	八甲田神社	昭和30年代	有志	青森青森市幸畑
*進藤庄兵衛	廣田神社			青森青森市長島
津軽信英 （十郎左衛門）	黒石神社	明治12		青森黒石市市ヶ町
津軽信政	高岡神社（高照神社）	正徳1	津軽信寿 （信政嗣）	青森中津軽郡岩木町百沢
津軽為信	高照神社	明治10		青森中津軽郡岩木町百沢
徳川家康	東照宮	元和3	津軽信枚	青森弘前市笹森町
*成田泰次	八甲田神社	昭和30年代	有志	青森青森市幸畑
*南部直房	祖霊社（三八城神社）	明治4	南部家	青森八戸市内丸
*南部光行	祖霊社（三八城神社）	明治4	南部家	青森八戸市内丸
南部光行	糠部（ぬかべ）神社	明治12	佐藤連之介	青森三戸郡三戸町梅内
藤原頼秀	戸建沢神社	大正13	住民	青森青森市鶴ヶ坂
*源義家	八甲田神社	昭和29	小笠原氏	青森青森市幸畑
*源義光	八甲田神社	昭和29	小笠原氏	青森青森市幸畑
源義光（新羅三郎義光）	新羅宮（三八城神社）	元禄2	南部家	青森八戸市内丸
源義光（新羅三郎）	新羅神社	慶長12	小宮山内緒	青森上北郡十和田湖町奥瀬
源義光（新羅三郎）	三社堂（虚空堂、新羅神社。現在は長者山新羅神社）	延宝6カ	南部直政	青森八戸市長者

備 考	典 拠
清和源氏の祖とされる。石川氏祖として陸奥角田の幡守神社に再祀されていたが、明治3年角田領主石川邦光の家臣が室蘭に移住し、同7年幡森神社の分霊を遷座	北海道神社庁誌 p611
義経伝説を辿り神像を勧請	名鑑 p17
幕末維新期の長州藩主。八幡大神と合祀。明治14年毛利元徳が長州の士民の移民開拓を企図、毛利家の祖大江広元の姓をとって大江の里とした。村民が山口県の野田神社の毛利敬親の分霊を勧請、のちに元徳を合祀し産土神とした	北海道神社庁誌 p400
毛利藩最後の藩主。明治14年毛利元徳が長州の士民の移民開拓を企図。敬親にのち元徳を合祀し産土神とした	北海道神社庁誌 p400
北海道開拓功労者36柱を奉斎した一つ	北海道神社庁誌 p231
本社は、大永3年大浦光信の創建。慶長2年為信本殿拝殿を再建し、光信を合祀、30石寄進	名鑑 p29
南北朝時代の公卿、武將。北畠親房の長男。陸奥守・鎮守府大將軍歴任	本庁データ、青森県の神社 p198
北畠顯家の子。初代浪岡城主という。津輕氏に敗れたとされる	八甲田神社、青森県の神社 p14
南北朝時代の公卿、武將。北畠親房の二男。南部氏に頼るが八幡平に敗れるという	八甲田神社、青森県の神社 p14
親房没600年を期して北畠家歴代をまつる小社建立	本庁データ、青森県の神社 p198
伊勢国司初代北畠顯能の弟顕雄の子孫。一志郡小原に住み北畠一族として北畠また小原氏を称した。歌人として著名な国永の父。永正10年戦死	八甲田神社
北畠顯信の孫	八甲田神社
南朝方武將。北畠顯信の二男	八甲田神社
近世初めの津輕藩家老・青森城代	本庁データ
信英は宗家2代藩主信枚の二男で明暦2年分知し黒石津輕氏創設（旗本）。これをもとに文化6年津輕親足が宗家弘前藩より黒石藩を立藩	青森県の神社 p116
4代津輕藩主。信政の嗣信寿が信政を岩木山麓高岡にまつり、高岡神社と称す。享保15年高照神社と改称し、当地に移す	名鑑 p29、青森県の神社 p100
初代津輕藩主	青森県の神社 p100
信枚は2代津輕藩主。秀忠の許しを得て城内に勧請。寛永元年城の東方淵川に移り、同5年社殿造営。藩費直祭社	青森県の神社 p89
鎮守府將軍北畠顯家の配下で津輕平内城などを北朝方に対し守備した	八甲田神社
直房は初代八戸藩主。新羅宮を経て祖霊社と称したものに、直房・光行を合祀、明治7年三八城（みやき）社と改称	青森県の神社 p260
南部氏の祖。新羅宮を経て祖霊社と称したものに、直房・光行を合祀、明治7年三八城（みやき）社と改称	青森県の神社 p260
糠部城跡に社殿建立。旧南部藩主佐藤の主唱による	青森県の神社 p264
父秀直は安東氏と戦い戦死。頼秀は炭焼藤太と称し隠棲。のち北条時頼と関係を結び、津輕六部の管領職	青森市史社寺編 p254
平安時代後期の武將。源頼義長男で、元服して八幡太郎。本社創設者小笠原氏が甲斐源氏出身で先祖神として祀る	八甲田神社
平安後期の武將。新羅明神の前で元服したので新羅三郎と呼ばれた。本社創設者小笠原氏が甲斐源氏出身で先祖神として祀る	八甲田神社
南部家が新羅義光を邸内に勧請、新羅宮と称し、年々祭祀を行う。明治4年八戸町に移遷し祖霊社と称す。同7年三八城（みやき）社と改称	青森県の神社 p260
源義光の子、武田義清の孫、遠光の三男・三郎光行が南部氏の祖とされる	青森県の神社 p202
八戸南部2代藩主直政が藩主守護、領内安全のため素佐鳴命とともにまつる。明治27年新羅神社。昭和51年現称	青森県の神社 p256

祭 神 名	祭 祀 社	創祀時期	創 祀 者	所 在 地
*源義光（新羅三郎）	七崎神社			青森八戸市七崎
源義光（新羅三郎）	新羅神社	建久3	南部光行	青森三戸郡南部町神田面
（岩 手）				
猪狩右馬尉諸深	川内明神（八幡神社）	承久2		岩手下閉伊郡川井村川内
下斗米秀之進将実（相馬大作）	大作神社（吞香稲荷神社境内社）			岩手三戸市福岡
南部光行	桜山神社	文化15		岩手盛岡市内丸
南部実長	鍋倉神社（南部神社）	明治15		岩手遠野市東館
南部実継	鍋倉神社（南部神社）	明治15		岩手遠野市東館
南部長継	鍋倉神社（南部神社）	明治15		岩手遠野市東館
南部師行	鍋倉神社（南部神社）	明治15		岩手遠野市東館
南部政長	鍋倉神社（南部神社）	明治15		岩手遠野市東館
南部信政	鍋倉神社（南部神社）	明治15		岩手遠野市東館
南部信光	鍋倉神社（南部神社）	明治15		岩手遠野市東館
南部政光	鍋倉神社（南部神社）	明治15		岩手遠野市東館
南部信直	淡路丸大明神（桜山神社）	寛延2	南部利視	岩手盛岡市内丸
南部利直	桜山神社	大正1		岩手盛岡市内丸
南部利敏	桜山神社	大正1		岩手盛岡市内丸
藤原忠衡	八雲神社			岩手花巻市幸田
源経基	和賀神社（八幡神社境内社）			岩手北上市二子町
源義家八幡太郎	白旗神社		村人	岩手岩手郡岩手町子抱
源義家	白幡神社（八穂茂神社境内社）			岩手胆沢郡前沢町中村
*源義家	日高神社			岩手水沢市日高小路
源頼基	尾崎神社	承久2		岩手釜石市浜町
源頼基	尾崎神社			岩手釜石市平田
*源頼基	荒神社			岩手下閉伊郡山田町船越
*源頼義	日高神社			岩手水沢市日高小路
*留守家景	瑞山神社（日高神社境内社）			岩手水沢市日高小路
留守宗利	保栄堂（のち日高神社境内社）	江戸期	留守家景	岩手水沢市日高小路
（宮 城）				
安倍宗任（鳥海弥三郎）	鳥海神社		漁民	宮城牡鹿郡牡鹿町給分浜
*石川有光	八幡神社			宮城角田市角田

備 考	典 拠
	本庁データ
南部光行が甲斐より当地下行に際し祭祀という	青森県の神社 p275
祭神は源頼基の家臣。古来、川内明神という	岩手県神社名鑑 p336
江戸時代中期の兵法武術家。津輕藩 9 代藩主寧親が幕府重臣に賄路を使い、大作が尊敬した岩手藩主利敬と並ぶ官位を得たことに義憤を抱き、参勤交代の帰路に襲撃（津輕侯要撃事件）。これがもって捕縛	本庁データ
南部藩初代藩主信直をまつた桜山神社に文化15年南部氏祖光行を合祀	名鑑 p12
南朝方に与した、南部実長と実継・長継・師行・政長・信政・信光・政光の 8 代を合祀。明治19年、社殿建立、昭和29年南部神社に改称	名鑑 p38、岩手県神社名鑑 p285
南朝方に与した、南部実長ら 7 名と合祠	名鑑 p38、岩手県神社名鑑 p285
南朝方に与した、南部実長ら 7 名と合祠	名鑑 p38、岩手県神社名鑑 p285
南朝方に与した、南部実長ら 7 名と合祠	名鑑 p38、岩手県神社名鑑 p285
南朝方に与した、南部実長ら 7 名と合祠	名鑑 p38、岩手県神社名鑑 p285
南朝方に与した、南部実長ら 7 名と合祠	名鑑 p38、岩手県神社名鑑 p285
南朝方に与した、南部実長ら 7 名と合祠	名鑑 p38、岩手県神社名鑑 p285
南朝方に与した、南部実長ら 7 名と合祠	名鑑 p38、岩手県神社名鑑 p285
8 代南部藩主の利親が26代当主信直（南部藩初代藩主）の神霊を勧請して淡路丸大明神と称した。文化 9 年、旧地の名にちなみ桜山神社と改称	岩手県神社名鑑 p12
2 代南部藩主。信直の長子で盛岡城完成、盛岡の町作りを成し遂げ盛岡の基礎を築く	岩手県神社名鑑 p12
11代南部藩主。蝦夷地警備にあたる	岩手県神社名鑑 p12
素盞鳴命他と合祀。藤原忠衡が当地に土木事業を興し完成を祈り承久年中に主神奉斎。悪病退散の信仰があつた。合祀時期は不詳	名鑑 p37
清和源氏の祖とされる	本庁データ
安倍頼時征討に父の鎮守府將軍陸奥守源頼義に従った際、ここで義家が弓を放ち軍兵力づくという伝承あり。後に村人神堂造営	岩手県神社名鑑 p30
	岩手県神社名鑑 p176
康平 5 年安倍貞任征討に父の鎮守府將軍陸奥守源頼義に従う	岩手県神社名鑑 p165
承久 2 年、頼基が死に際し、自分を海神に祀れとの遺言あり、故に尾崎明神に合祀。元禄12年釜石港に里宮を建立し、奥宮より霊代を奉斎、船祭を行う	名鑑 p35
承久 2 年、頼基が死に際し、「我、東海の守護神とならむ」との遺言により、日本武尊と合祀。享保 4 年大明神号、寛政11年正一位尾崎大明神となる	岩手県神社名鑑 p294
不詳。神社は享保 2 年勧請	岩手県神社名鑑 p328
康平 5 年安倍貞任征討に鎮守府將軍として赴く	岩手県神社名鑑 p165
鎌倉初期武將。留守氏祖	岩手県神社名鑑 p166
留守氏を祖とする水沢伊達氏初代。寛永15年卒。保榮堂は嘉永 6 年宮城郡志波神社境内より移される	岩手県神社名鑑 p166
宗任（島海弥三郎）は前九年の役で滅びた安倍貞任の弟で、北上川を下り大原湾で兵法を取り入れた漁法を考案、漁民に教える。正慶 2 年の島海大明神社への奇進状あり	岩手県神社名鑑 p49
角田領主石川氏祖先源頼遠の長子	宮城県神社名鑑 p119

祭 神 名	祭 祀 社	創祀時期	創 祀 者	所 在 地
*石川昭光	八幡神社			宮城角田市角田
*岡田義寿	八幡神社			宮城角田市角田
*片倉景綱（小十郎）	神明社			宮城白石市益岡町
*鎌田清慎	八幡神社			宮城角田市角田
九戸政実	九ノ戸神社（雄鋭神社境内社）			宮城栗原郡栗駒町稲屋敷高松
*鈴木忠吉（鈴木善兵衛）	八幡神社			宮城角田市角田
*伊達綱村	青木神社		邑民	宮城塩竈市南町
伊達成実（武早智雄命）	亘理神社	明治12	亘理郡民	宮城亘理郡亘理町
伊達政宗	青葉神社	明治 7		宮城仙台市青葉区青葉町
*伊達政宗	八幡神社（大崎八幡神社）			宮城玉造郡岩出山町下野目
*伊達政宗	愛宕神社	*大正 5		宮城刈田郡七ヶ宿町浦山
伊達宗重	涌谷神社	明治 7	旧臣	宮城遠田郡涌谷町涌谷
徳川家康	仙台東照宮	慶安 2	伊達忠宗	宮城仙台市青葉区東照宮
徳川家康	仙岳院東照宮	江戸期		宮城仙台市青葉区東照宮
徳川家康	奥山東照宮	江戸期		宮城仙台市カ
*永窪正福	八幡神社			宮城角田市角田
*中村朝安	八幡神社			宮城角田市角田
布施定安	布施神社（新弓町八幡神社境内社）			宮城仙台市若林区新弓ノ町
布施備前	布施神社（新弓町八幡神社境内社）			宮城仙台市若林区新弓ノ町
源為朝	為朝神社	文化 4		宮城仙台市青葉区川内仲ノ瀬
源為朝	八龍神社	慶長12		宮城伊具郡丸森町館矢間
*源経基	八幡神社			宮城角田市角田
*源融	浮島神社			宮城多賀城市浮島
源義家	鉾附神社			宮城刈田郡蔵王町矢付
源義家	八幡神社（日高見神社境内社）			宮城桃生郡桃生町太田
*三浦吉可	八幡神社			宮城角田市角田
*迎徳弘（但馬）	八幡神社			宮城角田市角田
護良親王供奉侍	朝臣宮			宮城石巻市川口町
*亘理元安	日枝神社	文禄 3	亘理家	宮城遠田郡田尻町大貫
(秋 田)				
生駒親正	矢島神社	明治15	旧家臣・領民	秋田由利郡矢島町城内
生駒親敬	矢島神社	明治30	旧家臣・領民	秋田由利郡矢島町城内
*梅津憲忠	神明社	明治43		秋田秋田市仁井田
*梅津忠国	神明社	明治43		秋田秋田市仁井田
*梅津利忠	神明社	明治43		秋田秋田市仁井田
*梅津忠寛	神明社	明治43		秋田秋田市仁井田

備 考	典 拠
角田領主石川氏祖先で陸奥国石川郡広川城主。慶長3年角田に移る	宮城県神社名鑑 p119
近世初期角田領主石川昭光に追腹した家臣の一人	石川氏一千年史
景綱か。伊達家家臣で慶長7年この地の領主	本庁データ
近世初期角田領主石川昭光に追腹した家臣の一人	石川氏一千年史
南部九戸氏24代。豊臣秀吉軍により滅亡	本庁データ
近世初期角田領主石川昭光に追腹した家臣の一人	石川氏一千年史
貞享期の施政の恩に対し、祀ったという	宮城県神社名鑑 p62
奥州探題伊達種宗三子実元の子で亘理・宇田両郡地頭。成実が築いた臥牛城本丸を境内とし、地元開拓の霊をしのいで祀る	全国上p93
明治6年、神社創建が請願、翌年許可	宮城県神社名鑑 p13
天正18年大崎氏を滅亡させ、伊達政宗が当地に入る。仙台に移っても八幡神社を城に勧請。昭和46年大崎八幡神社に改称	宮城県神社名鑑 p232
愛宕神社に大正5年、村内各社を合祀	本庁データ
涌谷伊達氏4代の宗重は伊達騒動の中心人物の一人で忠臣とされる	宮城県神社名鑑 p238
社地は家康が天正19年葛西大崎一揆討伐の際の休憩地という。承応3年竣工。城下24町は9月27日に祭礼を行う（仙台祭）。	名鑑 p47, 宮城県神社名鑑 p11
仙台東照宮別当寺境内か	東照宮 p200
	東照宮 p200
近世初期角田領主石川昭光に追腹した家臣の一人	石川氏一千年史
近世初期角田領主石川昭光に追腹した家臣の一人	石川氏一千年史
享保2年石清水八幡宮より本社祭神の分霊創祠	宮城県神社名鑑 p16
	宮城県神社名鑑 p16
天正18年の秀吉の小田原攻めに際し、伊達政宗は為朝の靈力に救われたため、歴代崇敬したという。また文化年間の北辺警備に際し、藩士のお守りにされたとも。難航・水難除け、鎮火・耳疾などの信仰も	宮城県神社名鑑 p7
明治5年村社	宮城県神社名鑑 p132
清和源氏祖という。北海道に勧請されるという	北海道神社庁誌 p611
不詳。出羽按使として多賀城に赴任という	宮城県神社名鑑 p67
義家が安倍貞任追討に際し、射た矢が当地についたので義家を祀ったという	宮城県神社名鑑 p102
不詳。明治40年八幡神社は日高見神社に合祀	宮城県神社名鑑 p356
近世初期角田領主石川昭光に追腹した家臣の一人	石川氏一千年史
近世初期角田領主石川昭光に追腹した家臣の一人	石川氏一千年史
護良親王を鎌倉より当地まで供奉した侍。日下・日野・毘羅塚・福原・淵辺の各氏。名は不詳	宮城県神社名鑑 p31
文禄3年涌谷初代館主亘理元安が死ぬと遺骸を加護峯山に葬ったが、後に日枝神社山王権現に合祀	宮城県神社名鑑 p252
生駒家先祖。同氏は讃岐高松より生駒騒動で改易、当地に減封で入部。万治2年以降二家に分かれ旗本、江戸在住。明治15年、親正を祭祀、後に旧臣等が出願	秋田県神社名鑑 p246
生駒親正に最後の勤皇者として合祀	秋田県神社名鑑 p246
祭神は秋田藩家老で元和2年仁井田開発成就の礼として羽黒山より湯殿山より本社勧請。明治43年梅津氏歴代合祀	秋田県神社名鑑 p148
梅津憲忠を初代として2代目	秋田県神社名鑑 p148
梅津憲忠を初代として3代目	秋田県神社名鑑 p148
梅津憲忠を初代として4代目	秋田県神社名鑑 p148

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
大塚甚十郎清好	大塚甚十郎社（熊野神社境内社）			秋田能代市河戸川
* 川村新吉	保量神社	安政4以降		秋田秋田市四ツ小屋末戸松本
栗田定之丞如茂	栗田大人（栗田大明神、栗田神社）	文政11	肝煎佐藤東四郎、大門武兵衛	秋田秋田市新屋
佐竹義宣	秋田神社（八幡秋田神社）	明治11	旧藩士	秋田秋田市千秋公園
佐竹義宣	佐竹神社（神明社境内社）	昭和36		秋田男鹿市船川港船川
佐竹義宣	秋田神社	明治12	地域民	秋田横手市城山町
佐竹義和	秋田神社（八幡秋田神社）	明治11以降	旧藩士	秋田秋田市千秋公園
佐竹義堯	秋田神社（八幡秋田神社）	明治11以降	旧藩士	秋田秋田市千秋公園
佐竹義堯	秋田神社	明治22		秋田横手市城山町
* 佐竹義久	東館神社	明治初期	旧家臣	秋田秋田市栖山南新町
菅原清ヱ門	菅精神社（桂清水神社境内社）			秋田北秋田郡北内町笹館
平国香	天鷲神社	元和9	岩城吉隆	秋田由利郡岩城町亀田
千葉秀胤	三哲権現（三哲神社）	寛文12	町民	秋田大館市十二所
徳川家康	秋田東照宮	元禄13	佐竹氏	秋田秋田市矢橋
* 中川六右衛門	蛭子神社	弘化4	地域民	秋田秋田市下新城中野
南部光行	桜山護国神社（神明社）			秋田鹿角市花輪
南部信直	桜山護国神社（神明社）			秋田鹿角市花輪
南部利直	桜山護国神社（神明社）			秋田鹿角市花輪
南部利敬	桜山護国神社（神明社）			秋田鹿角市花輪
仁賀保友拳（ともきよ）	仁賀保神社			秋田由利郡仁賀保町平沢
仁賀保拳誠（きよしげ）	仁賀保神社			秋田由利郡仁賀保町平沢
* 八郎太郎	大湯神社	昭和53	村民	秋田南秋田郡大湯村西
藤原三吉（大平山城主）	三吉神社		地域民	秋田秋田市太平木曾石
藤原茂盛	行者神社（八幡神社境内社）	江戸期		秋田大館市八幡
藤原泰衡	錦神社	文治5	里人	秋田大館市二井田上出向
藤原泰衡	兜神社			秋田山本郡二ツ井町切石
藤原泰衡	鎧神社			秋田山本郡二ツ井町榎木
藤原泰衡の妻	西木戸神社（西館神社境内社）	文治5	里人	秋田北秋田郡北内町
源義家（八幡太郎義家）	八幡神社	寛政期以降	小林一族以降	秋田北秋田郡田代町早稲
源義家（八幡太郎義家）	岩清水神社	明暦3	地域民	秋田能代市浅内
源義家（八幡太郎義家）	八幡神社	天正・文禄頃	石塚氏（津波岐館主）	秋田河辺郡雄和町椿川
源義家	兜八幡神社（金沢八幡宮境内社）			秋田横手市金沢

備 考	典 拠
祭神は河戸川地区開墾に尽力し、天明飢饉に際しては自分の土蔵を開き村民を救ったという。その徳を称える座像が作られた	秋田県神社名鑑 p79
末戸松本地区が明和2年開拓された折、本社創建。功労者の川村新吉（安政4死去）が合祀される	秋田県神社名鑑 p153
秋田藩士であった栗田が藩命で文化年間、新屋に防砂事業を行う。文政10年の没後翌年に小祠に祀られる	秋田県神社名鑑 p165、栗田神社
初代秋田藩主。本社は明治40年、歴代藩主が崇敬した八幡神社と合祀	秋田県神社名鑑 p171
昭和36年に新築造営。地元漁民の鱸大漁の信仰者が多い	秋田県神社名鑑 p113
秋田から佐竹義宣を祀る秋田神社分社	秋田県神社名鑑 p374
9代秋田藩主	秋田県神社名鑑 p171
12代秋田藩主	秋田県神社名鑑 p171
秋田神社・佐竹義宣に合祀	秋田県神社名鑑 p374
佐竹五家筆頭の東家4代義久を武神として蓮乗寺が改った少彦名神社と合祀	秋田県神社名鑑 p171
	本庁データ
岩城氏が国香を岩城平（磐平）で祭祀。元和9年移封の際、現在地亀田に勧請	秋田県神社名鑑 p239
祭神別名下戸前常政。武芸・医術・文学拔群で医名を三哲といった。城代塩谷茂綱の悪政に対し上納米を貧民に施したとして斬首。城下大火で祟りを恐れ町民などが祀ったという。伝承に異説あり	十二所歴代城代 p10、大館市史 2 p699、秋田県神社名鑑 p33
秋田城内に創祠。別当寿量院。明治4年廃絶か	東照宮 p74
中川氏は落武者としてこの地に定着。肝煎の中川六右衛門（通名）が防砂の植林を私財を投じて実施。蛭子神に合祀	秋田県神社名鑑 p162、蛭子神社
源頼朝にしたがった南部氏祖	本庁データ
初代南部藩主	本庁データ
2代南部藩主	本庁データ
11代南部藩主	本庁データ
友拳は応仁元年に信州より下向し仁賀保郷を統治。祭祀由来不詳	秋田県神社名鑑 p224
拳誠は元亀一元和期に活動、一万石の大名に徳川將軍家より取立て。死去後、旗本領として分知	秋田県神社名鑑 p224
八郎湯の主として信仰されてきた	本庁データ
三吉は大平山城主で大井氏を滅ぼす。地域民が三吉神社と崇敬。秋田藩も崇敬社に列する	神社誌料上 p31
武士であるものの行者となっていた茂盛が佐竹氏の狩の際に兔に間違われ射られ死亡。当初は竹藪の祠であったという	八幡神社
奥州藤原氏4代。哀れんで祀ったという伝承	比内町役場
口承では奥州藤原氏4代泰衡が源頼朝に追われ逃げる途中、疲れ当地で兜を脱ぎ捨てたという	秋田県神社名鑑 p91
	本庁データ
哀れんで祀ったという伝承。江戸期には田の神とともに祀る	菅江真澄全集3、p410
由緒不詳だが、寛政期に中仕田地区を開いた小林一族が鎮守として創立したという伝承もある	秋田県神社名鑑 p60
明暦3年、菅田別命とともに祀ったという	秋田県神社名鑑 p78
天正・文禄期に武神として石塚氏が崇敬。寛保年中に館が火災にあうなどしてすたれたが、郷民により産土神とされ、安永5年には郷民作右衛門などにより堂宇建立	秋田県神社名鑑 p194
本社金沢八幡宮は源義家が石清水八幡宮を勧請したのに由来という。その本社を佐竹氏再興	秋田県神社名鑑 p376

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
*源義家	八幡神社			秋田仙北郡角館町雲然
*源義貴	八幡神社			秋田仙北郡角館町雲然
*源義経	内野神社（熊野神社）	鎌倉初期		秋田能代市磐
*源頼朝	神明社			秋田横手市黒川
六郷政乗（藤原）	霊神社（本莊神社）	享保3	六郷政林	秋田本莊市戸町
渡辺斧松	渡辺神社	大正15		秋田南秋田郡若美町弘戸
（山形）				
*安達盛長	水神社	慶長7	住民	山形東田川郡藤島町東堀越
*上杉景勝	松岬（まつがさき）神社	明治35		山形米沢市丸の内
上杉謙信	祠堂（上杉神社）	慶長6	上杉景勝	山形米沢市丸の内
上杉斎憲	上杉斎憲の碑			山形米沢市丸の内
上杉治憲	上杉神社（松岬神社）	明治4		山形米沢市丸の内
*上杉治憲	羽黒神社	昭和10カ		山形米沢市関根
織田信長	建勲神社	明治2	織田信敏	山形天童市天童
鎌倉景政（権五郎景政）	景政神社（熊野神社境内社）			山形南陽市宮内
菊池藤五郎	高松神社	大正13		山形寒河江市松川
北館利長（大学）	北館神社	安永7	水利系住民	山形東田川郡立川村狩川
北畠顕信	北畠神社	大正7	住民	山形天童市荒谷
北畠親房	北畠神社	大正7	住民	山形天童市荒谷
清河八郎正明	清河神社	大正15		山形東田川郡立川町清川
酒井忠次	荘内神社	明治初年		山形鶴岡市馬場町
*酒井忠次	中山神社			山形飽海郡松山町宇内町
酒井家次	荘内神社	明治初年		山形鶴岡市馬場町
酒井忠勝	三上神社			山形飽海郡八幡町前川
酒井忠勝	荘内神社	明治初年		山形鶴岡市馬場町
酒井忠徳	荘内神社	大正12		山形鶴岡市馬場町
酒井忠器（ただたか）	粥座神社（石船神社境内社）			山形酒田市浜中
酒井忠器	若宮大明神（酒井神社）	嘉永7	領民	山形鶴岡市馬町
酒井忠發（ただあき）	若宮大明神（酒井神社）	明治10カ	地域民	山形鶴岡市馬町

備 考	典 拠
義家が当地の清原清斉と和睦した地が現八幡神社という。合祀の由来不詳	秋田県神社名鑑 p278
源義家との関係で合祀か	本庁データ
鎌倉期初めには祀られていたというが、詳細は不詳	秋田県神社名鑑 p80、 神社氏子総代
	本庁データ
六郷政乗、元和9年本荘入部。死去後5代の六郷政林が霊神社建立。明治3年諏訪社を合祀後、同12年現名に改称	秋田県神社名鑑 p217
祭神は足軽。文政年間に南秋田郡弘戸村広野を開墾。祭神を渡辺神社（明治29年に今木神社より改称）に合祀	秋田県神社名鑑 p136
源頼朝の東北遠征の際、安達が腹痛、神夢の清水で治癒。建久2年、水の霊を創祠。村中民は服用水を感謝、慶長7年盛長の霊を合祀	山形県神社誌 p525
松岬神社へ配祠	山形県神社誌 p307
越後春日山城に没した謙信の遺骸を不識庵に仏式で鎮祭、会津移封を経て慶長6年米沢城中に祠堂を移遷。明治4年上杉斎憲が神祭に改め、同時に上杉治憲を合祀。翌年、上杉神社と改称。同35年治憲を分祠	名鑑 p84
12代米沢藩主。明治4年斎憲は謙信を神祭に改め、同時に治憲を合祀	名鑑 p84
明治4年上杉神社創建の時、上杉謙信と上杉治憲を合祭。明治35年上杉神社の別格官幣社昇格にあたり、治憲は摂社として祀るよう達あり、松岬神社と称す	名鑑 p88
倉稲魂命他と合祀。出羽羽黒山の神木で仏像を彫り、大窪沢山の頂上に社殿をたて羽黒大権現と称して祭祀（大同1）。明治5年大惣忌神社、昭和7年に現名に改称。昭和10年治憲ゆかりの地として文部省史蹟指定	名鑑 p89
文政11年天童に織田信美が移封されて以来、明治に至る。明治2年天童藩知事織田信敏の誓願により「建織田社」の宣下。同3年、建勲社と改称、舞鶴山に神社創立。同17年に現在地に移遷	名鑑 p97、全国上 p136
本社熊野神社は古社で、上杉氏の祈禱所	本庁データ
慶長年中、松川の菊池藤五郎が寒河江川開削にあたり水神に祈願、のち一社をたて高松神社と称し、菊池氏が社務をとる。殖産興業の功により合祀	山形県神社誌 p167
利長は北楯大堰の開祖。大堰水利系村民が斧川町八幡神社境内に北館水神社を建立、まつる。大正8年に祭神を旧城趾斧川町楯山に遷座、現社名に改称	全山形県神社誌 p440
北畠親房二男。正平6年顕信が陸奥探題吉良貞家を敗走させたことを顕彰	山形県神社誌 p112
北畠顕信に合祠	山形県神社誌 p112
当地清川の郷土。尊皇倒幕を志し、文久3年幕府より暗殺	山形県神社誌 p447
酒井家初代で庄内藩酒井家祖。明治初年、旧城内の本丸の一字を創建し郭内に鎮祭されていた家次・忠次・忠勝の霊を合祀し、同8年、荘内神社と改称。大正12年、7代庄内藩主忠徳を合祀	山形県神社誌 p571
	山形県神社誌 p667
酒井家2代で庄内藩酒井家祖	山形県神社誌 p571
初代庄内藩主。事代主命他もまつる。創建年代不詳	山形県神社誌 p685
酒井忠次などに合祠	山形県神社誌 p571
7代庄内藩主。酒井忠次などに大正12年合祀	山形県神社誌 p571
8代庄内藩主	本庁データ
天保11年、8代庄内藩主忠器が越後長岡へ転封の幕命が下りた際、領民が阻止運動を展開し成功。これも神明の加護と一社を建立。はじめ若宮大明神として祀り、明治10年酒井神社と改称	山形県神社誌 p624
9代庄内藩主。明治10年若宮大明神が酒井神社と改称される際に合祀か	山形県神社誌 p624

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
酒井忠恒	酒井神社（八幡神社境内社）			山形西村山郡大江町左沢
*酒井忠恒	中山神社			山形飽海郡松山町字内町
酒井忠休	酒井神社（八幡神社境内社）			山形西村山郡大江町左沢
*酒井忠休	中山神社			山形飽海郡松山町字内町
酒井忠予	酒井神社（八幡神社境内社）			山形西村山郡大江町左沢
*酒井忠予	中山神社			山形飽海郡松山町字内町
*白井矢太夫	白山神社	明治39		山形飽海郡遊佐町白井新田
曾我祐成	神達（かんだつ）神社	天正16	直江兼統	山形米沢市城北
曾我時致	神達（かんだつ）神社	天正16	直江兼統	山形米沢市城北
*竹俣当綱	松岬神社	明治35		山形米沢市丸の内
徳川家康	東照宮（熊野神社境内社）			山形寒河江市平塩
徳川家康	東照社（榮山神社・出羽神社・湯殿山神社の境内社）	正保2	酒井氏カ	山形東田川郡羽黒町手向
徳川家康	東照宮	元禄10	松平信通	山形上山市元城内
徳川信康	おてくるま（のち復鎮神社。日枝神社境内社）	慶長16	最上義光	山形鶴岡市山王町
*徳川信康	源鎮霊社（中山神社）	延宝4	本藩庄内藩 酒井家	山形飽海郡松山町内山
戸沢衡盛	戸沢神社	明治27	旧藩士民	山形新庄市端端町
戸沢政盛	戸沢神社	明治27	旧藩士民	山形新庄市端端町
*直江兼統	松岬神社	明治35		山形米沢市丸の内
長倉治作	長倉神社（八幡神社境内社）			山形新庄市上金沢町
沼沢伊勢守	水神社（諏訪神社境内社）			山形西置賜郡白鷹町浅立
林崎甚助重信	居合明神（熊野居合神社）	江戸期		山形村山市林崎
藤原蘊安（うんなん）	蘊安神社		佳民	山形長井市五十川
藤原高房	高房大明神	承和7	里人	山形東置賜郡高畑町
*細井徳民（平州）	松岬神社	明治35		山形米沢市丸の内
*細井徳民（平州）	羽黒神社			山形米沢市関根
松平利長（徳川）	東照宮（月岡神社）	元禄10	松平信通	山形上山市元城内
松平信・（徳川） 他	東照宮（月岡神社）	元禄10	松平信通	山形上山市元城内
水野忠元	豊烈神社	文政4	水野忠邦	山形山形市桜町

備 考	典 拠
庄内藩から分知した初代酒井松山藩主	山形県神社誌 p128
	山形県神社誌 p667
3代松山藩主	山形県神社誌 p128
	山形県神社誌 p667
2代松山藩主	山形県神社誌 p128
	山形県神社誌 p667
郡代白井を白井新田開発者として産土神としてまつる	山形県神社誌 p689
いわゆる曾我兄弟の兄。直江兼統が上洛の帰途、富士裾野を通り曾我神社に詣で、神像を別当福寿院に奉じらせ邸内にまつる。のち米沢にうつっても尊崇。元和5年兼統没後に樋口氏これをうけ町内の鎮守とする。弟の時致とともにまつる	山形県神社誌 p319
いわゆる曾我兄弟の弟。兄の祐成とともにまつる	山形県神社誌 p319
9代米沢藩主上杉治憲時代の改革派の江戸家老	山形県神社誌 p307
本社熊野神社は慶安2年免許役の朱印あり	本庁データ
庄内藩はいわゆる徳川四天王の一人忠次の系統で、孫忠勝が元和8年入封	東照宮 p55
信通は松平（藤井）上山藩初代藩主。元禄10年上山移封以来、本丸に東照宮の祠を造営し、あわせて祖先徳川長親の五男利長、二代信一父子の神霊を合祀。明治4年東照宮廃止	名鑑 p95
徳川家康長男。本社日枝神社は古社で最上義光社殿造営。当社神宿（俗に当屋）は慶長16年、義光よりはじめられ、翌17年より下室寺五郎右衛門、内記の両家へ仰せつけられ、町在当屋御簀立式は現在まで続く	山形県神社誌 p570
本藩は分封した松山藩に命じ、中山の大明神に徳川信康を配祀させる。元文1年本社は中山大明神と称す	山形県神社誌 p667
新庄藩主戸沢家の始祖	山形県神社誌 p232
常陸松岡より新庄藩移封の藩主	山形県神社誌 p232
松岬神社へ配祀	山形県神社誌 p307
八幡神社は慶長年間頃建立とも	本庁データ
沼沢は慶長年中、諏訪堰を開削、新田開発、慶長12年現地に諏訪神社遷宮し一村の神社と併せる	山形県神社誌 p393
天文年間、林崎が参籠して居合抜刀術を会得、後世これを居合明神とまつった。文久2年幕建立。明治10年現社名	山形県神社誌 p180
元慶2年鎮守將軍小野春風が出羽に下向。その将藤原は陣中で没す。住民が一祠を造営、まつったという。文政10年社殿再建	山形県神社誌 p408
承和7年藤原高房、出羽守に任じられ、赴任の途中、沢の石室で死去。同9年里人が石室の上に石祠を建立して、高房大明神と称する	名鑑 p99
学者。上杉治憲に影響を与える	山形県神社誌 p307
明治5年大惣忌神社、昭和7年に現名に改称。昭和10年上杉治憲ゆかりの地として文部省史蹟指定	名鑑 p89
信通は松平（藤井）上川藩初代藩主。移封後造営した東照宮に、祖先徳川長親の五男利長、2代信一父子の神霊を合祀。明治4年東照宮廃止後、同10年旧本丸に社殿建立。旧家中内の神社九社を合祀し月岡神社とする。秋祭の御輿渡御行列に供奉する鼓笛楽は、上山藩に伝授	山形県神社誌 p58
信通、移封後造営した東照宮に、祖先徳川長親の五男利長、二代信一父子の神霊を合祀	山形県神社誌 p58
遠江国浜松城主水野家の祖忠元を忠邦が祀つたのにはじまり、弘化5年出羽国山形に移封の際、その子忠精がこれを城内に遷座。明治3年水野忠弘が近江朝日山に移封の際下総山川に遷座。明治13年旧水野藩士が勧請し分社を現在地に建立。大正2年山川の本社を遷座併合	山形県神社誌 p23

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
水野忠邦	豊烈神社	大正10		山形山形市桜町
*源義家	熊野神社			山形村山市湯野沢
源義家	義家神社（熊野神社境内社）			山形南陽市宮内
源義家	八幡神社			山形東田川郡羽黒町戸野
最上義光	大蔵神社（飛鳥神社境内社）			山形飽海郡平田町飛鳥
吉田守隆（大八）	護国神社	明治3	天童藩知事 織田信敏	山形天童市天童
与次郎	與次郎稻荷神社	慶長16	住民	山形東根市蟹沢
（福島）				
阿部忠秋（阿部 豊後守）	鎮護神社（宇迦神社境内社）			福島東白川郡棚倉町棚倉
板倉重昌	板倉神社	寛政4	板倉勝長	福島福島市杉妻町
伊藤重信（肥前）	伊藤肥前重信供養碑（日吉神社）	万治3－元 禄16	伊達綱村	福島郡山市富久山町
井深茂右衛門	久彦神社（土津神社境内社）			福島耶麻郡猪苗代町見柵山
岩崎隆綱（平朝 臣岩崎三郎隆綱）	岩崎神社	応永18		福島いわき市常磐岩ヶ岡町台
岩松義政室はつ	八坂神社			福島相馬郡鹿島町南柚木
大塩平左衛門	貴船神社			福島喜多方市雄国七本木
懸田定隆	茶臼館神社	天文期以降		福島伊達郡靈山町大石
懸田俊宗	茶臼館神社	天文期以降		福島伊達郡靈山町大石
懸田俊宗室	茶臼館神社	天文期以降		福島伊達郡靈山町大石
片岡弘経（八郎）	片岡神社			福島いわき市市平上高久
*鎌倉景政（権 五郎景政）	仁田神社			福島福島市仁井田
鎌倉景政（権五 郎景政）	多田野本神社			福島郡山市達瀬町
鎌倉景政（権五 郎景政）	豊景神社			福島郡山市富久山町
鎌倉景政（権五 郎景政）	御霊神社			福島岩瀬郡天栄町羽鳥
鎌倉景政（権五 郎景政）	御霊神社			福島西白河郡中島村二子塚
鎌倉景政（権五 郎景政）	御霊神社			福島西白河郡矢吹町三城目
鎌倉景政（権五 郎景政）	御霊神社			福島田村郡船引町船引字館 屋敷
鎌倉景政（権五 郎景政）	御霊神社			福島田村郡船引町船引字寺 ヶ入
鎌倉景政（権五 郎景政）	御霊神社			福島南会津郡南郷村和泉田

備 考	典 拠
忠邦、祭神に加列	山形県神社誌 p23
江戸時代は新庄藩主の祈願所	本庁データ
本社熊野神社は古社で上杉氏の祈禱所	本庁データ
天照大神他を合祀	山形県神社誌 p522
本社飛鳥神社は最上・酒井氏祈願所	山形県神社誌 p658
守隆は藩家老荘左衛門の子。奥羽列藩同盟との戦いで敗れ自刃	山形県神社誌 p86
佐竹家飛脚。同家の命で江戸での情報収集にあたっていた与次郎は幕府目付より殺害。村人が祟りをおそれ、幕府に具申、霊を祀り、稲荷大明神として崇敬	山形神社誌 p191
慶応2年から白河より入封し明治4年白河へ再入封した阿部氏の祖	棚倉町誌別巻 3 p228
元禄15年、本多・堀田に次ぐ三番目の大名家として板倉重寛入封、同家が幕末まで定着。重昌はその祖。寛政4年江戸藩邸に祭祀、文化2年福島城内稲荷神社に勧請。明治2年三河重原へ国替にともなう移されるが、明治15年分霊	本庁データ、福島市教育委員会
当地は天正15年伊達政宗と佐竹勢との郡山合戦の本陣となった所で、伊藤はこの戦いで戦死。4代仙台藩主綱村が祀り、歴代藩主は参勤交代の際参拝という	本庁データ
会津藩家老。宝暦期の義倉溜銭施行に関与	本庁データ
葛原親王の後胤で岩ガ崎領主。応永7年岩城親隆軍と烏倉に戦い、岩崎館で討死。当地に廟所がつくられる	いわき市神社総代会第二方部会編神社誌 p36
岩松義政は新田氏一族。南北町内乱期に上野国より当地千倉荘に移ったという	本庁データ
祭神の先祖の本姓は五十嵐。寛文・延宝期に治水工事の功績あるも会津藩財政流用したとして処分	喜多方市史・通史編近世
高松定隆が建武2年、信夫杉野目高松城から茶臼山（懸田城）の城主となり、懸田を名乗る。本社成立について奥相茶話記では天文の乱以降、懸田俊宗室の関係で社創建という	本庁データ、懸田由緒・霊山町史 2
伊達氏の天文の乱により懸田氏滅亡	霊山町神社調査票
天文の乱の当事者の一人伊達植宗の娘	霊山町神社調査票
源義経家臣で、義経正室（川越頼重娘）を護衛し、当地で正室は死去	いわき市神社総代会第三方部会編神社誌
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
鎌倉景政（権五郎景政）	御霊神社			福島いわき市後田町堀ノ内
鎌倉景政（権五郎景政）	御霊神社			福島いわき市仁井田町築山
鎌倉景政（権五郎景政）	綿津見神社			福島相馬郡飯館村草野
北畠顕家	霊山神社	明治14	米沢藩儒中川雪堂、医師西尾元詢	福島伊達郡霊山町大石
北畠顕家	雲水峯神社			福島郡山市田村町
北畠顕信	霊山神社	明治14	米沢藩儒中川雪堂、医師西尾元詢	福島伊達郡霊山町大石
北畠親房	霊山神社	明治14	米沢藩儒中川雪堂、医師西尾元詢	福島伊達郡霊山町
北畠守親	霊山神社	明治14	米沢藩儒中川雪堂、医師西尾元詢	福島伊達郡霊山町
楠木正茂	高野神社			福島郡山市西田町
西郷近房	護忠霊社（蚕養国神社境内社）	元禄16	松平家	福島会津若松市蚕養町
佐藤家忠（新衛門）	西根神社	明治18	柴山景綱（伊達郡長）	福島福島市飯坂町
沢村勝為（勘兵衛）	沢村神社	明治9	住民	福島いわき市平下神谷
鈴木吉之丞	長松院霊神（長松神社）	天保15	内藤家	福島いわき市常磐上湯長谷町
相馬師常	相馬神社	明治16		福島相馬市中村
相馬長門守（相馬忠胤カ）	剣社（相馬神社境内社）			福島相馬市中村
*相馬昌胤	国玉神社			福島相馬市坪田
相馬忽胤	亀齡社（八幡神社）			福島相馬市坪田
相馬都胤	国玉神社（諏訪神社境内社）			福島相馬市黒木
相馬都胤	国玉神社			福島相馬市坪田
*相馬因胤	国玉神社			福島相馬市坪田
平景昌	滑川神社			福島須賀川市滑川
*平忠通	阿邪詞根（あさかね）神社	寛治6		福島郡山市大町
平忠通（村岡）	御霊神社			福島西白河郡矢吹町三城目
平盛時	五郎神社（三島神社境内社）			福島喜多方市上三宮町
平将門	勝善神社			福島双葉郡大熊町野上
平将門	国玉神社			福島双葉郡浪江町川添
平将門	国玉社（相馬中村神社境内社）			福島相馬市中村

備 考	典 拠
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
顕家が義良親王を奉じ靈山に城郭を築き東北地方鎮守のため居城した土地に、明治初年、中川・西尾が靈山神社の創建を唱導、同12年神社創建を誓願し、同14年社殿落成	名鑑 p108
	本庁データ
北畠顕家弟。陸奥介鎮守府將軍など歴任	名鑑 p108
北畠親房の長男が顕家で、これをたすけ奥羽経営につくす	名鑑 p108
北畠顕家の子	名鑑 p108
楠木一族。楠木正成死後、楠木一族、岸和田治氏を助ける	本庁データ
松平（保科）会津藩家老。正容若年期より仕える。吉川氏より神号護彦をうける	唾者の独見（続会津藩資料叢書）
近世初めの上杉家家臣。西根下・同上両堰を作り、阿武隈川の堤防建設等伊達・信夫地方発展に尽くす。寛永14年病没というが異説あり。当地の旅館稲荷屋で祀られていたが道路改修で祠を撤去することになり、新たに創祠が呼びかけられた	西根神社略誌
慶安3年の天下つに際し、平藩郡奉行沢村は領主の許可を得て開削、水利事業実施。明暦元年4月竣工。讒言により同年自刃。明治9年12月、住民が草野村に沢村神社をたてる。「じゃんがら念仏踊り」は勝為の慰霊のための踊りともいう	名鑑 p111
内藤家家臣で当地湯長谷の主。元文1年讒言により獄死。のち内藤家に嗣子がいないなどの祟りがあるとして祭祀。廃藩後、当村民が当地に移す	いわき市神社総代第二方部会編神社誌
相馬藩祖。千葉常胤の次子。長じて相馬師国の嗣となる。元久2年死去。鎌倉今小路に祠をたて毎年6月3日祭礼。明治16年社殿造営	名鑑 p114
3代相馬中村藩主忠胤か	本庁データ
6代相馬中村藩主	本庁データ
9代相馬中村藩主	本庁データ
5代相馬中村藩主貞胤子。早世	本庁データ
5代相馬中村藩主貞胤子。早世	本庁データ
9代相馬中村藩主恕胤子。早世	本庁データ
平景政（鎌倉権五郎景政）か	本庁データ
三浦氏祖。寛治2年、忠通、副将として清原武衡・国衡を討伐のため下向、同3年忠通卒去、寛治6年合祀	名鑑 p110
平良文の二男。源頼光の配下となり「頼光ノ四天王」と謳われ、京に在り。この時、頼光の甥の源頼信（源頼朝祖）と主従関係を結ぶ。相模国に館を持ち、三浦氏の祖	本庁データ
平盛綱長子。源頼朝右筆。当地加納庄の加納佐原氏の先祖神とみられる	本庁データ・喜多方市教育委員会
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
田中正玄	信彦霊社（土津神社境内社）			福島耶麻郡猪苗代町見祢山
田中善司義光	田中神社			福島喜多方市豊川町
*徳川家康（東照神）	天神社	享保14	松平通春	福島伊達郡梁川町上町
*徳川家康	二荒神社			福島いわき市平下山口
*徳川家康	東照宮（熊野神社境内社）			福島いわき市市田入町
徳川家康	東照神社			福島双葉郡浪江町立野
徳川家康	会津東照宮	元和8	蒲生氏	福島会津若松市
徳川家康	延寿院東照宮			福島東白川郡棚倉町馬場
徳川家康	棚倉東照宮（都々古別神社境内社）			福島会津若松市
友松氏興（勘十郎）	忠彦神社			福島耶麻郡猪苗代町磐根
友松氏興（勘十郎）	忠彦霊社（土津神社境内社）			福島耶麻郡猪苗代町見祢山
中目兵庫	聖神社			福島耶麻郡猪苗代町中小松
丹羽織之丞	素退霊社（稲荷神社境内社）			福島耶麻郡猪苗代町千代田
二階堂為氏	二階堂神社			福島須賀川市宮先町
古河重吉（善兵衛）	西根神社	明治18	柴山景綱（伊達郡長）	福島福島市飯坂町
*保科正之	大皇神社			福島南会津郡館岩村八総
保科正之	土津神社	延宝1	友松氏興	福島耶麻郡猪苗代町見祢山
保科正之（土津霊神）	土津神社（御蔵神社境内社）			福島耶麻郡山都町三津合上ノ台
保科正頼	磐彦霊社（土津神社境内社）			福島耶麻郡猪苗代町見祢山
保科正純	石彦霊社（土津神社境内社）			福島耶麻郡猪苗代町見祢山
本多忠義	泉神社	文化1		福島いわき市泉町
*松平正容	土津神社			福島耶麻郡猪苗代町見祢山
*松平容貞	土津神社			福島耶麻郡猪苗代町見祢山
*松平容頌	土津神社			福島耶麻郡猪苗代町見祢山
*松平容住	土津神社			福島耶麻郡猪苗代町見祢山
*松平容衆	土津神社			福島耶麻郡猪苗代町見祢山
*松平容敬	土津神社			福島耶麻郡猪苗代町見祢山
*松平容保	土津神社			福島耶麻郡猪苗代町見祢山
松平定信	南湖神社	大正4		福島白河市菅生館
源義家（八幡太郎義家）	八幡神社			福島相馬市新沼
三森光豊（治右衛門）	水守神社	昭和26		福島いわき市平山崎
築瀬三左衛門	幸彦霊社（土津神社境内社）			福島耶麻郡猪苗代町見祢山
山家公頼（山田清兵衛）	和霊神社（蛭養神社境内社）			福島会津若松市大戸町
（茨城）				
安倍宗任	宗任神社	天仁2	安倍氏家臣松本氏	茨城結城郡千代川村本宗道

備 考	典 拠
保科正之のもとにあった保科会津藩家老	本庁データ
	本庁データ
通春は尾張徳川家分家の梁川藩主	東照宮 p106
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
寛永20年より会津松平氏奉斎。戊辰戦争で焼失、廃絶	東照宮 p51
	東照宮 p201
会津東照宮別当寺境内か	東照宮 p201
保科（松平）会津藩家老。同藩初代藩主正之の祭祀に尽力	本庁データ
保科（松平）会津藩家老	本庁データ
兵庫館主。天正15年、大崎合戦では桑折城に籠もったという	本庁データ
文化4年、会津藩に蝦夷地警備が命じられた際の軍監	本庁データ
文安元年、鎌倉より須賀川に下向。須賀川城築城。神社は本丸跡にたつ	本庁データ
上杉家臣。佐藤家忠とともに信夫・伊達両郡奉行兼代官の善兵衛は寛永元年から9年間の歳月をかけ西根上堰を完成するなど、阿武隈川の堤防建設等伊達・信夫地方発展に尽くす。寛永14年、藩財政を流用した責任から自刃というのが異説あり。当地の旅館稲荷屋で祀られていたが道路改修で祠を撤去することになり、新たに祠創が呼びかけられた	西根神社略誌
初代保科（松平）会津藩主	本庁データ
保科正之は吉川惟足を師とし、ト部家神道を学び寛文11年惟足から靈号「土津」を授与され、没後に磐梯神社の本社として祀るよう遺言、没後の延宝1年仮殿成立	本庁データ
祭神の土津靈神は保科正之か	本庁データ
保科正之長子	本庁データ
保科正之五子	本庁データ
2代本多泉藩主。松平定信と親交があった。堕胎間引禁止、小児養育を奨励などで人口増加をはかり、天明飢饉後、備荒貯蓄の策をたて心学道場善教舎を設、領民の教化に資した。定信の寛政改革を補佐。当初田人町荷路夫山上に生祠として祀り、明治12年現在地へ移す	いわき市神社総代会第一分支部編神社誌
3代松平（保科）会津藩主（代数は保科正之を初代として）	本庁データ
4代松平（保科）会津藩主（代数は保科正之を初代として）	本庁データ
5代松平（保科）会津藩主（代数は保科正之を初代として）	本庁データ
6代松平（保科）会津藩主（代数は保科正之を初代として）	本庁データ
7代松平（保科）会津藩主（代数は保科正之を初代として）	本庁データ
8代松平（保科）会津藩主（代数は保科正之を初代として）	本庁データ
9代松平（保科）会津藩主（代数は保科正之を初代として）	本庁データ
徳をしのび造営。大正12年社殿竣工	名鑑 p114
	本庁データ
平藩内藤家臣。延宝2年から6年間で愛谷江筋造るなど、治水事業を行う	本庁データ
会津藩家老。宝暦期の義倉溜銭施行に関与	本庁データ
山田は山家か。山家清兵衛公頼は初期伊達宇和島藩家老。藩内対立で元和6年暗殺。仙台伊達家との関係か。山家清兵衛血縁者に「山田」姓がいた模様（南豫史 p354-5）	本庁データ、宇和島市史編纂室・山口隆史
「宗任神社縁起記」によれば奥州から来住して祭祀という	茨城の神社覚書Ⅱ p207

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
安倍貞任	宗任神社	天仁2	安倍氏神主 松本氏・旧 臣24名	茨城結城郡千代川村本宗道
大生定守	大生殿神社（大生神社飛地境内社）	江戸期カ		茨城潮来市大生
小幡有田	清良神社（大洗磯前神社境内社）			茨城東茨城郡大洗町磯浜町
加藤清正	清正公神社（水戸神社境内社）			茨城水戸市笠原町
勝田新左衛門	勝田社（善明神社境内社）			茨城真壁郡真壁町長岡
鎌倉景政（権五郎景政）	御霊神社（香取神社境内社）			茨城笠間市福田
鎌倉景政（権五郎景政）	本戸神社			茨城笠間市本戸香取前
鎌倉景政（権五郎景政）	御霊神社（天満宮神社境内社）			茨城稲敷郡阿見町若栗
木曾義仲（源義仲）	相前神社（御幸神社境内社）	*明治44		茨城岩井市幸田
楠木正成	楠公社	明治9	佐野竹之介 等勤皇の朋 党、村人	茨城東茨城郡茨城町長岡
楠木正成	楠木神社	明治12	和田勘恵	茨城鹿島郡旭村土太田
楠木正成	湊川神社（水戸神社）			茨城水戸市笠原町
楠木正行	楠木神社	明治12	和田勘恵	茨城鹿島郡旭村土太田
*楠木正勝	笠置神社			茨城久慈郡大子町上郷
*佐竹義興	八坂神社	*宝永2		茨城新治郡八郷町柿岡
佐野常世（源左衛門）	大平社（皇産霊神社）	*明治41		茨城岩井市大崎
*平国香	五社神社（八幡神社）	*明治41		茨城土浦市田中
*平将門	国王神社	天禄3	平将門女如 藏尼	茨城岩井市岩井
平将門	自然神社			茨城新治郡千代田町下稲吉
谷君雄	谷明神	文政11	大町新田百姓	茨城結城市江川
津賀常春	津賀神社（稲荷神社境内社）	明治22		茨城石岡市石岡
徳川家康	東照宮三所権現（東照宮）	元和7	徳川頼房	茨城水戸市宮町
徳川家康	常磐神社	明治6		茨城水戸市常磐町
*徳川家康	仁所神社			茨城下館市成田御斎明
徳川家康	鹿島神社			茨城下館市大関
*徳川家康（東照大神）	日光神社	*明治6		茨城結城市上山川
徳川家康（東照大神）	日光神社	文政5		茨城水海道市羽生町

備 考	典 拠
宗任の兄	茨城県神社誌 p1703
定守は当地鳳凰台（人生）城城主。慶長19年大坂の陣出陣中に駿河藤枝宿で流行病で病死といい、その際病者救済を遺言したという。後世祭祀	茨城県神社誌 p1260
「水府志料」によれば天文元年に江戸氏は小幡出雲守清良を大洗明神下で殺害、小幡城を支配下に置いたという。右門は清良のことか	本庁データ
	本庁データ
赤穂事件に関わる旧浅野家家臣。勝田氏は本来、中世の当地領主真壁氏家臣。新左衛門祖父新兵衛が浅野家に仕官、真壁より赤穂に移る	茨城県神社誌 p1651
	茨城県神社誌 p610
	本庁データ
	茨城県神社誌 p1334
明治44年、相前神社は数社の合併、大正4年現社名	茨城県神社誌 p673
万延のはじめ勤皇の朋党10余名が正成の招魂の標建立。のち村人が当社創建	茨城県神社誌 p715
和田氏はもと佐竹氏一族楠木義清より始まるという。23世孫の義宣が本村にある時、慶安年中に楠木正成の後裔と自称する楠正継を養子とする。勘恵は正継17世孫	楠木神社記、茨城県神社誌 p1114
	本庁データ
正行は楠木正成の子。四條畷の戦いで高師直と戦って討ち死	楠木神社記、茨城県神社誌 p1114
正勝は楠木正成の孫という	楠木神社記、茨城県神社誌 p1114
本社は享禄年中に遷祀。のち義興合祠。宝永2年領主稲葉氏再建	茨城県神社誌 p1448
窮迫の生活をしてた武人とされる。宿を頼んだ修行者（北条時頼）のために、秘蔵の盆栽を焚いてもてなしたという、謡曲「鉢木」の架空の人物。明治41年、佐野を祭神とする大平社が他社とともに本社へ合祠	茨城県神社誌 p678
平安中期の武将。高望土の子。常陸大掾に任ぜられ後に鎮守府將軍。甥の平将門に殺害。明治41年、国香を祭神とする五社神社が本社八幡神社に合祠	茨城県神社誌 p126
父将門の33回忌に如蔵尼が影像を彫り一社を創建したのが祭祀の始まりという	茨城県神社誌 p658
	本庁データ
壬生藩士、江川村代官。治績に対し生祠建立	谷明神御記録
常春は府中城主大掾慶幹の次男。居城三村城を天正年間の初期に築城という。天正14年（12年とも）小田氏に攻められて落城し戦死という	茨城県神社誌 p284
元和7年、徳川頼房が父家康の霊を祀って創建。当地は前領主に関わる寺があった跡地という。家臣や城下町民が参加する水戸御祭礼があった	茨城県神社誌 p89
誤りとも	東照宮 p202
武鑑植命他に配祠。本社は後鳥羽天皇の時の創建。成田五郎助忠がこれを領地に勧請して成田鹿嶋神社と称する	名鑑 p128
成田五郎助忠がこれを領地に勧請して成田鹿嶋神社と称する	本庁データ
創立不詳。明治6年村社	茨城県神社誌 p351
	茨城県神社誌 p447

祭 神 名	祭 祀 社	創祀時期	創 祀 者	所 在 地
* 徳川家康	東照宮（御坂神社）	* 明治42		茨城水海道市三坂
徳川家康（東照大神）	日光神社	* 明治42		茨城水海道市中妻
徳川家康	日光大権現（豊岡東照宮。諏訪神社境内社）			茨城水海道市豊岡町
徳川家康	東照宮（花園神社境内社）			茨城北茨木市華川町
* 徳川家康	東照宮（皇産霊神社）	* 明治41		茨城岩井市大崎
徳川家康	滝本家東照宮	村民		茨城岩井市長谷
徳川家康	権現社（那珂西神社境内社）			茨城東茨城郡常北町那珂
徳川家康	日光神社			茨城東茨城郡美野里町竹原下郷
* 徳川家康	阿波山東照宮（阿波山神社境内末社）			茨城東茨城郡桂村阿波山
徳川家康	西末社（高田神社境内社）	寛永年中		茨城稲敷郡江戸崎町高田
徳川家康	東照宮（八幡神社境内社）			茨城新治郡八郷町浦須
徳川家康	小川家東照宮			茨城新治郡八郷町上曾
徳川家康	八社合殿（鹿島神社境内社）			茨城真壁郡真壁町上谷貝
徳川家康	東照宮（羽田神社境内社）			茨城真壁郡大和村羽田
徳川家康	雨引山東照宮（薬法寺境内社）			茨城真壁郡大和村本木
徳川家康	東照宮（天満社境内社）			茨城結城郡八千代町東路田
徳川家康（東照大神）	東照宮（八幡社境内社）			茨城結城郡八千代町川尻
* 徳川家康	東照宮（香取社）	* 明治43		茨城結城郡結城郡千代川村鎌庭
徳川家康	東照宮（天満社境内社）			茨城結城郡石下町原宿
* 徳川家康	日光権現（香取神社）	* 明治41		茨城猿島郡境町志島
徳川家康	東照宮（六十六所神社境内社）			茨城守谷市大木東
徳川家康	野木崎東照宮			茨城守谷市野木崎
徳川家康（東照大神）	日光神社			茨城筑波郡谷和原村押砂
徳川家康	西楯戸東照宮	江戸期		茨城筑波郡谷和原村西楯戸
徳川家康	日光神社	寛永 3		茨城筑波郡谷和原村箇戸馬場
徳川家康	筑波山東照宮			茨城つくば市筑波山
徳川家康	太子東照宮（熊野神社境内社）			茨城久慈郡太子町高田
* 徳川家光	国王神社			茨城岩井市岩井
* 徳川家光	日光神社			茨城筑波郡谷和原村押砂
* 徳川頼房	東照宮	昭和11		茨城水戸市宮町
徳川光圀	常磐神社	明治初	旧士族	茨城水戸市常磐町
徳川光圀	常磐神社	明治35	地域民	茨城鹿島郡旭村常磐
徳川光圀	常磐神社（水戸神社境内社）			茨城水戸市笠原町
徳川斉昭	常磐神社	明治初	旧士族	茨城水戸市常磐町
徳川斉昭	列公社（常磐神社）	元治 1	郡司保	茨城水戸市元石川町
徳川斉昭	常磐神社	明治35	地域民	茨城鹿島郡旭村常磐
徳川（水戸家） 歴代霊位	御岩神社			茨城日立市人四間町
* 豊臣秀吉	東照宮	茨城水戸市		

備 考	典 拠
明治42年、村内無格社の東照宮を他社とともに本社へ合祠	茨城県神社誌 p461
明治42年、三坂神社に合祠	東照宮 p202
	東照宮 p202
徳川家康は慶長7年本社花園権現に50石の社領朱印状を与える	茨城県神社誌 p576
明治41年、徳川家康を祭神とする東照宮が他社とともに本社に合祠	茨城県神社誌 p578
当地域では「うちがみさま」として祀る家が多数という	東照宮 p190
	茨城県神社誌 p808
神仏分離で祭神名変更か	東照宮 p203
天満宮と合祠	東照宮 p203
慶長5年、家康が小山に在陣中、本社神職青野氏が使者を伺候させたのに対し社領を寄進という	茨城県神社誌 p1313
	茨城県神社誌 p1457
邸内社	東照宮190
	茨城県神社誌 p1641
	茨城県神社誌 p1656
	東照宮 p203
	茨城県神社誌 p1683
	茨城県神社誌 p1691
明治42年、他社とともに東照宮が本社香取社に合祠	茨城県神社誌 p1710
	茨城県神社誌 p1724
明治41年、本社香取神社に合祠	茨城県神社誌 p1786
	茨城県神社誌 p1805
旧正安寺東照宮	東照宮 p202
	本庁データ
廃絶	東照宮 p202
神仏分離で祭神名変更か	東照宮 p202
	東照宮 p202
	東照宮 p202
	茨城県神社誌 p658
	茨城県神社誌 p1570
水戸藩祖	茨城県神社誌 p89
明治初年、偕楽園に徳川光圀と斉昭を祀る祠堂が創建され、廃藩置県後、二人を神社に祀ることが請われる。明治6年常磐神社の号をうける。翌年偕楽園東に遷座	茨城県神社誌 p63
開拓守護神として祭祀という	茨城県神社誌 p1133
	本庁データ
明治初年、偕楽園に徳川光圀とともに祀る祠堂が創建	茨城県神社誌 p63
天保11年、追鳥狩という軍事訓練を行った斉昭が全軍を指揮した場所に、郡司保の議で石川村民がそこに石宮をたて列公社と称した。明治5年、水戸に祠堂が常磐神社と号されたため当社も社号をそれに改称	茨城県神社誌 p130
開拓守護神として祭祀という	茨城県神社誌 p1133
	本庁データ
東照宮への配祠時期不詳	名鑑 p125

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
新田義貞	新田神社			茨城つくば市新牧田、梶田、下原入会地
藤田東湖	東湖神社（常磐神社境内社）	昭和18	有志	茨城水戸市常葉町
水野勝成（日向守）	徳勝霊社（聡敏神社）	慶安4	水野勝俊	茨城結城市結城
三木之次	三木神社（常磐神社境内社）	昭和40	三木啓次郎	茨城水戸市常葉町
三木武佐	三木神社（常磐神社境内社）	昭和40	三木啓次郎	茨城水戸市常葉町
源頼朝	白旗神社（鶴峰八幡神社）			茨城古河市中田
源頼政	頼政大明神（頼政神社）	鎌倉期カ	頼政従者	茨城古河市錦町
和田正勝（和田平助）	速刀神社			茨城水戸市開江町
（栃木）				
*大木義右衛門（源義尚）	桜木神社	正保1	里人	栃木栃木市柳原町
*大木義右衛門（源義尚）	桜木神社（星宮神社境内社）	明治6		栃木塩谷郡塩谷村金枝
大久保常春	神像（常春神社、寿亀山神社）	享保14		栃木那須郡烏山町中央
大久保烏山藩主歴代	寿亀山神社	明治中頃		栃木那須郡烏山町中央
大関家代々	鎮国神社	文化13	大関増業	栃木那須郡黒羽町前田
*小槻今雄	雄琴神社	寛正3	小槻胤業	栃木下都賀郡壬生町壬生
小野寺道綱	三騎神社			栃木安蘇郡葛生町仙波
鎌倉景政（平影政）	御霊神社			栃木芳賀郡益子町大沢
鎌倉景政（権五郎景政）	胸形神社			栃木鹿沼市村井町
源平戦の霊	御霊神社			栃木那須郡小川町浄法寺
小出照方（大功）	小出神社（奈佐原神社境内社）	寛政頃カ	地域民	栃木鹿沼市奈佐原町
小出照方（大功）	吉田神社	文政2		栃木小山市羽川
*小堀次晴	諏訪神社	永禄1	小堀次充	栃木芳賀郡芳賀町ハツ木
*諏訪要十郎	諏訪神社		子孫	栃木下都賀郡国分寺町柴
*諏訪清十郎	諏訪神社		子孫	栃木下都賀郡国分寺町柴
平重盛	小松神社			栃木塩谷郡栗山村日蔭沢尻
平将門	御門神社			栃木下都賀郡岩舟町静
田原忠綱	忠綱大明神（田原神社）	宝治1	佐野基綱	栃木上都賀郡栗野町菅沼
田原忠綱	田原神社	元亀3	佐野氏	栃木上都賀郡栗野町桑沢
田原忠綱	田原神社	天正10	佐野宗綱	栃木上都賀郡栗野町森田

備 考	典 拠
	本庁データ
幕末の水戸藩士、学者。護国神社としての性格をもった鎮靈社移転跡地の創建	常磐神社史
備後福山城主水野勝成は慶安4年死去、嫡子勝俊が城外八幡の社地に祀り徳勝靈社と号したのがはじまり。元禄14年水野勝長結城入封	茨城県神社誌 p331
江戸初期の水戸藩家老。徳川光圀と養父とされる。三木氏子孫が祭祀	常磐神社史
之次妻	常磐神社史
本社には頼朝が奥州進軍の際冥利守護を起請という	茨城県神社誌 p268
平安後期の武将。清和源氏だが公家・平家に近かったものの以仁王の挙兵に応じ、平氏軍の追撃で宇治平等院で自害。従者により当地常陸古河に遺骨が埋められ塚が作られたという。のち足利氏が古河城を築いた際、その塚も城内に入った。延宝5年、古河藩土居家家臣寺田氏により大明神号取得	茨城の神社叢書Ⅱ p199
水戸藩の居合術新田宮流の流祖。徳川頼房・光圀に仕える	茨城県神社誌 p155
元壬生藩士。天正18年当地に帰農し当地開発。稲荷神社創建。里人が合祀	栃木県神社誌 p161
明治6年、末社としてまつる	栃木県神社誌 p364
常春は烏山藩初代城主。はじめ神像が制作され学問所にて参拝。のちに常春神社、明治12年に旧藩士・領民により寿亀山神社。明治中頃、歴代藩主合祀	栃木県神社誌 p376
寿亀山神社に明治中頃、歴代藩主合祀	栃木県神社誌 p376
本社の由緒は古いが荒廃した本社に天正年中大関氏築城の際、宇佐・男山から八幡神勧請。増業が丹治の姓に因んだ丹治比古などとともに大関家神霊を合祀	栃木県神社誌 p420
近江国雄琴に鎮座の壬生氏の祖、小槻今雄の分霊合祀。壬生領史略（嘉永3）掲載	壬生町の文化財 p32
小野寺氏は秀郷流藤原氏の後裔で、下野国都賀郡小野寺村より興ったという。文治5年の源頼朝の奥州征伐に小野寺道綱が従軍	栃木県神社誌 p135
平影政は鎌倉景政の次子。景政が奥羽下向の際、当地に在陣、社殿建立という。合祀の事情不詳	栃木県神社誌 p328
	栃木県神社誌 p218
那須宗隆が多くの方平家を殺し病を得たことより、平家方霊もあわせ祀る	栃木県神社誌 p394
江戸幕府代官。当地域の助郷役の軽減をはかり、生祠としてまつられる	鹿沼市史、本邦生祠の研究 p293
勘定組頭。幕府代官吉田久左衛門と合祀	栃木県神社誌 p194
次晴が信州諏訪より將軍足利義植に追われ当地で農民となる。子の次充が諏訪神に配祠	栃木県神社誌 p310
天文年間の信州諏訪城主家臣。帰農後、当地移住。博徒ともいう	栃木県神社誌 p206、 国分寺町役場
要十郎との関係不詳	栃木県神社誌 p206
重盛は平清盛長男	栃木県神社誌 p369
	栃木県神社誌 p197
源平合戦の平家方武将。当地胡麻油の畦で戦死という。氏は護摩を採取を忌む。飛駒より勧請という	栃木県神社誌 p240、 田原神社の由来
源平合戦の平家方武将。尾張・四国・九州にも落人伝承有り	栃木県神社誌 p241、 田原神社の由来
源平合戦の平家方武将。天正10年佐野氏建立のものをうつしたという	栃木県神社誌 p241、 田原神社の由来

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
田原忠綱(足利又太郎藤原忠綱)	田原神社		佐野国綱	栃木上都賀郡栗野町笠丸
田原忠綱	田原神社		佐野国綱	栃木上都賀郡栗野町加戸
田原忠綱(又太郎忠綱)	忠綱明神(八幡宮)	建久5	上総介義兼	栃木安蘇郡田沼町飛駒
田原忠綱(又太郎忠綱)	三騎神社			栃木安蘇郡葛生町仙波
徳川家康	東照宮	元和3	徳川秀忠	栃木日光市山内
徳川家康	奥社(日枝神社境内社)	天保5	村民	栃木日光市野口
徳川家康	律院東照宮(律院境内三天堂内)			栃木日光市萩垣面
徳川家康	細尾東照宮(磐裂神社境内社)		村民	栃木日光市細尾
*徳川家康	稲荷神社末社			栃木日光市稲荷町
*徳川家康	清滝神社末社			栃木日光市清滝
徳川家康(源)	東照宮(二荒山神社境内社)			栃木宇都宮市馬場通り
徳川家康	粉河寺東照宮	慶安4	奥平氏	栃木宇都宮市尾上町
徳川家康	東照宮(浅間神社境内社)			栃木鹿沼市上南摩町
徳川家康	鹿沼東照宮(薬王寺境内)	江戸期		栃木鹿沼市石橋町
徳川家康	今宮東照宮(今宮神社境内社)			栃木鹿沼市今宮町
徳川家康	花岡東照宮(浅間神社境内神社力)			栃木鹿沼市花岡
徳川家康	多功東照宮	*明治45		栃木河内郡上三川町多功
徳川家康	木田東照宮	*明治45		栃木河内郡上三川町木田
徳川家康	上三川東照宮	明治45		栃木河内郡上三川町多功
徳川家康(源)	栗山東照宮	昭和42	村民	栃木塩谷郡栗山村野門
徳川家康(源)	弟之神社	元和年中	村民	栃木佐野市植野町
徳川家康	佐野東照宮(惣宗寺境内)	元和3カ	本多正純	栃木佐野市金井上町
徳川家康	東照宮(高橋神社境内社)			栃木小山市高橋
徳川家康	太平山東照宮			栃木栃木市平井町太平山
徳川家康	粟野東照宮			栃木上都賀郡栗野町柏尾
徳川家康	東照宮(村檜神社境内社)			栃木下都賀郡岩舟町小野寺
徳川家康	東照宮(藤岡神社境内社)			栃木下都賀郡藤岡町藤岡
徳川家康(源)	日光神社	天保12	大金佐重・同八衛門・同源治	栃木那須郡黒羽町亀久
徳川家康	東照公(浅間神社)	寛文5	徳川綱吉	栃木安蘇郡葛生町葛生
徳川家康	田沼東照宮	*明治42		栃木安蘇郡田沼町多田
戸矢子有綱(足利)	鎮守鞍掛大明神(鞍掛神社)	文治2	郷人	栃木安蘇郡田沼町戸室
戸矢子有綱(戸屋子)	三騎神社			栃木安蘇郡葛生町仙波
豊臣秀吉	東照宮			栃木日光市山内
鳥居元忠	精忠神社	正徳2	鳥居忠英	栃木下都賀郡壬生町壬生
那須宗隆(余一)	御霊神社	建久2	福原五郎之隆	栃木那須郡小川町恩田
那須宗隆(余一)	御霊神社			栃木那須郡小川町浄法寺

備 考	典 拠
源平合戦の平家方武将	栃木県神社誌 p241, 田原神社の由来
源平合戦の平家方武将	田原神社の由来
源平合戦の平家方武将。当地で自刃という。なお尾張・四国・九州にも落人伝承有り	栃木県神社誌 p130
源平合戦の平家方武将	栃木県神社誌 p135
元和2年駿府久能山より日光へ改装されることになり、同3年2月東照大権現の神号。同年4月神霊を移す。正保3年以降、例年奉幣使派遣	名鑑 p136
東照宮と二荒山神社の木像神体をまつる	東照宮 p188
二荒山神社の三神とともにまつる	東照宮 p188
	東照宮 p188
昭和初年まで確認。現在未確認	東照宮 p188
昭和初年まで確認。現在未確認	東照宮 p188
	本庁データ
明治19年、二荒山神社境内へ移遷	東照宮 p57
	栃木県神社誌 p222
明治初年廃絶か	東照宮 p203
	東照宮 p203
	東照宮 p204
明治45年、天満宮境内石祠に移遷合祠	東照宮 p204
明治45年、天満宮境内石祠に移遷合祠	東照宮 p204
明治45年、天満宮境内石祠に多功・木田東照宮を合祀	東照宮 p204
	栃木県神社誌 p369
元和3年久能山より日光へ家康遺骸改葬中に当地に宿した。よって村民が跡の神社創設、後に音が近いため現社名に変える	栃木県神社誌 p115
	東照宮 p168
本社高橋（たかはし）神社は延喜式神名帳にあり、室町時代の結城氏や江戸幕府より社領、朱印地を与えた	神社誌料上 p1268
旧小林氏邸内	東照宮 p203
日光神社境内社か	東照宮 p204
本社村檜（むらひ）神社は延喜式内社。唐沢城主佐野氏、小野寺領主などにより社殿再建	神社誌料上 p1306
	栃木県神社誌 p181
日光東照宮の分霊勧請	栃木県神社誌 p422
家康50回忌に際し、館林藩主綱吉が願主	栃木県神社誌 p134
明治42年、賀茂別雷神社に合祀	東照宮 p204
藤原秀郷の15代。文治2年赤見山の戦い負傷、鞍掛山で自殺。同年郷人堂舎建立	栃木県神社誌 p128
	栃木県神社誌 p135
	栃木県神社誌 p56
関ヶ原合戦で伏見城の守将として戦死。子孫が壬生入封に際し城内に創祠	壬生領史略, 栃木県神社誌 p167
遺命により帰郷し当地に葬られたという	栃木県神社誌 p393
宗隆が多くの平家方を殺し病を得たことより、平家方霊もあわせ祀る	栃木県神社誌 p394

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
*那須宗隆(余一)	十二神社			栃木那須郡湯津上村蛭田
*新田義貞	両社神社			栃木足利市寺岡町
藤原利仁	関白山神社	明治11		栃木河内郡河内村関白
藤原成行	藤宮神社		当地家臣	栃木佐野市石塚町
藤原秀郷	唐沢山神社	明治12	佐野家(秀郷後裔)・旧臣	栃木佐野市富士町
藤原藤房	喜久沢神社	明和2	藩主松平氏	栃木鹿沼市見野
細川興元	大光霊神(八雲神社)	文化14	家臣	栃木芳賀郡茂木町茂木
源有綱	源三大明神(八幡宮)	1538	小山氏	栃木塩谷郡塩原町
源為朝	為朝神社(八剣神社境内社)			栃木安蘇郡田沼町梅園
源為朝(鎮西八郎)	為朝神社(人丸神社境内社)			栃木佐野市小中町
源為朝(藤原)	為朝神社(篠生神社境内社)			栃木足利市菓鹿町
*源義兼	八幡宮	正治1	源義氏	栃木足利市樺崎町
源頼朝	王子神社	建仁3	大橋太郎	栃木今市市大沢町
源頼朝	東照宮			栃木日光市山内
吉田久左衛門	吉田神社	文政2		栃木小山市羽川
(群馬)				
吾妻行盛(太郎行盛)	川戸神社			群馬吾妻郡吾妻町川戸
安倍宗任(鳥海弥三郎)	鳥海神社			群馬勢多郡東村小中
安倍宗任	鳥海神社			群馬勢多郡東村小中
安倍宗任	日枝神社			群馬勢多郡東村座間
岡登景能	顕信霊神(のち景能神社、岡登霊社。神明宮境内社)	宝暦2	地元農民	群馬新田郡穀塚本町大原
岡上景能(岡登景能)	岡登神社(八坂神社境内社)			群馬桐生市相生町
*鎌倉景政(権五郎景政)	赤城神社			群馬勢多郡富士見村赤城山
*鎌倉景政(権五郎景政)	赤城神社			群馬勢多郡富士見村漆窪
*鎌倉景政(権五郎景政)	八幡宮			群馬渋川市北原
鎌倉景正(権五郎景正)	御霊神社			群馬碓氷郡松井田町西野牧
鎌倉景政(権五郎景政)	伊勢宮			群馬吾妻郡中之条町中之条
*鎌倉景政(権五郎景政)	三原神社			群馬吾妻郡嫗恋村三原
*鎌倉景政(権五郎景政)	矢抜神社			群馬新田郡新田町中江田
鎌倉景政(権五郎景政)	御霊神社			群馬前橋市元総社町

備 考	典 拠
宗隆の兄弟なども祀る	栃木県神社誌 p429
	栃木県神社誌 p98
鎮守府將軍。賊を討伐、この地に死す。利仁が関白職にあったので関白村	全国上p198
天喜2年、上野国淵名庄から足利に進出し、足利両崖山に城を築いたという	栃木県神社誌 p124
明治維新後、佐野家は旧臣と相談の上、沢英社を結成し、明治12年東明会を創立して社殿造営。秀郷築城山緒ある唐沢山上に建設	名鑑p136
南朝家臣。長光寺より藤原の遺物（三重塔一基他）と称するものが発見され、藩主松平氏はこれを同寺に保管	名鑑p141
興元は細川忠興の弟で慶長15年茂木入部。茂木藩は熊本藩支藩。藩祖。法号大光院に因む。当初西郷内に祀る。昭和19年、八雲神社に合祀	山緒略記、栃木県神社誌 p330
源頼政の孫で頼朝の挙兵に従ったがのち義経に属し大和で自害という。ただし塩原での伝承があり、壇ノ浦の戦い後に義経を追う途中に当地で病死（文治5）という	那須文化研究 7号、p89
	栃木県神社誌 p133
	栃木県神社誌 p113
	栃木県神社誌 p103
義家の孫。義氏は義兼の子。本社は義家勧請。藤原泰衡追討の際、祈祷寄進。子が遺命により祀る	栃木県神社誌 p94
大橋は頼朝家臣で村民を集め勧請という	栃木県神社誌 p236
	栃木県神社誌 p56
江戸幕府代官。小出大助照方と合祀	栃木県神社誌 p194
鎌倉時代末期の岩槻城主。勢力をふるったが里見氏の戦いに敗れて子妻氏は没落という	本庁データ
宮城県亶理郡鳥海の浦が宗任の誕生地で、鳥海弥三郎と称したと考えられる	本庁データ
鳥海弥三郎と別神として祀られる。宗任は奥州随一の権勢を誇った安倍一族の嫡流。前九年の役に敗北して、四国の伊予から大宰府管内に再配流	本庁データ
	本庁データ
幕府代官。銅山街道の整備、大原宿をはじめとする新田村の設置、岡登用水の完成など当地域の開墾に尽力。地域のため本社明神宮なども建立。しかし貞享4年幕命で切腹。地元農民の運動により祭祀	上州のお宮とお寺神社篇 p40
岡登景能のこと。祖父景純の代から上野国の幕府直轄地の代官をつとめる関東18代官の一家。景能が代官に新任したのは寛文元年	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
景政は村岡忠道の五男といい合祀	本庁データ

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
鎌倉景政（権五郎景政）	五霊神社			群馬高崎市貝沢町
鎌倉景政（権五郎景政）	五郎神社			群馬伊勢崎市太田町
＊鎌倉景政（権五郎景政）	米沢神社			群馬太田市米沢
楠木正成	楠木神社			群馬館林市楠町
栗生頼方（左衛門）	栗生神社			群馬勢多郡黒保根村上田沢
群馬満胤（八郎満胤、那波八郎）	八郎神社	＊明治42		群馬伊勢崎市福島町
佐野常世（源左衛門）	佐野常世神社			群馬高崎市中佐野町
篠塚重弘（伊賀守重弘）	篠塚神社			群馬藤岡市篠塚
平将頼	生品明神（生品神社）	平安後期力		群馬新田郷新田町市野井
高山正之（彦九郎）	高山神社	明治6	地元有志	群馬太田市本町
田原忠綱（田原太郎）	太郎神社			群馬勢多郡東村神戸
田原忠綱（又太郎忠綱）	八幡宮			群馬桐生市梅田町
千葉常将（平常将）		承暦3	常将妻	群馬北群馬郡榛東村山子田
勅使河原直重	藤塚稻荷神社			群馬富岡市上黒岩
＊徳川家康（源家康）	赤城神社			群馬勢多郡富士見村赤城山
徳川家康	岩城東照宮（龍田神社境内社。現下室田大森神社）	＊明治40		群馬群馬郡榛名町中室田岩城
徳川家康	中室田東照宮（大山祇神社境内社）			群馬群馬郡榛名町中室田
徳川家康	上室田東照宮（諏訪神社境内末社力）			群馬群馬郡榛名町上室田
徳川家康	東照宮（榛名神社境内社）			群馬群馬郡榛名町榛名山
徳川家康	神戸東照宮（戸榛名神社境内社）			群馬群馬郡榛名町神戸
徳川家康	石上東照宮（石上神社境内社力）			群馬群馬郡倉淵村石上
徳川家康	伊勢森原東照宮（神明宮境内社力）			群馬群馬郡倉淵村三ノ倉
徳川家康	権田東照宮（榛名神社境内社）			群馬群馬郡倉淵村権田
徳川家康	水沼東照宮（水沼神社境内社力）			群馬群馬郡倉淵村水沼
徳川家康	川浦東照宮（浅間神社境内社）			群馬群馬郡倉淵村川浦
徳川家康	長岡東照宮（大宮神社境内社）	＊文化10		群馬北群馬郡榛東村長岡
徳川家康	砂川東照宮（武尊神社境内社。現青木神明宮）	＊明治年間		群馬利根郡利根村砂川
徳川家康	土出東照宮（武尊神社境内社。現鎌田笠科神社）	＊寛政12		群馬利根郡品片村土出
徳川家康	菅沼東照宮（二荒神社境内社）			群馬利根郡品片村菅沼
徳川家康	森下東照宮（大森神社境内社力）	天明5		群馬利根郡昭和村森下
徳川家康	櫛久保東照宮（千賀戸神社境内社力）			群馬利根郡昭和村櫛久保

備 考	典 拠
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
南朝方新田義貞の家臣	本庁データ
平安初めの群馬郡の地頭群馬大夫満行の子という。兄たちに岩屋に押し込められ大蛇になって祟ったという伝承が残る。那波八郎ともいわれ、玉村町火雷神社の那波八郎伝承のようにも伝える	本庁データ
宿を頼んだ修行者（北条時頼）のために、秘蔵の盆栽を焚いてもてなしたという、謡曲「鉢木」の架空の人物	本庁データ
邑楽に城を築く。新田義貞の挙兵に応じ、戦功により伊賀守に任ぜられた	本庁データ
将門の弟。「上野国志」には崇りをなすため武蔵に将門（神田明神）、上野に将頼（生品明神）を祀ったとある。本社は新田義貞が挙兵した社とされる	上州のお宮とお寺神社 篇 p38
明治6年県許可を得て生誕地細谷村に石祠を設け、同11年現在地に造営	名鑑 p158
田原太郎（依藤太）秀郷（藤原秀郷）の子孫、忠綱を祀ると伝わっている。平将門の乱を平定した秀郷の子孫がこの地を支配したとの伝説も残される	本庁データ
以仁王の挙兵に応じた源頼政を討った平家方武将という	本庁データ
千葉姓を名乗った初代・平常将。山子田神田に社殿完成という	本庁データ
新田義重の臣。後醍醐天皇比叡山脱出の際、三条河原で奮戦。羅城門前にて割腹死を遂げたという（『太平記』）	本庁データ
	本庁データ
明治40年、下室田の大森神社へ合祀	東照宮 p206
	東照宮 p206
	東照宮 p206
本社様名神社は延喜式内の古社。江戸末期まで上野寛永寺の管轄下	神社誌料上 p1003
	東照宮 p206
	東照宮 p206
	東照宮 p206
	東照宮 p206
	東照宮 p206
	東照宮 p206
文化10年再興	東照宮 p207
明治年間、青木の神明宮に移遷	東照宮 p206
明治40年、鎌田の笠科神社に移遷	東照宮 p207
鎌田の笠科神社に移遷か	東照宮 p207
	東照宮 p207
	東照宮 p207

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
徳川家康	貝野瀬東照宮(武尊神社境内社カ)	文政5	村民カ	群馬利根郡昭和村貝野瀬
徳川家康	川額東照宮(川額八幡宮境内社カ)	天保9	村民	群馬利根郡昭和村川額
徳川家康	入原東照宮(入原神社境内社)			群馬利根郡昭和村入原
徳川家康	東照宮	寛永1	松平直基	群馬前橋市大手町
徳川家康	勝沢東照宮(勝沢神社境内社)			群馬前橋市勝沢町
徳川家康	東照宮(八幡宮境内社)			群馬高崎市八幡町
徳川家康	東照宮(赤城神社境内社)			群馬太田市新野町
徳川家康	東照宮	寛永21	天海	群馬新田郡尾島町世良田
徳川家康	赤城神社			群馬新田郡尾島町世良田
徳川家康	東照宮	寛永年中	正田氏	群馬新田郡尾島町徳川
徳川家康	堀口東照宮(賀茂神社境内社)			群馬新田郡尾島町堀口
* 徳川家康	赤城神社	寛永19	幕命	群馬勢多郡富士見村赤城
徳川家康	深山東照宮(金山八幡宮境内社カ)	寛永19	幕命	群馬勢多郡富士見村赤城
* 徳川家康	浅間神社			群馬吾妻郡吾妻町荻生
徳川家康	郷原東照宮(榛名神社)	* 明治40頃		群馬吾妻郡吾妻町郷原
徳川家康	原町東照宮(大宮殿鼓神社境内社カ)			群馬吾妻郡吾妻町原町
徳川家康	須賀尾東照宮(大宮殿鼓神社境内社カ)			群馬吾妻郡吾妻町須賀尾
徳川家康	萩生東照宮(浅間神社)	* 明治42		群馬吾妻郡吾妻町萩生
徳川家康	矢倉東照宮(鳥頭神社境内社)			群馬吾妻郡吾妻町矢倉
徳川家康	川戸東照宮(浅間神社境内社カ)			群馬吾妻郡吾妻町川戸
徳川家康	大柏木東照宮(諏訪神社境内社カ)			群馬吾妻郡吾妻町大柏木
徳川家康	中之条東照宮(紫宮神社境内社)			群馬吾妻郡中之条町西中之条
徳川家康	長野東照宮(諏訪神社)	* 大正3		群馬吾妻郡長野原町横壁
徳川家康	東照宮(日光神社。現諏訪神社)	* 大正11		群馬吾妻郡嬬恋村芦生田
徳川家康	三原東照宮(三原神社)	* 明治40		群馬吾妻郡嬬恋村三原
徳川家康	神梅東照宮(六合神社)			群馬山田郡大間々町上神梅
徳川家康	東照宮(八幡宮境内社)	* 宝永7		群馬高崎市八幡町
徳川家康	八幡原東照宮			群馬高崎市八幡原
徳川家康	仲町東照宮(稻荷神社境内社)			群馬桐生市仲町
徳川家康	安中東照宮(龍馬神社境内社カ)			群馬安中市西上秋間
徳川家康	下川田東照宮(川田神社境内社)			群馬沼田市下川田
徳川家康	恩田東照宮(熊野神社境内社)			群馬沼田市恩田
* 徳川家康	愛宕神社	* 文政5		群馬沼田市恩田
徳川家康	石原東照宮	* 明治41		群馬渋川市石原
徳川家康	下仁田東照宮(馬山神社〔東神明宮〕境内社)			群馬甘楽郡下仁田町馬山
徳川家康	石打東照宮(菅原神社境内社)		村民	群馬邑楽郡邑楽町石打
徳川家康	松井田東照宮(八幡宮境内社カ)			群馬碓氷郡松井田村
徳川家光	東照宮(八幡宮境内社)			群馬高崎市八幡町
那波八郎	火雷神社			群馬佐波郡玉村町下之宮甲
新田義国	義国神社	寛永20		群馬新田郡尾島町岩松
* 新田義重	増殿神社			群馬太田市沖野
新田義貞	新田神社(八幡宮境内社)			群馬新田郡尾島町岩松

備 考	典 拠
	東照宮 p207
	東照宮 p207
	東照宮 p207
前橋藩祖松平直基が越前勝山城主になった際、同地に祭祀。以後移封の都度奉遷し、慶応元年再度当地へ移封され明治4年遷宮	上州のお宮とお寺神社 篇 p127
	東照宮 p204
	神社誌料上 p1024
本社の赤城神社は新田義貞の崇敬があつかったという	神社誌料上 p1029
天海は長楽寺住職。同寺には徳川氏の祖義季以来の墳墓があり、天海が住職となり東照宮も勧請されたと推測される。明治8年長楽寺より独立	上州のお宮とお寺神社 篇 p35
境内社を世良田東照宮に合祀か	東照宮 p205
旧正田家邸内社。明治初年に村の鎮守社	東照宮 p205
	東照宮 p205
赤城大明神他に合祀。本社は崇神代の創建という。酒井忠清社殿造営	全国上 p218
赤城大明神他に合祀。本社は崇神代の創建という。酒井忠清社殿造営	全国上 p218
	全国上 p218
明治40年頃、同所榛名神社に合祀	東照宮 p205
	東照宮 p205
	東照宮 p205
明治42年浅間神社境内神社であったものを本社に合祀	東照宮 p205
	東照宮 p205
	東照宮 p205
	東照宮 p205
	東照宮 p205
大正3年、諏訪神社境内社であったものを本社に合祀	東照宮 p206
大正11年、奥間の日光神社であったものを諏訪神社に合祀	東照宮 p206
明治40年、三原神社境内社であったものを本社に合祀	東照宮 p206
元は六合神社境内末社であったものを本社に合祀	東照宮 p207
	東照宮 p204
八幡原村古川の東照宮を移遷	東照宮 p204
	東照宮 p204
	東照宮 p205
	東照宮 p205
	東照宮 p205
愛宕神社に合祀	東照宮 p205
明治41年、大山祇神社に移遷	東照宮 p205
	東照宮 p207
	東照宮 p207
	東照宮 p207
	本庁データ
貞観年間、当地域民を苦しめた妖怪を退治し、朝廷から賞され那波郡をおさめたとの伝承あり。伊勢崎市八郎神社の群馬八郎満胤の伝承と相違	本庁データ
源義家の子。当地新田郷を子の新田義重に継承	本庁データ
源義家孫。当地新田郷を父義国より継承	本庁データ
本社は石清水八幡宮の勧請で新田郡の総鎮守	神社誌料上 p1036

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
新田義貞	新田神社	明治6	地元有志	群馬太田市金山町
新田義貞	新田社（高崎神社境内社）			群馬高崎市赤坂町
新田義貞	新田神社（赤城神社境内社）			群馬太田市新野町
新田義貞	新田神社			群馬太田市金山町
沼田景泰	武尊神社			群馬沼田市下沼田町
藤原長良	長良神社			群馬太田市古戸
藤原長良	長良神社	貞観12年	赤井良綱 （赤岩城主）	群馬館林市城西
藤原長良	長良神社	貞観11年		群馬邑楽郡千代田町瀬戸井
藤原長良他	長柄神社			群馬邑楽郡邑楽町篠塚
*藤原長良	長良神社			群馬邑楽郡邑楽町中野
*源為朝	栗生神社			群馬勢多郡黒保根村上田沢
*源為朝	赤城神社			群馬勢多郡黒保根村下田沢
*源為朝	火雷神社			群馬佐波郡赤堀町香林甲
*源為朝	大雷神社			群馬佐波郡赤堀町西久保
*源為朝	瑠珂比神社			群馬佐波郡境町境
源義仲（木曾義仲）	津雲神社			群馬碓氷郡松井田町下増田
源頼政	頼政大明神（頼政神社）	元禄11	松平輝貞	群馬高崎市宮元町
村岡忠道（小五郎忠道）	御霊神社			群馬前橋市元慈社町
（埼玉）				
秋山光政（新蔵人光政）	新蔵人神社	天和3		埼玉児玉郡児玉町秋山
*足利輝氏	御所宮神社	天正12		埼玉北葛飾郡杉戸町下高野
岡部忠澄（六弥太）	御霊神社（権五郎神社）	*江戸期		埼玉飯能市南
加藤清正	清正公大神儀・為朝大明神石祠（内川神社内）			埼玉吉川市上内川
加藤清正	清正公大明神（香取御嶽神社）	文政2		埼玉吉川市中曾根
金井新左衛門他九士	十士明神（十社神社）	貞治2	僧秀賢	埼玉入間郡毛呂山町大類
鎌倉景政（権五郎景政）	御霊神社（権五郎神社）		村人	埼玉飯能市南
鎌倉景政（権五郎景政）	御霊神社	中世期	大庭景親一党	埼玉秩父郡両神村薄
鎌倉景政（権五郎景政）	御霊社（豊布都神社）	中世期		埼玉熊谷市上奈良
鎌倉景政（権五郎景政）	御霊社（大寄八幡大神社）	中世期	榛沢六郎	埼玉大里郡岡部町榛沢

備 考	典 拠
金山頂上の義貞の城址本丸に鎮座	上州のお宮とお寺神社 篇 p48
本社高崎神社は和田正信が城内榎森に勧請していた熊野神などを慶長3年、井伊直政が諏訪社境内に移遷	神社誌料上 p1014
本社赤城神社は由緒等不詳。新田義貞の崇敬があつかったという	神社誌料上 p1029
	本庁データ
宝治合戦により、三浦泰村の残党は沼田庄に落ちのび、泰村の子の家村は三浦姓をかせ沼田景泰と称し、沼田城を築いたという	本庁データ
古来当所の産土神。明治37年に利根河岸鳥尾先より奉祀	名鑑 p158
赤岩城主赤井良綱が瀬戸井に創立し、郡中の鎮守となし、後、赤井照光が館林城主となり、天福寺境内・現在地に奉遷。元禄9年同寺の側に社殿再建	名鑑 p159、神社誌料 上 p1044
藤原長良、東国平定の折に善政を行ったので、その余徳を慕い、これを勧請して、上野国佐貫荘長柄郷瀬戸井村上の森に造営という。佐貫荘の総鎮守。これより文明年間以降各村に分社されるという	名鑑 p161、神社誌料 上 p1047
元慶5年大和国より藤原長良の霊を遷し相殿に奉祀	名鑑 p162
古来、本村の総鎮守。明治5年郷社	名鑑 p162
平安末期の武将源為義の子。鎮西八郎と称す。保元元年 保元の乱には崇徳上皇方ににつき、敗れて伊豆大島に流罪	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
輝貞は松平（太河内）高崎藩初代藩主として下野壬生より入部。始祖の頼政を石上寺境内に祭祀。輝貞が越後村上より再入封直後の享保3年に大楽寺境内（現在地）に移築。正月の祭礼行列には城下町内からも参加という	上州のお宮とお寺神社 篇 p128
桓武天皇第五の皇子葛原親王より八世の後胤という。相模に住し鎮守府將軍鎌倉権守とした。前九年・後三年の役に副将格で参陣という。五男が鎌倉権五郎景政とされる	本庁データ
南朝方の桃井直常の部下として転戦。北朝方の阿保忠実との一騎打ちの逸話あり（太平記）、猛者として知られた	埼玉の神社北足立他 p784
領主足利輝氏を日本武尊を祀る本社に合祀したという（高野村志稿）	埼玉の神社大里他 p844
鎌倉期当地の領主	埼玉の神社入間他 p314
水害による疫病を防ぐために、疫病を防ぐに足る豪の者として源為朝とともに祭祀	埼玉の神社大里他 p946
普門品供養のために造立	埼玉の神社大里他 p960
貞治2年足利基氏と芳賀某が当地苦林野で合戦、僧秀賀が芳賀の家臣金井ほか9名の霊を祀り、十士明神と称した。産土神（明細帳）	埼玉の神社入間他 p702
当地に疫病が発生した時に村人が勧請という。氏子落合氏の先祖が鎌倉より勧請ともいう	埼玉の神社入間他 p314
社伝では文治年間、景政の曾孫の大庭景親の一党が源頼朝の追手を逃れ当地に落ち延び、八幡太郎とともに祀ったという	埼玉の神社入間他 p1432
地内の荒川の川筋の氾濫による疫病などの厄災除。怨霊・御霊の祟りが権五郎の五郎と音が似ているとも	埼玉の神社大里他 p84
当地を領した榛沢氏勧請という（新編武蔵国風土記稿）。景政は後三年の役で源義家家臣として武名をあげる	埼玉の神社大里他 p238

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
鎌倉景政（権五郎景政）	御霊神社	中世期		埼玉東松山市正代
河原高直（太郎）	河原神社	文明18		埼玉児玉郡児玉町風洞分
河原盛直（次郎）	河原神社	文明18		埼玉児玉郡児玉町秋山
黒田大和守	黒田権現社（稻荷神社境内社）	寛政期	村人	埼玉北埼玉郡大利根町中渡
黒田氏	黒田社（鷲神社境内社）	天明期		埼玉北埼玉郡大利根町外記新田
平維盛	六代権現（力神社）	*江戸期		埼玉川口市伊刈
平重盛	小松大明神・小松寺（小松神社）	治承3	筑後守貞能	埼玉羽生市小松
平重盛	小松神社	永禄2	小松大膳	埼玉児玉郡神川町小浜
平将門	将軍将門宮（熊野神社）	応永5		埼玉入間郡越生町黒山
平将門	平将門八幡	*天保9		埼玉秩父郡大滝村三峰
平将門	赤木神社（香取神社）	*明治44		埼玉幸手市平須賀
徳川家康	仙波東照宮	元和3	天海僧正	埼玉川越市小仙波町
徳川家康	笠幡東照宮			埼玉川越市笠幡
徳川家康	古谷本郷東照宮（古尾谷八幡神社境内社カ）			埼玉川越市古谷本郷
徳川家康	大興寺東照宮	江戸期	越前松平氏	埼玉川越市
徳川家康	連鑿寺東照宮			埼玉川越市連鑿町
徳川家康	八幡社			埼玉川越市野田新田
徳川家康	東照宮（諏訪神社）	文政期	松平忠堯	埼玉行田市本丸
徳川家康	長野東照宮（伊豆神社）			埼玉行田市桜町
徳川家康	東照大神社（秩父神社境内社）	元和5		埼玉秩父市番場町
*徳川家康	中町東照宮（今宮八大権現社）	元和5		埼玉秩父市中町
徳川家康	東照宮（旧西光院境内、八幡神社境内社）	近世	真言宗西光院	埼玉さいたま市大宮区飯田新田
徳川家康	八幡神社			埼玉さいたま市大宮区大成町
徳川家康	水利土東照宮			埼玉さいたま市大宮区水利土
徳川家康	大興寺東照宮	宝暦年中		埼玉さいたま市浦和区大門
徳川家康	浄安寺東照宮（愛宕神社）	*明治初年		埼玉岩槻市本町
徳川家康	大沢東照宮（香取神社境内社カ）			埼玉越谷市大沢
徳川家康	大聖寺東照宮	*明治28		埼玉越谷市相模町
*徳川家康	鴻神社			埼玉鴻巣市本宮町
徳川家康	鴻巣御殿跡東照宮	元和年間	小池氏	埼玉鴻巣市御成町
徳川家康	深井家東照宮		深井氏	埼玉鴻巣市
徳川家康	加村家東照宮		加村氏	埼玉鴻巣市寺谷
徳川家康	上彦川戸東照宮（香取神社境内社）	*慶安4		埼玉三郷市上彦川戸
徳川家康	加藤家東照宮			埼玉三郷市戸ヶ崎
*徳川家康	伊奈利神社			埼玉熊谷市仲町

備 考	典 拠
	埼玉の神社大里他 p1046
河原氏は武蔵七党私（きさい）市党に属する一族で南川原村や行田市河原に住したとされる。高直は弟盛直とともに生田の森の合戦（現神戸市）で討死して源範頼に勝利をもたらした（平家物語）。兄弟は当地に居住したという（新編武蔵国風土記稿）	埼玉の神社北足立他 p774
河原高直の弟	埼玉の神社北足立他 p774
生祠、石祠。寛政年中領主黒田大和守の善政を徳として建立	埼玉の神社入間他 p1048
生祠、石祠。天明の飢饉に際し、救済米放出	埼玉の神社入間他 p1090
平清盛の長子重盛の子で嫡流。後に出家して妙覚を名乗ったという	埼玉の神社北足立他 p20
小松内府平重盛は本社に熊野白山両権現勧請。治承3年の重盛没後、重臣貞能が出家、小松寺造営。埋葬地脇に小松大明神建立。明治元年別当小松寺僧は小松神社祠官	埼玉の神社入間他 p958
上州平井城主上杉憲政の臣の小松が当地に寓居した際に創建という（郡村誌・口碑。異説有）	埼玉の神社北足立他 p868
榎札では応永5年造営。氏子間では将門を討った藤原秀郷の守り本尊の成田不動尊参詣は禁忌とされた	埼玉の神社入間他 p602
天保9年「村差出明細帳 古大滝村」にあり	埼玉の神社入間他 p1407
当地赤木は将門終焉の地といわれ、将門の血が木を赤く染めたことに地名由来があるという	埼玉の神社大里他 p626
家康の遺言により久能山から日光へ遷宮の際、喜多院に勧請という	埼玉の神社入間他 p98
三島日光神社の相殿か	東照宮 p208
	東照宮 p208
のちに前橋へ移遷し、前橋東照宮	東照宮 p50
熊野神社に合祀か	東照宮 p208
家康の休憩地に塚を築きまつる（新編武蔵風土記稿）	東照宮 p180
家康の娘亀姫が父の肖像を持ち、子の忠明に伝え、忠明が大和郡山に社を造営したのはじまる。その後、移封の都度遷座。忠堯が伊勢桑名から当地忍藩へ移封に際し、城内に勧請。祭礼日4月17日には諏訪社とともに城下町人の参詣が許可、地子免許地への感謝の念から、奉納金を行った	埼玉の神社入間他 p772, 798
伊豆神社に合祀	東照宮 p208
本社の秩父神社は延喜の小社	神社誌料上 p948
本社の相殿。廃絶	東照宮 p208
徳川家康が岩槻に向かう途中、当地の老松を賛美。この家康ゆかりの御指差松にちなみ西光院が境内に祀る。この時相殿としたのが本社（八幡神社）という	埼玉の神社北足立他 p264
	埼玉の神社北足立他 p266
旧熊野山王社。慈眼寺境内社に合祀か	東照宮 p208
廃絶	東照宮 p209
明治初年、愛宕神社境内社に合祀	東照宮 p172
	東照宮 p208
明治28年、焼失廃絶	東照宮 p173
小池家東照宮合祀	埼玉の神社北足立他 p334
小池家東照宮鴻巣御殿跡	東照宮 p183
太平洋戦争後、廃絶	東照宮 p145
邸内社	東照宮 p144
	東照宮 p208
山王社カ	東照宮 p145
	埼玉の神社大里他 p20

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
徳川家康	東照宮			埼玉熊谷市銀座町
徳川家康	龍淵寺東照宮			埼玉熊谷市上之
徳川家康	熊谷寺東照宮	元和2		埼玉熊谷市仲町
徳川家康	小島東照宮（唐鈴神社境内社力）			埼玉本庄市小島
* 徳川家康	塚越東照宮（大宮住吉神社）			埼玉坂戸市塚越
徳川家康	小沼東照宮			埼玉坂戸市小沼
* 徳川家康	横曽根神社			埼玉川口市南町
徳川家康	長徳寺東照宮			埼玉川口市芝
徳川家康	大徳寺東照宮			埼玉川口市道合
徳川家康	船津家東照宮			埼玉鳩ヶ谷市里
徳川家康	観音寺東照宮	* 万治3頃		埼玉東松山市松山
徳川家康	機神社（稲荷神社境内社）	寛政年間		埼玉蕨市塚越
徳川家康	東照宮社（愛宕神社境内社）	* 大正12		埼玉羽生市上新郷
徳川家康	東照大権現（鷲神社境内社）			埼玉羽生市発戸
徳川家康	法台寺東照宮			埼玉新座市道場
徳川家康	高山不動堂東照宮			埼玉飯能市高山
徳川家康	東照宮（神明山王神社）	元和2		埼玉日高市高萩
徳川家康	野々宮神社			埼玉日高市野々宮
徳川家康	高麗神社			埼玉日高市新堀
徳川家康	東照宮（三峯神社境内社）	寛永1		埼玉秩父郡大滝村三峰
徳川家康	万福寺東照宮（万福寺境内社）			埼玉秩父郡皆野町皆野
徳川家康	東照宮（八宮神社境内社）	近世	高木甚左衛門	埼玉比企郡小川町中爪
徳川家康	川島東照宮（氷川神社）	安永7	村民	埼玉比企郡川島町中山
徳川家康	東照宮（天神社）	江戸期		埼玉児玉郡児玉町秋山
徳川家康	浅見東照宮（八幡神社境内社）			埼玉児玉郡児玉町下浅見
徳川家康	小平東照宮（石上神社境内社）			埼玉児玉郡児玉町小平
徳川家康	吉田林東照宮			埼玉児玉郡児玉町吉田林
徳川家康	関口東照宮（丹生明神社境内社力）			埼玉児玉郡神川村関口
* 徳川家康	元阿保東照宮（阿保神社）			埼玉児玉郡神川村元阿保
徳川家康	奈花東照宮（稲荷神社境内社。現上根神社境内社）	文政13	村民	埼玉大里郡沼巻町上根
* 徳川家康	東照大神（身代神社）			埼玉南埼玉郡宮代町須賀
徳川家康	西光院東照宮			埼玉南埼玉郡宮代町東
徳川家康	東大寺東照宮			埼玉北葛飾郡杉戸町下高野
徳川家康	杉浦家東照宮			埼玉北葛飾郡松伏町大川戸
徳川家康	山崎家東照宮			埼玉北葛飾郡松伏町大川戸
徳川家康	吹上東照宮（大天八公社境内社）			埼玉北足立郡吹上町
徳川光圀（源義公）	桜木神社	嘉永3	森田七郎左衛門	埼玉所沢市西新井町
戸田出雲守	戸田宮（八幡神社境内社）			埼玉羽生市名
豊臣秀吉	野々宮神社			埼玉日高市野々宮
豊臣秀吉カ	豊聴耳（とよとみ）神社（金讃神社境内社）			埼玉本庄市宮本町
新田義興	新田大明神（愛宕神社）	正平16	足利基氏	埼玉入間市豊岡

備 考	典 拠
伊奈利神社へ移遷か	東照宮 p209
昭和25年、焼失廃絶	東照宮 p180
徳川家康はたびたび当熊谷寺へ立ち寄り、寺領30石を与えた。のちに廃絶。伊奈利神社へ移遷か	東照宮 p180
	東照宮 p209
	東照宮 p209
少林寺境内観音堂か	東照宮 p209
	埼玉の神社北足立他 p68
廃絶。位牌現存	東照宮 p209
廃絶	東照宮 p209
邸内社	東照宮 p146
万治3年頃再興。明治初め廃寺のため廃絶	東照宮 p168
	東照宮 p153
	埼玉の神社入間他 p932
鷲神社境内社へ合祀	埼玉の神社入間他 p1038
境内東照宮廃絶	東照宮 p209
廃絶か	東照宮 p209
「山王宮・東照宮」と刻まれた石碑があり、元和2年の建立という	埼玉の神社入間他 p656
	埼玉の神社入間他 p668
境内末社を、後に本社に合祀	東照宮 p210
本社の三峯神社は聖護院天台修験の本山。またお犬さま信仰があり、三峯講が形成された	神社誌料上 p954
	東照宮 p210
中爪の善光寺を創建(元和2)高木が同寺に絹本着色の徳川家康像を奉納した際に創建したともいう	埼玉の神社大里他 p1180
明治40年氷川神社合祀	東照宮 p209
新編武蔵国風土記稿で本社(天神社)境内社、現況では確認不可	埼玉の神社北足立他 p794
	東照宮 p209
	東照宮 p209
日枝神社相殿か	東照宮 p209
	東照宮 p209
	東照宮 p209
旧田島村稻荷神社境内より上根社境内末社に移遷	東照宮 p210
	埼玉の神社北足立他 p1464
昭和27年、焼失廃絶	東照宮 p210
明治5年、廃寺廃絶	東照宮 p210
邸内社	東照宮 p173
邸内社	東照宮 p146
廃絶	東照宮 p210
農民で国学者の森田が本居宣長を主神に合祀	埼玉の神社入間他 p226
生祠	埼玉の神社入間他 p1022
	埼玉の神社入間他 p668
本社の金讃(かなさん)神社は兄玉党本庄氏の本貫地のある	神社誌料上 p941
新田義興は足利基氏を討とうとして矢口の渡しに戦死。崇りを鎮めるために祭祀	埼玉の神社入間他 p430

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
新田義興	新田大明神（東愛宕神社）	享保年間	粕谷善三	埼玉入間市東町
新田義興臣一三士	一三騎稻荷神社（愛宕神社境内社）		足利基氏	埼玉入間市豊岡
新田氏代々（岩松家先祖）	釜山神社	天文2	岩松家	埼玉大里郡寄居町風布
畠山重忠	畠山重忠公之墓（井原神社内）			埼玉大里郡川本町畠山
畠山重忠	秩父神社（菅谷神社境内社）	貞永1カ	地域民	埼玉比企郡嵐山町菅谷
榛沢成清	成清大神社（榛沢六郎成清社。八幡大神社境内社）	元久2	榛沢成清家臣	埼玉大里郡岡部町後榛沢
＊比企能員	八王子権現社（熊野神社）			埼玉東松山市岩殿
日出間元春	氷川神社		日出間家	埼玉上福岡市川崎
藤田重利（康邦）	藤田社（藤田神社）	＊江戸期		埼玉大里郡岡部町本郷
藤田重利室	藤田社（藤田神社）	＊江戸期		埼玉大里郡岡部町本郷
藤田政行	藤田社（藤田神社）	＊江戸期		埼玉大里郡岡部町本郷
藤原千方（修理大夫）	千方社（千方神社）	中世期		埼玉加須市中央
藤原千方（修理大夫）	千方神社			埼玉加須市土手
藤原千方（修理大夫）	千方神社	中世期	里人	埼玉羽生市堤
藤原恒儀	恒儀大明神（羽尾神社）	天長6	藤原恒政	埼玉比企郡滑川町羽尾
藤原利仁	利仁將軍社（利仁神社）	延長1		埼玉東松山市下野本
堀田相模守	堀田宮（香取神社内境内社）	文政2		埼玉羽生市鶴指
堀田相模守	堀田大明神（氷川神社内）	明和7		埼玉比企郡吉見町今泉
堀田備前守	宮（氷川神社内）	天保9	地域民	埼玉蓮田市高虫
本多弾正大弼	本多宮（千方神社）	文政6	村人	埼玉羽生市堤
松平忠明	東照宮（諏訪神社）			埼玉行田市本丸
松平尹親（九郎左衛門）	赤城社（八幡神社）	享保8		埼玉比企郡吉見町荒子
源為朝	清正公大神儀・為朝大明神石祠（内川神社内）			埼玉吉川市上内川
源為朝	八郎神社（角折神社）	＊享保期		埼玉本庄市都島
源義家	塚越神社（大宮住吉神社）	文治3	源頼朝	埼玉坂戸市塚越
源義家	八幡社（八幡神社）	中世期		埼玉鳩ヶ谷市八幡木
源義賢（帶刀義賢）	浅間神社	天福期	源義賢家臣の子孫	埼玉比企郡滑川町福田
源義平	御霊神社	中世期		埼玉東松山市正代
源頼朝	野々宮神社			埼玉日高市野々宮

備 考	典 拠
扇町屋村の名主粕谷善三が村の開拓に関わり愛宕権現新田大明神（現愛宕神社）を勧請という	埼玉の神社入間他 p428
新田義興家臣を祀る。一三士の塚もあり崇るという（武蔵国風土記稿）	埼玉の神社入間他 p430
岩松家は新田氏を先祖にもつ旧家で、当地関所の関番。新田義貞・義興・義宗などが祭祀	埼玉の神社大里他 p408
板東八平氏の一族秩父重綱の嫡流。当地莊園領主として重忠先代重能が畠山を名乗る	埼玉の神社大里他 p278
当地に菅谷館を構え居住。北条氏により二俣川（現横浜市旭区）で討死。当地での善政、死を悼み祀ったという（社記）	埼玉の神社大里他 p1416
平安後期、当地の領主。畠山重忠の重臣で、北条時政の策略により二俣川で討死。従者が遺骸を持ち帰り塚を築く	埼玉の神社大里他 p268
比企氏は鎌倉御家人だったが北条時政により滅亡。能員の妻が本社に逃れたという伝承あり	埼玉の神社大里他 p1036
甲斐武田氏家臣日出間元春ほか2名が当地に土着して開村との口碑があり、元春が祭神ともいう	埼玉の神社入間他 p484
当地域の領主。藤田重利は天文年間北条氏服属。「新編武蔵国風土記稿」にあり	埼玉の神社大里他 p274
当地域の領主藤田重利夫人	埼玉の神社大里他 p274
当地域の領主藤田重利の先祖	埼玉の神社大里他 p274
佐野唐沢山城主鎮守府将軍藤原秀郷六男。千方も鎮守府将軍、当地を治める	埼玉の神社入間他 p878
千方（ちかた）様と呼ばれる座像有り	埼玉の神社入間他 p880
この地に善政をしたという千方を祀る。境内の御手洗池は婦人病・癰病などに効いたという	埼玉の神社入間他 p980
比企一郡の領主で相模が強かったという。没後翌年（天長6）、嫡子恒政により社殿造営という（恒儀上洛）。武人として崇敬	埼玉の神社大里他 p980
鎮守府将軍。比企氏は利仁将軍の子孫という。麻疹で苦しんでいた帝が当社への奉幣で平癒したなどにより諸病平癒の利益があるという	埼玉の神社大里他 p1074
当地を治め善政を行ったとして生祠に祀られる	埼玉の神社入間他 p952
当地は宝暦13年より幕末まで堀田氏領。堀田相模守の善政を称え生祠に祀られたという	埼玉の神社大里他 p1370
定助郷伝馬役の休役を認められたため備前守等3名を祀る（近世社寺報告書）	埼玉の神社北足立他 p1364
当地を領し善政を施したとして、文政6年村内飯塚家邸内に生祠として祀る	埼玉の神社入間他 p980
家康の娘亀姫が父の肖像を持ち、子の忠明に伝え、忠明が大和郡山に東照宮を造営、東照宮は移封のたびに遷座	埼玉の神社入間他 p772, 798
当地域の洪水防止のため川堀普請を行った代官。享保20年4月4日没なので当初は生祠か。没日を祭日にしたという。当地商人の岩崎家が多く奉納を行う。明治41年本社（八幡神社）へ合祀	埼玉の神社大里他 p1364
水害による疫病を防ぐために、疫病を防ぐに足る豪の者として加藤清正とともに祭祀	埼玉の神社大里他 p946
当地の属した那波郡は源為朝家臣の那波太郎の在所とされる。疱瘡除の神。とうもろこしを禁忌する為朝伝承あり	埼玉の神社北足立他 p704
源氏の遠祖である義家は本社（住吉神社）に祈願していることから、義家霊が勧請されたという	埼玉の神社入間他 p518
宝暦11年の武者絵馬など武者を描く絵馬が多く奉納され、源氏の武将にちなむ図柄が本殿壁面に彫られる	埼玉の神社北足立他 p504
源義仲の父。甥の義平に討たれる。義賢家臣の子孫が当地に土着し天福期に祀ったという（新編武蔵国風土記稿など）	埼玉の神社大里他 p1272
源義朝長男。15歳の時、叔父源義賢と戦ってこれを斬り、悪源太の異名を得るが、このため御霊にまつられたともいう（正代行平置文）	埼玉の神社大里他 p1046
	埼玉の神社入間他 p668

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
(千葉)				
青木昆陽(文蔵)	昆陽神社(秋葉神社境内社)			千葉千葉市花見川区幕張町
*植村泰忠	鳴海神社	宝暦1	植村家	千葉勝浦市浜勝浦
牛尾胤仲	親社	江戸期		千葉香取郡多古町多古
太田道灌	末広神社	寛政1	太田資愛	千葉山武郡松尾町松尾
*奥野甚五郎	奥野神社	享保15		千葉鴨川市南小町
加藤清正	四社大神(四所神社)			千葉県佐倉市小竹
鎌倉景政(権五郎景政)	御霊神社	*文政5		千葉千葉市若葉区小倉町
鎌倉景政(権五郎景政)	五良神社			千葉印旛郡酒々井町上本佐倉
*鎌倉景政(権五郎景政)	三社神社			千葉千葉市若葉区小食土町
鎌倉景政(平景政)	御霊神社	慶長14	村内駒場有志	千葉安房郡和田町小川
里見安房守	安房神社			千葉市川市中山
平将門	将門社(将門神社)	天慶3	遺臣	千葉我孫子市日秀
平将門	将門神社			千葉東葛郡沼南町岩井
平将門	将門神社(八幡神社境内社)			千葉佐倉市大佐倉
徳川家康	御滝神社			千葉千葉市稲毛区長沼町
徳川家康	東照宮(意富比神社境内社、現常磐神社)	元和8		千葉船橋市宮本
徳川家康	船橋御殿跡東照宮	貞享年中力		千葉船橋市本町
徳川家康	光明寺東照宮(光明寺境内)	嘉永7		千葉船橋市飯山満町
徳川家康	医王寺東照宮(東照宮社)	江戸期		千葉八日市場市イ2435
徳川家康	飯倉東照宮(三社神社境内未社)			千葉八日市場市飯倉西ノ内
徳川家康	東照社(葛飾八幡神社境内社)	嘉永7		千葉市川市八幡
*徳川家康	国分東照宮	文化6		千葉市川市北国分町
徳川家康	東照神社(八剣八幡神社境内社)			千葉木更津市高柳
徳川家康	木更津東照宮(八剣八幡神社境内社)	元和頃		千葉木更津市富士見
徳川家康	長須賀東照宮(日枝神社境内社)			千葉木更津市長須賀
*徳川家康	佐原東照宮(水神社)	寛永14		千葉佐原市長島
徳川家康	八筋川東照宮(明気社境内社)	文化1		千葉佐原市八筋川
徳川家康	野田東照宮			千葉野田市山崎
徳川家康	五木新田東照宮	享保15	代官	千葉野田市五木新田
徳川家康	佐野東照宮			千葉勝浦市佐野
徳川家康	東照宮(姉崎神社境内社)			千葉市原市姉崎
徳川家康	富津東照宮(八雲神社境内社)			千葉富津市岩坂
徳川家康	東漸寺東照宮			千葉富津市小金
徳川家康	八千代東照宮(八幡神社境内社力)			千葉八千代市吉橋
徳川家康	習志野東照宮(蔵王権現神社)			千葉習志野市実籾本郷
徳川家康	八街東照宮(権現神社)	明治8		千葉八街市は16

備 考	典 拠
幕府書物方	千葉県神社名鑑 p44
泰忠、家康関東入国に際し当地付近に三千石拝領。本社創建。天和2年3代後の忠朝大名取立（勝浦藩）。宝暦1年領地没収に際し配祠	千葉県神社名鑑 p748
胤仲は天正1年多古城を居城としたが、同13年、飯櫃城主山室氏などに攻略、落城という	多古由來記、千葉県神社名鑑 p561
明治2年太田資義が転封に伴い当地に移し、藩鎮守とする	千葉県神社名鑑 p452
享保15年、京都卜部家より奥野大明神の神号授与。天海が陸奥より徳川家と縁ある甚五郎の霊を勧請との伝承。実在者か不詳	鴨川市歴史資料館、千葉県神社名鑑 p832
境内碑石「文政五年九月吉日」とあり	本庁データ 千葉県神社名鑑 p31
	千葉県神社名鑑 p288
	千葉県神社名鑑 p34
平景政は鎌倉景政か。慶長14年9月9日創建	千葉県神社名鑑 p849
安房守は里見家10代目忠義か。慶長19年大久保忠隣（夫人の祖父）の事件にかかわりがあったとして、常陸国鹿島郡3万石の替地として、伯耆国倉吉に左遷転封	千葉県神社名鑑 p141
明治42年、現社名	千葉県神社名鑑 p220
	千葉県神社名鑑 p225
	千葉県神社名鑑 p251
	東照宮 p210
家康以来、本社に寄進	千葉県神社名鑑 p160
家康は当地の御成御殿を鷹狩に際し利用したという	東照宮 p181
	東照宮 p210
八日市場町内の医王寺に東照宮安置、明治2年東照宮と改称	千葉県神社名鑑 p614
	東照宮 p210
本社の葛飾八幡（やはた）神社は寛平年間の創立という。徳川家康が武家の崇敬あつて旧記により、朱印地を与える	神社誌料上 p1149
	東照宮 p210
本社の八剣八幡神社（八幡神社とも）は源頼朝社殿造営。江戸幕府朱印地を与える	神社誌料上 p1117
	東照宮 p210
	東照宮 p210
水神社相殿	東照宮 p210
	東照宮 p211
	東照宮 p211
	東照宮 p211
八幡神社に合祀か	東照宮 p211
本社の姉崎神社は延喜式内社。治承4年源頼朝が社前で兵を閲しこれより流鏑馬神事が行われたという	神社誌料上 p1076
	東照宮 p211
旧東漸寺境内。社殿廃絶、神体は本堂に移遷	東照宮 p211
	東照宮 p211
	東照宮 p211
	東照宮 p211

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
徳川家康	栗生野東照宮	享保20	村民	千葉茂原市栗生野
徳川家康	那古寺東照宮			千葉館山市那古
徳川家康	府馬東照宮（愛宕神社境内社）	文政13		千葉香取郡山田町府馬
徳川家康	東照宮（飽富神社境内社）	元和8	幕臣	千葉袖ヶ浦市飯富
徳川家康	岩井東照宮（国勝神社境内社）	* 嘉永6		千葉袖ヶ浦市岩井
徳川家康	東照神社（一松神社境内社）			千葉長生郡長生村一松
徳川家康	東照神社（日吉神社境内社）	元和年中	村民	千葉山武郡大網白里町池田
徳川家康	南横川東照宮	元和3		千葉山武郡大網白里町南横川
徳川家康	鳴浜東照宮（八幡神社境内社力）			千葉山武郡成東町
徳川秀忠	常磐神社（意富比神社境内社）			千葉船橋市宮本
藤原師賢	小御門神社	明治10		千葉香取郡下総町名古屋
堀田正睦（相模守）	石尊神社（穴川神社）	文政9		千葉千葉市稲毛区穴川
間宮士信（庄五郎）	高津比咩神社			千葉八千代市高津
源高秀	高津比咩神社			千葉八千代市高津
* 源義家	浅間神社			千葉松戸市小山
源義家	白幡神社			千葉成田市長田
源義家	神明社	元亀1カ		千葉八街市大谷流
源義家（八幡太郎義家）	八幡神社			千葉印旛郡印西町白幡
* 源義家	白幡神社（須賀神社）	* 明治41		千葉鴨川市広場
* 源義家	丸郷神社			千葉安房郡丸山町丸本郷
* 源義家	白幡神社（賀茂神社）			千葉安房郡丸山町加茂
源義家	八幡神社			千葉印旛郡白井町復
源義家	八幡神社			千葉印旛郡白井町平塚
源頼家	白旗神社			千葉千葉市緑区刈田子町
源頼家	白幡八幡神社（大嶽神社）	* 昭和52		千葉安房郡天津小湊町内浦
源頼朝	白旗神社			千葉千葉市緑区刈田子町
源頼朝	白幡神社			千葉市原市村上
源頼朝	白幡神社			千葉成田市北須賀
源頼朝	白幡神社	元禄10		千葉茂原市早野
源頼朝	白幡神社（八幡神社）	* 昭和7		千葉茂原市八幡原
源頼朝	白幡神社			千葉山武郡大網白里町下ヶ傍示
源頼義	八幡神社（賀茂神社）			千葉安房郡丸山町加茂
（東京）				
* 井伊直弼	菅原神社	明治3	村民	東京鉾江市猪方
伊奈半左衛門	伊奈半左衛門社（八剣神社境内社）			東京都調布市菊野台
太田道灌	道灌靈社（妙義神社境内社）			東京豊島区駒込
太田道灌	東瀧森稲荷神社（田端八幡神社境内社）			東京北区田端
小笠原貞頼	小笠原神社（大神山神社境内社）			東京小笠原村父島
加藤景忠	八幡社（加藤神社）		村民	東京西多摩郡瑞穂町箱根ヶ崎
加藤清正	清正公、加藤神社（八幡神社境内社）			東京大田区東雪谷

備 考	典 拠
現錦織家所有	東照宮 p211
旧郡古寺境内か。現在観音堂内に座像安置	東照宮 p211
	東照宮 p211
本社の飽富（おふ、あきとみ）神社は延喜式にある	神社誌料上 p1090
嘉永6年再興。のち廃絶	東照宮 p211
本社の一松（ひとつまつ）神社は第六天神諏訪神社と称したが、維新に祭神が改まる	神社誌料上 p1140
	神社誌料上 p1211
	東照宮 p211
	東照宮 p211
家康以来、本社に寄進	千葉県神社名鑑 p160
師賢は後醍醐天皇の側近。元弘2年下総配流。明治15年、社殿造営	名鑑 p183
相模守は堀田正睦。幕末期の佐倉藩主。開国派として幕府に蟄居を命じられる	千葉県神社名鑑 p42
幕臣、新編武蔵風土記稿編纂	千葉県神社名鑑 p53
	千葉県神社名鑑 p53
平安後期武将。河内源氏頼義の子。八幡太郎と号す	本庁データ
	千葉県神社名鑑 p283
天照大神と合祀、元亀元年創建という	千葉県神社名鑑 p290
	本庁データ
明治41年、白幡神社は須賀神社に合祀	千葉県神社名鑑 p817
本社はもと諏訪大明神、明治2年に現社名	千葉県神社名鑑 p869
明治45年に本社に合祀	千葉県神社名鑑 p870
	本庁データ
	本庁データ
	千葉県神社名鑑 p37
昭和52年に本社に合祀	千葉県神社名鑑 p875
	千葉県神社名鑑 p37
	千葉県神社名鑑 p76
	千葉県神社名鑑 p269
	千葉県神社名鑑 p335
昭和7年、八幡神社などと合祀	千葉県神社名鑑 p338
	千葉県神社名鑑 p416
源頼信の子。義家の父。1031年父に従い平忠常の乱を鎮圧。明治45年に本社に合祀	千葉県神社名鑑 p870
村民は本来、和泉の白旗神社氏子だったが、従来の末社菅原道真を主神とし徳川光圀・直弼を合祀する神社を新たに移転創建	東京都神社名鑑下 p435
伊奈氏は代々関東郡代	本庁データ
本社は道灌が守神とあがめたという。祭神社由緒不詳	東京都神社名鑑上 p573
	本庁データ
祭神は文禄2年、徳川家康の命をうけ小笠原諸島を発見したという信州深志城主	東京都神社名鑑下 p462
祭神は武田勝頼の客将で天正10年4月、この地で北条氏と戦い戦死。明治35年加藤神社に改称	東京都神社名鑑下 p68
	東京都神社名鑑上 p301

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
鎌倉景政（三浦権五郎景政）	御霊権現（御嶽神社）	応永27		東京西多摩郡五日市町小和田
鎌倉景政（権五郎景政）	御霊神社	*慶安2		東京八王子市館町
*楠木正成	建武神社（氷川神社境内社）			東京港区白金
桂昌院	福寿神祠（柳森神社）			東京千代田区神田須田町
少将局	女塚霊神（女塚神社の境内社）		村民	東京大田区西蒲田
曾我祐成（十郎）	曾我霊社（富士神社境内社）			東京文京区本駒込
曾我時致（五郎）	曾我霊社（富士神社境内社）			東京文京区本駒込
平将門	神田大明神（神田神社）	延慶2	時宗二世真教上人	東京千代田区外神田
平将門	築土明神（築土神社）			東京千代田区九段北
平将門	鎧大明神（鎧神社）	天曆初め	里民	東京新宿区北新宿
平将門	将門神社（熊野神社）	*明治末		東京西多摩郡奥多摩町棚沢
多田満仲	多田神社	寛治6	源頼義・同頼家	東京中野区南台
田宮於岩	於岩稲荷田宮神社	江戸期	田宮伊右衛門	東京中央区新川
伊達政宗	祖霊社（塩竈神社境内社）			東京港区新橋
*徳川家康	平河天満宮			東京千代田区平河
*徳川家康	太田姫稲荷神社			東京千代田区神田駿河台
徳川家康	紅葉山東照宮	元和4	将軍家	東京千代田区（江戸城内）
徳川家康	天守台下東照宮（二の丸東照宮）	元和8	将軍家	東京千代田区（江戸城内）
徳川家康	護持院東照宮	元禄10		東京千代田区
徳川家康	根性院東照宮	寛文年中	延寿寺	東京中央区下谷湯島切通
*徳川家康	住吉神社		漁民	東京中央区佃
*徳川家康	稲荷神社	元和年中		東京中央区日本橋室町
*徳川家康	芝明神（飯倉明神とも。芝大神宮）	寛永11		東京港区芝大門
徳川家康	東照宮	元和3	遺言力	東京港区芝公園
徳川家康	天徳寺東照宮	元和年中		東京港区芝西久保巴町
徳川家康	大養寺東照宮			東京港区芝西久保八幡町
徳川家康	東福寺東照宮	天和3		東京港区麻布本町
徳川家康	如来寺東照宮	寛永年中		東京港区下高輪
徳川家康	桜田久保東照宮	江戸期		東京港区西新橋
徳川家康	稲荷神社			東京港区青山北町
徳川家康	東照宮（穴八幡宮）	慶安1		東京新宿区西早稲田
徳川家康	東照宮（赤城神社境内社）			東京新宿区赤城元町
徳川家康	筑土八幡宮			東京新宿区牛込
徳川家康	月桂寺東照宮	寛永年中		東京新宿区市ヶ谷河田町
徳川家康	自証院東照宮	承応1		東京新宿区市ヶ谷富久町
徳川家康	若宮八幡神社			東京新宿区若宮町
徳川家康	稲荷神社			東京文京区本郷
徳川家康	妻恋坂東照宮（妻恋神社）	寛永5		東京文京区妻恋町

備 考	典 拠
大正8年、五雲神社・石上神社合祀。五雲神社神鏡に「御霊大神社、三浦権五郎景政是也（略）応永二十七年十二月十八日」、宝暦11年神道裁許状に「御霊権現」とあり	東京都神社名鑑下 p117
神像には慶安2年彩色とされる。祭神は醍醐天皇子孫とされ前九年・後三年の役に源義家の家来として従う	東京都神社名鑑下 p213
財団法人建武義会が五反田（現品川区）建武ヶ丘にまつる（昭和30年港区氷川神社へ移す）。後醍醐天皇などとともに合祀。とくに軍人が崇拝	東京都神社名鑑上 p125、氷川神社
	東京都神社名鑑上 p20
新田義興憤死の際、少将局が忠誠を尽くしともに害される。村民が哀れみ祀る	東京都神社名鑑上 p283
本社は駿河富士浅間を勧請し、寛永5年駒込の地に遷座という	東京都神社名鑑上 p62
	東京都神社名鑑上 p62
上人が当地遊行の折、将門の怨霊が人々を悩ませていると知り相殿に祀った。明治7年、摂社の神とされた	東京都神社名鑑上 p15
津久戸明神とよばれていた本社への合祀時期など不詳	東京都神社名鑑上 p19
将門の鎧を当地に埋めたという	東京都神社名鑑上 p549
明治末に熊野神社に合祀。将門詣りあり	東京都神社名鑑下 p58
前九年・後三年両役祈願達成につき大宮八幡宮雑色料の地に祀る。江戸期には稲荷大神を合祀して多田権現稲荷合社という	東京都神社名鑑上 p167、多田五代記
幕府直参の田宮伊右衛門が妻於岩を、その死後、邸内社の稲荷神社に合祀したもの	東京都神社名鑑上 p38
本社は、元禄8年塩竈大明神を伊達綱村が江戸藩邸に勧請、安政3年現在地に移る	東京都神社名鑑上 p111
本社は文明10年太田道灌（江戸平川城主）が城内に創建という。天正18年家康入城後、上平川村に移遷。慶長12年現在地に移す。以後江戸市民の崇敬厚いという	東京都神社名鑑上 p18
太田持資の娘の病を祈願で治癒したという山城国の稲荷社が本社だが、合祀時期不詳	東京都神社名鑑上 p21
明治元年廃絶	東照宮 p23
寛永12年、二の丸へ移遷。承応3年紅葉山に合祀	東照宮 p26
	東照宮 p212
	東照宮 p212
本社は家康が大坂より江戸に勧請。相殿に合祀	東京都神社名鑑上 p37
	東照宮 p212
徳川家康は寛永11年8月天照大神他に合祀。本社は寛弘2年創祠か。はじめ本社は芝明神。明治5年、芝大明神	神社誌料上 p169、名鑑 p210
慶長6年、家康60才の時、等身の像を彫らせ、土井利勝に命じて元和3年芝増上寺丸山の地に鎮祭。あるいは増上寺観智国師に命じたとも。寺僧が私的に創建とも。寛永18年社殿新築	名鑑 p211、神社誌料上 p196、東京都神社名鑑上 p114
	東照宮 p212
	東照宮 p212
	東照宮 p212
	東照宮 p212
坊正惣右衛門邸内社	東照宮 p212
	東照宮 p212
元は穴八幡宮境内社であったものを本社に合祀。本社は將軍家の祈願所	東京都神社名鑑上 p535
本社は正安2年成立	東京都神社名鑑上 p540
	東照宮 p212
	東照宮 p212
	東照宮 p212
	東照宮 p212
	東照宮 p212
万治年中、妻恋神社に合祀	本庁データ
	東照宮 p213

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
徳川家康	根津東照宮	宝永3		東京文京区根津
徳川家康	円満寺東照宮	宝永7		東京文京区湯島
徳川家康	大保福寺東照宮	寛文貞享頃		東京文京区千駄木
徳川家康	伝通院東照宮	元和年中		東京文京区小石川伝通院
徳川家康	大聖護国寺東照宮	延宝頃		東京文京区大塚音羽
徳川家康	養国寺東照宮	寛永年中		東京文京区関口台町
徳川家康	東照宮（上野東照宮）	元和9	藤堂氏	東京台東区上野公園
徳川家康	東照宮（浅草神社）	元和4	幕府	東京台東区浅草
徳川家康	智楽院東照宮	寛永12		東京台東区浅草
徳川家康	西福寺東照宮			東京台東区浅草新堀端
徳川家康	東漸寺東照宮	寛永20		東京台東区浅草新堀端
徳川家康	誓願寺東照宮	元禄1		東京台東区浅草田島
徳川家康	源空寺東照宮	明暦年中		東京台東区浅草新寺町
徳川家康	幡随院東照宮	万治2		東京台東区浅草下谷
徳川家康	龍宝寺東照宮	元和年中		東京台東区寿
徳川家康	松平神社（鳥越神社）	寛永11	徳川家光	東京台東区鳥越
徳川家康	長命寺東照宮			東京墨田区向島
徳川家康	靈山寺東照宮			東京墨田区横川
徳川家康	大徳院東照宮			東京墨田区南本所元町
徳川家康	深川東照宮	寛永19		東京江東区深川
徳川家康	覚樹王院東照宮	宝暦頃		東京江東区深川
徳川家康	三所大権現（富賀岡八幡宮境内社）	貞享2		東京江東区深川永代島
徳川家康	靈光院東照宮	寛永1頃		東京江東区深川三好町
徳川家康	靈岩寺東照宮	寛永年中		東京江東区深川白河町
徳川家康	三十三間堂東照宮	寛永19		東京江東区深川
* 徳川家康	八幡宮（荏原神社境内社）			東京品川区北品川
徳川家康	品川東照宮	元和年中		東京品川区南品川
* 徳川家康	稲荷神社（八幡神社境内社）			東京大田区久が原
徳川家康	八万塚東照宮（六郷神社境内社）			東京大田区東六郷
徳川家康	東照宮（大宮八幡宮境内社）			東京杉並区大宮
徳川家康	東照宮（王子神社）	寛永11頃		東京北区王子
* 徳川家康	香取明神（葛西神社）	元禄10		東京葛飾区東金町
* 徳川家康	東照宮（八王子神社・氷川神社境内社）			東京葛飾区堀切
徳川家康	轡神社	江戸期		東京板橋区仲町
* 徳川家康	高木神社（稲荷神社境内社）			東京足立区柳原
徳川家康	稲荷神社			東京足立区青井
* 徳川家康	西玉（さいたま）神社	元和8	平氏	東京八王子市平町
徳川家康	平家東照宮		平氏	東京八王子市平町
徳川家康	日光権現社（日光神社）	* 明暦期	鈴木九太夫	東京八王子市長房町
徳川家康	東照宮（六社宮）	* 明治11		東京八王子市長沼町

備 考	典 拠
誤りか	東照宮 p213
	東照宮 p213
	東照宮 p213
	東照宮 p213
	東照宮 p213
静岡浅間神社境内社八千戈神社境内社に移遷	東照宮 p115
寛永寺境内。社記に元和9年創立。一説に寛永年中に天海が興し、同8年に社殿等なるとも。日光が参拝不便なため、上野山内に造営。また藤堂家の屋敷地に寛永4年造営とも。昭和4年吉宗合祀	名鑑 p214, 神社誌料上 p175, 東京都神社名鑑上 p96
浅草寺境内。寛永19年、三社権現（現浅草神社）に合祀。社伝では、元和4年浅草寺の西傍に幕府より祀る	名鑑 p214, 神社誌料上 p207
	東照宮 p213
	東照宮 p213
	東照宮 p213
誓願寺は大正14年府中市に移される	東照宮 p213
	東照宮 p213
寺は昭和7年、小金井市に移る	東照宮 p213
	東照宮 p213
江戸城の鬼門除として家光発願により烏丸光広の勅使下向を得てまつる。関東大震災後大正12年合祀	東京都神社名鑑上 p82
	東照宮 p213
	東照宮 p213
	東照宮 p213
	東照宮 p213
	東照宮 p213
	東照宮 p213
	東照宮 p214
	東照宮 p214
	東照宮 p214
	本庁データ
旧海晏寺東照宮、現荏原神社境内神社か	東照宮 p214
	本庁データ
	東照宮 p214
	東京都神社名鑑上 p179
本社の王子神社は元亨2年、領主豊島氏が紀州熊野権現を勧請。廃絶	神社誌料上 p231
本社は元暦年間創祀といい葛西33郷の総鎮守として鎮祭され香取明神と称した。当地域は家康の鷹狩りの地で、家康が当社に立ち寄った際に人形浄瑠璃をみて奨励したという。天正19年家康より朱印（10石）を附された	東京都神社名鑑上 p458, 名鑑 p226、葛飾区郷土と天文の博物館
源頼朝は八王子権現を深く崇敬し、関西地方から移したという	東京都神社名鑑上 p481
明治以降、祭神名変更か	東照宮 p214
家康は江戸築城に際し、当地に寄ったというが、不詳。	東京都神社名鑑上 p400
近世初期に次郎左衛門などが当地開地。安政3年再建棟札に次郎左衛門左衛門稲荷とあり	東京都神社名鑑上 p440
元和8年4月17日の徳川家康7回忌に龍光寺僧遷宮	東京都神社名鑑下 p154
邸内社	東照宮 p151
鈴木が葵紋の太刀を神体として社殿を造営し、日光権現社としたという	東京都神社名鑑下 p188
明治11年、八剣社・熊野社などと合祀し六社宮	東京都神社名鑑下 p210

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
徳川家康	東照宮山王社			東京八王子市高月
徳川家康	日光権現社（正覚寺境内社）			東京八王子市下恩方町
徳川家康	東照社（御嶽神社境内社）			東京青梅市御嶽山
徳川家康	東照宮（大國魂神社境内社）	元和4	幕命	東京府中市宮町
*徳川家康	深大寺東照宮（深沙堂）			東京調布市深大寺町
徳川家康	小平東照宮（石神社境内末社）			東京小平市
徳川家康	平山東照宮（八幡神社境内末社力）			東京日野市平山
徳川家康	日光大権現社			東京秋山市牛沼
徳川家康	熊ヶ谷東照宮（熊ヶ谷神社境内社力）	正保年中		東京町田市熊ヶ谷町
*徳川家康	大嶽金峯山蔵王権現（大嶽神社）	慶安2		東京西多摩郡松原村大嶽
*徳川家康	十三社神社			東京伊豆大島新島村
徳川家康（源家康）	大嶽神社			東京西多摩郡松原村大嶽
*徳川光圀	菅原神社	明治3	村民	東京狛江市猪方
徳川吉宗	東照宮（上野東照宮）	昭和4		東京台東区上野公園
豊島近義	平塚神社			東京北区上中里
新田義興	新田大明神（新田神社）		村民	東京大田区矢口
新田義興	十騎明神（十寄神社）		村民	東京大田区矢口
新田義興	新田大明神（新田神社，八幡神社境内社）			東京東久留米市八幡町
*畠山重忠	稻荷神社（碑文谷八幡宮境内社）			東京目黒区碑文谷
*榛沢六郎	稻荷神社（碑文谷八幡宮境内社）			東京目黒区碑文谷
*日奉宗忠	日野宮神社		日奉氏子孫	東京日野市栄町
*日奉宗頼	日野宮神社		日奉氏子孫	東京日野市栄町
平山伊賀守氏重	御霊権現（御霊権原神社）			東京都西多摩郡檜原村千足
別府太郎	別府神社		村民	東京日野市宮
真木和泉	紫瀧神社（水天宮境内社）			東京中央区日本橋蛸殻町
源為朝	為朝神社	*慶長7		東京八丈島八丈町
源為朝	為朝神社（十三社神社境内社）			東京伊豆大島新島村
源為朝	為朝神社（十三社神社境内社）			東京伊豆大島新島村
源為朝	城ノ山為朝神社			東京三宅村伊ヶ谷
源義家	八幡神社（白山神社境内社）	元禄年中		東京文京区白山
源義家	平塚三所明神（平塚神社）		豊島近義（太郎）	東京北区上中里
源義家	松原神社（諏訪神社）			東京新宿区高田馬場
源義家	吉富八幡社（八幡神社）			東京日野市百草
源義綱	平塚三所明神（平塚神社）		豊島近義（太郎）	東京北区上中里

備 考	典 拠
	東照宮 p214
	東照宮 p214
本社の御獄神社は寛文9年大宰府御嶽山より勧請カ	全国下 p328, 神社誌料上 p185
武蔵総社の本社の境内社。徳川家康は本社に500石寄進	東京都神社名鑑下 p283
神仏分離後、青渭神社へ移遷カ	東照宮 p214
	東照宮 p214
	東照宮 p214
	東照宮 p214
大國主命他へ合祀。本社は古社だが中世に衰退。北条氏復興後、徳川氏は朱印地を与え、これにより家康が相殿に祭られる	神社誌料上 p240, 東照宮 p214
事代主命他と合祀	神社誌料上 p267
大嶽大神はこの地域の古社。徳川氏氏領寄進	東京都神社名鑑下 p130
村民は本来、和泉の白旗神社氏子だったが、従来の末社菅原道真を主神とし光圀・井伊直弼を合祀する神社を新たに移転創建	東京都神社名鑑下 p435
東照宮に合祀	名鑑 p214, 神社誌料上 p175
不詳。祭神は源義家の具足を埋め平塚を作った人物	東京都神社名鑑上 p582
新田義貞の次男義興は父の死後、東国にて朝敵討滅を企てたが、正平13年鎌倉執権畠山道誓により矢口渡で謀殺。のち義興の怨霊をおそれ、村民が一社をたて新田大明神と号す。神社別当真言宗興福寺(江戸砂子)。	名鑑 p218
祭神は新田義貞の次男。従者とされる伊弉正左衛門など12名を合祀	東京都神社名鑑上 p260
本社は元弘年中に義興の勧請という。また義興の像が安置する新田大明神の社殿も併置という。元禄11年に両社火災、後に再興	東京都神社名鑑下 p388
祭神は源頼朝家臣。同じ家臣榛沢が宮野左近をして畠山の守護神(誉田別尊)を祀らし碑文谷八幡宮成立という。	東京都神社名鑑上 p234
榛沢(はんざわ)は源頼朝家臣。	東京都神社名鑑上 p234
武蔵七党の西党の祖宗頼の孫で西党の始祖	東京都神社名鑑下 p250
武蔵七党の西党の祖	東京都神社名鑑下 p250
祭神は後北条氏家臣で檜原城主。天正16年討死。元来、土地の氏神。昭和58年社殿新築	東京都神社名鑑下 p130, 檜原村史
宮村地頭別府太郎が上田村との土地争いで身をもって勝訴したため霊を祀ったという。一説には鎌倉時代この地で戦死した同名の武士が里長の夢枕にたち当地の鎮守を告げたともいう	東京都神社名鑑下 p253
本社は文政1年有馬頼徳が領地久留米の水天宮を藩邸に勧請	東京都神社名鑑上 p29
保元の乱にやぶれ流された為朝を祀る	全国上 p313
	東京都神社名鑑下 p446
	東京都神社名鑑下 p446
	東京都神社名鑑下 p459
元禄年中までに本社の境内社カ	東京都神社名鑑上 p59
豊島城主豊島近義は義家より具足等を授けられた。のちその具足をうめ平塚と称した。また豊島氏は義家・義綱・義光三兄弟を合祀した	名鑑 p223, 東京都神社名鑑上 p582
神社創建は弘仁年中。源頼朝社殿造営。江戸初期徳川義直が信濃より諏訪神を勧請、諏訪神社と改称。祭神合祀事情は不詳	東京都神社名鑑上 p537
康平5年、源頼義が当社再建の際、義家は津田明神に武内宿禰像を寄進したという	東京都神社名鑑下 p259
豊島城主豊島近義は義家より具足等を授けられた。のちその具足をうめ平塚と称した。また豊島氏は義家・義綱・義光三兄弟を合祀した	名鑑 p223, 東京都神社名鑑上 p582

祭 神 名	祭 祀 社	創祀時期	創 祀 者	所 在 地
*源義朝	為朝神社 (十三社神社境内社)			東京伊豆大島新島村
源義光	平塚三所明神 (平塚神社)		豊島近義 (太郎)	東京北区上中里
源頼朝	芝明神 (芝大神宮)			東京港区芝大門
*源頼朝	菅原神社	昭和10	住民	東京狛江市猪方
源頼義	松原神社 (諏訪神社)			東京新宿区高田馬場
吉田松陰	正松神社 (乃木神社境内社)	*昭和37		東京港区赤坂
横山義孝	横山神社 (八幡八雲神社境内社)			東京八王子市元横山町
(神奈川)				
*池上幸豊 (太郎左衛門幸豊)	汐留稲荷神社			神奈川川崎市川崎区池上新町
大久保忠世	大久保神社	明治26	旧臣等の有志	神奈川小田原市城山
大久保忠真	大久保神社	昭和10		神奈川小田原市城山
太田道灌(持資)	五霊神社	明応 3	北条早雲	神奈川伊勢原市上粕屋ノ引
*大庭景親	大庭神社	安永 6	神祇伯資顕王	神奈川藤沢市稲荷
梶原景時	御霊神社	*近世		神奈川鎌倉市梶原
勝海舟	祖霊社 (大山阿夫利神社境内社)			神奈川伊勢原市大山阿夫利山
鎌倉景成 (梶原景成)	五霊神社	元亀 2	森義秀	神奈川横浜市戸塚区汲沢町
*鎌倉景政 (権五郎景政)	杉山神社			神奈川横浜市港北区新吉田町
鎌倉景政 (権五郎景政)	御霊社 (神明社)	*大正 3		神奈川横浜市栄区公田町
鎌倉景政 (権五郎景政)	御霊社	鎌倉期		神奈川横浜市栄区田谷町
鎌倉景政 (権五郎景政)	御霊神社	中世	長尾為景	神奈川横浜市栄区長尾台
鎌倉景政 (権五郎景政)	五霊神社			神奈川横浜市戸塚区汲沢町
鎌倉景政 (権五郎景政)	御霊社 (三島神社)	文治期	梶原景時	神奈川横浜市戸塚区深谷町
鎌倉景政 (権五郎景政)	御霊神社	中世		神奈川横浜市泉区中田町
鎌倉景政 (権五郎景政)	御霊神社	中世		神奈川鎌倉市坂ノ下
鎌倉景政 (権五郎景政)	御霊神社	建久 1	梶原景時	神奈川鎌倉市梶原
鎌倉景政 (権五郎景政)	御霊神社	仁平 1	鎌倉氏	神奈川横須賀市佐原
鎌倉景政 (権五郎景政)	八幡神社			神奈川横須賀市鴨居

備 考	典 拠
	東京都神社名鑑下 p446
豊島城主豊島近義は義家より具足等を授けられた。のちその具足をうめ平塚と称た。また豊島氏は義家・義綱・義光三兄弟を合祀した	名鑑 p223, 東京都神社名鑑上 p582
本社は寛弘2年創祠か。合祀時期不詳だが頼朝が本社を崇敬したとの伝から後世に合祀したものか	神社誌料上 p169, 名鑑 p210
菅原道真を主神に徳川光圀・井伊直弼を合祀したものにさらに頼朝を配祀	東京都神社名鑑下 p435
神社創建は弘仁年中。源頼朝社殿造営。江戸初期徳川義直が信濃より諏訪神を勧請、諏訪神社と改称。祭神合祀事情は不詳	東京都神社名鑑上 p537
昭和37年以降、乃木神社に勧請	東京都神社名鑑上 p134
横山義孝は武蔵七党で天慶3年、八幡神社を再建したという。横山氏は7代続くが和田合戦で滅びる。	東京都神社名鑑下 p147
池上氏は藤原忠平の後胤という。幸豊は名主として地域開発に尽力。本社は宝暦11年創立。池上新田一村の守護神として勧請	神奈川県神社誌 p105
小田原に入り初代大久保小田原藩主。旧小田原城天守閣跡に社殿新築。明治33年現在地へ	名鑑 p242
大久保家中興の祖とされる第二次大久保小田原藩7代藩主の忠真合祀	神奈川県神社誌 p252
9月13日に祀ったのでこの日を祭日とした	神奈川県神社誌 p351
平安後期の武士。相模出身。鎌倉景政の曾孫。治承4年源頼朝の挙兵に際し石橋山で頼朝軍を破るものに斬首	神奈川県神社誌 p217
頼朝に仕えた鎌倉幕府初期の御家人。建久2年、景時が鎌倉景政を祀ったという。「相模風土記」では景時の木像が景政夫婦の木像の傍にあり、等覚寺持という	神奈川県神社誌 p205
	本庁データ
葛原親王の末裔の梶原景成のことで、景政の父という。御霊社勧請に際し合祀	神奈川県神社誌 p90
	神奈川県神社誌 p60
大正3年、村内4社とともに本社合祀	神奈川県神社誌 p78
鎌倉幕府の鬼門の方角として建立という。天保5年棟札有	神奈川県神社誌 p87
景政の玄孫景弘が当地長尾に住して長尾氏を名乗り、その長子為景が祖先を祀る村岡村宮前御霊神社の分霊勧請	神奈川県神社誌 p99
御霊社勧請後に合祀	神奈川県神社誌 p90
景時の祖、景政の神霊を祀る。伊豆三島明神を勧請。村人も鎮守とする	神奈川県神社誌 p88
藤沢市村岡御霊神社の仁安2年の文書に当地に分社したと記される	神奈川県神社誌 p91
景正は景政。御霊神社の本社。関東には大庭・梶原・長尾・村岡・鎌倉の平氏五家があり、五霊神社があったが、後に御霊となり祭神も景政のみになったか。当地坂ノ下の付近も景政の領地の一部	神奈川県神社誌 p201
「相模風土記」では景政夫婦の像と伝わる木像二体という	神奈川県神社誌 p205
後三年の役に従った景政の忠誠を子孫に伝えるために祀ったという。「相模国風土記」に村の鎮守、神体は村持という	神奈川県神社誌 p141
	神奈川県神社誌 p152

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
鎌倉景政（権五郎景政）	御霊神社	平安末		神奈川藤沢市宮前
鎌倉景政（平景政）	御霊社（御霊神社）	建久年間	住人	神奈川藤沢市名
鎌倉景政（権五郎景政）	御霊神社	建久年間	平景能	神奈川茅ヶ崎市南湖
鎌倉景政（権五郎景政）	鎌倉権五郎社（八幡神社境内社）			神奈川平塚市広川
鎌倉景政（権五郎景政）	御霊大神（上秦野神社）	*明治42		神奈川秦野市昌蒲
坂田金時	金時神社（諏訪神社）	*江戸期		神奈川足柄下郡箱根町仙石原
佐々木高綱	佐々木神社（稲毛神社境内社）			神奈川川崎市川崎区宮本町
*佐竹氏霊神	佐竹天王（八雲神社）	*応永年間		神奈川鎌倉市大町
諏訪頼重	諏訪部神社	昭和初め	住民	神奈川平塚市諏訪町
曾我祐成（十郎祐成）	曾我神社（箱根神社境内社）			神奈川足柄下郡箱根町元箱根
曾我時致（五郎時致）	曾我神社（箱根神社境内社）			神奈川足柄下郡箱根町元箱根
滝口盛定	御滝権現（御滝神社）	文治年中		神奈川横須賀市久村
徳川家康	東照宮（瀬戸神社）	万治年中	代官八木三郎右衛門	神奈川横浜市長沢区瀬戸
徳川家康	東照宮（八幡神社）	安永5	地頭小浜氏	神奈川横浜市磯子区原町
徳川家康	久遠寺東照宮			神奈川川崎市川崎区堀ノ内町
徳川家康	東照宮（叶神社境内社）			神奈川横須賀市東浦賀町
徳川家康	鴨居東照宮		村民	神奈川横須賀市鴨居
徳川家康	久里浜東照宮（八幡宮境内社）			神奈川横須賀市久里浜
徳川家康	神明社（平塚八幡宮境内社）			神奈川平塚市浅間町
徳川家康	東照宮社（八王子神社）	*安永7	住民	神奈川平塚市平塚
徳川家康	中原御殿跡東照宮	明暦頃	村民	神奈川平塚市中原
徳川家康	東照権現社（日枝神社）	江戸期		神奈川平塚市中原上宿
徳川家康	蓮光寺東照宮			神奈川平塚市馬入
徳川家康	平井家東照宮		平井氏	神奈川平塚市横内
徳川家康	東照宮（片岡神社境内社）	*文化7		神奈川平塚市片岡
徳川家康	円覚寺東照宮			神奈川鎌倉市山ノ内
*徳川家康	鶴岡八幡宮	*江戸期		神奈川鎌倉市雪ノ下
徳川家康	光明寺東照宮			神奈川鎌倉市材木座
徳川家康	大長寺東照宮			神奈川鎌倉市岩瀬
徳川家康	寿福寺東照宮			神奈川鎌倉市扇ヶ谷
徳川家康	江ノ島東照宮			神奈川藤沢市江ノ島
徳川家康	福原家東照宮	元和8	福原久治	神奈川藤沢市渡内
徳川家康	伊東家東照宮		伊東氏	神奈川藤沢市用田

備 考	典 拠
本社は天慶3年、村岡城主・村岡良文が山城国京極御霊神社を勧請。後に景政など合祀	神奈川県神社誌 p230
本社は平景政が村岡郷にあった早良親王の神霊を当地に分祠したもの。建久年間、景政合祀	神奈川県神社誌 p227
大庭庄横島居住の景能の創祠という	神奈川県神社誌 p261
景政の居城が本八幡宮北方五領ヶ台にあり本宮を崇敬したという	神奈川県神社誌 p168
明治42年、村内各社とともに八幡神社へ合祀、のち現名称	神奈川県神社誌 p314
明治4年合祀	神奈川県神社誌 p422
佐々木高綱が源頼朝の命で本社の社殿造営	神奈川県神社誌 p104
佐竹屋敷の一族の祠を応永年間に諏訪本社へ合祀といい、佐竹天王といった	神奈川県神社誌 p188
諏訪頼忠が徳川家康に仕え、子孫は当地諏訪部に居住。昭和の初め、諏訪家の祖頼重をまつる	神奈川県神社誌 p173
	本庁データ
	本庁データ
民部大輔盛重の子。水乏しき久村を盛定の郎党捨平が泉を見出し救済。捨平は当地の名主となり滝本盛兼と名乗り、泉が枯れた際、旧主・盛定の像を彫り、祠を建て、水神として祀り御滝権現と称へたとの口碑	久村町内会
六浦にあった。明治10年、同村の瀬戸神社(伊豆三島明神を治承4年源頼朝が鎌倉にはいった際、勧請したという)と合祠	神社誌料上 p532
本社は古社という。安永5年小浜志摩守が当地の地頭となり、東照宮を勧請して相殿。明治29年八幡大神を現在名に改称	全国上 p354
	東照宮 p215
	神奈川県神社誌 p153
岩窟内小祠	東照宮 p215
旧相殿か	東照宮 p215
徳川家康は八幡宮の社殿再建、社領寄進など行った	神奈川県神社誌 p171
安永7年の棟札有。のち名称をはばかり天保6年地誌御調言上帳には「小社八王子権現」とある	神奈川県神社誌 p176
慶長年間に家康が鷹狩のための宿所として設けた御殿跡。明治42年頃、日枝神社境内に移遷	東照宮 p167
家康は修営を行い、遊獵の際、幣帛も祀ったという。本社に合祀。のち中原御殿跡 東照宮も移遷	神奈川県神社誌 p166、 東照宮 p167
廃絶	東照宮 p215
邸内社。洪田川築堤許可への報恩という	東照宮 p153
文化7年再興	東照宮 p215
画像のみ現存	東照宮 p215
明治以降、廃絶か	東照宮 p215
二尊堂に祀る	東照宮 p216
旧境内三社権現社。画像は本堂に移遷	東照宮 p216
廃絶	東照宮 p216
江戸時代には御旅所に祭祀、現在不明	東照宮 p216
邸内社。福原氏は後北条氏、のちに徳川氏につかえたという	東照宮 p171
家康が休憩したという。邸内社、廃絶	東照宮 p148

祭 神 名	祭 記 社	創祀時期	創 祀 者	所 在 地
徳川家康	加藤家東照宮			神奈川藤沢市亀井野
徳川家康	青木家東照宮		青木氏	神奈川小田原市板橋
徳川家康	御陣場跡東照宮	元和 3	柳川氏	神奈川小田原市寿町
徳川家康	無量寺東照宮			神奈川小田原市小田原
徳川家康	無量光寺東照宮			神奈川相模原市当麻
徳川家康	阿弥陀堂東照宮			神奈川秦野市曾屋
徳川家康	金蔵院東照宮			神奈川秦野市元町
徳川家康	溝呂木東照宮		溝呂木氏	神奈川厚木市厚木
徳川家康	三之宮東照宮(比々多神社境内社)	元和 4		神奈川伊勢原市三の宮
徳川家康	薬師堂東照宮	*慶安期		神奈川伊勢原市日向
徳川家康	浄梵願寺東照宮			神奈川伊勢原市日向
徳川家康	貴日土神社			神奈川海老名市中河内
徳川家康	東照宮(神明社境内社)			神奈川海老名市大谷
徳川家康	龍峰寺東照宮	寛政 1		神奈川海老名市国分
徳川家康	宗仲寺東照宮			神奈川座間市座間
徳川家康	八菅山東照宮	元和 3		神奈川愛甲郡愛川町八菅山
徳川家康	御炭山東照宮			神奈川愛甲郡愛川町荻野
徳川家康	三増峠東照宮			神奈川愛甲郡愛川町三増
*徳川家康	中津神社			神奈川愛甲郡愛川町田代
新田義貞	新田大明神(新田神社)	中世	里人	神奈川川崎市川崎区渡田町
藤原資盈	海南神社	天元 5	住民	神奈川三浦市三崎
藤原資盈	海南神社			神奈川三浦市三崎町城ヶ島
藤原盈渡姫	海南神社			神奈川三浦市三崎
*間宮豊前守祖先	天照大神			神奈川横浜市港南区港南
三浦義意	居神社	永正期		神奈川小田原市城山
三浦義春(多々良四郎義春)	八幡神社			神奈川横須賀市鶴居
三浦義村	近殿神社		大矢部氏子	神奈川横須賀市大矢部
三浦義村	諏訪神社			神奈川横須賀市大津町
源実朝	白旗神社(鶴岡八幡宮)			神奈川鎌倉市雪ノ下
源満仲(左馬頭)	左馬神社	中世		神奈川横浜市泉区和泉町
源満仲(左馬頭)	鯖神社	慶長期	清水・鈴木	神奈川横浜市泉区和泉町
源満仲(左馬頭)	左婆神社	寛文期	石川治右衛門	神奈川横浜市泉区和泉町
源義家(八幡太郎)	八幡菩薩(上秦野神社)	*文禄 3		神奈川秦野市菖蒲
*源義家	天照大神			神奈川横浜市港南区港南
*源義家	壺井宮(壺井三社権現)	*元和 8	福原氏	神奈川藤沢市渡内
源義経	白旗神社	康元 1		神奈川横浜市戸塚区品濃町
源義経	白旗神社	宝治 3		神奈川藤沢市藤沢

備 考	典 拠
旧家臣。邸内社	東照宮 p149
旧扶持人。邸内社	東照宮 p146
小田原役陣場跡。柳川邸内社	東照宮 p170
本堂に神像。東照宮の建物は廃絶か	東照宮 p216
廃絶	東照宮 p216
廃絶	東照宮 p216
龍門寺境内、不明	東照宮 p216
家康が立ち寄ったという。邸内社	東照宮 p148
	東照宮 p216
白髭神社に合祀か	東照宮 p216
画像のみ現存	東照宮 p216
	本庁データ
本社には徳川家光が社領など寄進	神奈川県神社誌 p368
明治末年、弥生神社へ移遷合祀か	東照宮 p216
御殿跡に祭祀。社殿廃絶、神像現存	東照宮 p167
明治23年、末社を本社に合祀	東照宮 p216
所在不明	東照宮 p217
菅原神社に合祀か	東照宮 p217
近隣の東照宮を明治期に合祀か	東照宮 p217
延元3年、越前藤島で義貞死後に家臣亘早勝が形見をもって当地に下り、里人が形見を埋葬し新田大明神と崇める。家康入封後武士が信仰	神奈川県神社誌 p105
清和天皇の時、資盛、大納言善雄の讒言により、筑紫の配所に赴く途中当地へ到着。当地をあらす海賊を討ち、民政につくしたという。死後住民が祀る	神奈川県神社誌 p296
	神奈川県神社誌 p291
	神奈川県神社誌 p296
戦国時代小田原北条氏に属した武将、間宮豊前守康俊。当地には父祖の代から受継いた笹下城があった	神奈川県神社誌 p30
永正15年三浦義意は北条早雲に敗れ自刃、首が当山の松梢にかかる。僧の怨霊の化導により首はおちた。その松の下に祠をたてる	全国上 p337
義春は養和1年に鶴岡八幡宮を勧請という	本庁データ、神奈川県神社誌 p152
相模の御家人。大矢部氏が祖神・三浦義村を祀る	神奈川県神社誌 p156
千方（近殿ちかた）さまと呼ばれ、はしか病除けの神	神奈川県神社誌 p139
	神奈川県神社誌 p198
源家隆頃の勧請という。「相模七左馬（蜻）」の一つ。寛永2年能見松平氏が領して以降、同氏も信仰した地域の鎮守ともなる。天保6年棟札には松平家と領民の名もある	神奈川県神社誌 p92
創祀者は当地の郷士で氏神として勧請という。元禄2年氏子住民が社殿修復	神奈川県神社誌 p90
創祀者は伊予河野氏後裔といい、当地来住に際し守護神としたという。慶長年中勧請という異説あり。天保6年棟札有	神奈川県神社誌 p93
棟札により文禄3年再建確認。古くは八幡菩薩、明治元年八幡神社と改称。その後明治42年にいたる間、村内の各神社を合祀して社号を現名	神奈川県神社誌 p314
	神奈川県神社誌 p30
福原氏は後北条氏、のち徳川氏家臣。源頼義と合祀。元和8年徳川家康を合祀して壺井三社権現と称したという	東照宮 p171
天正18年以降、当地を知行した新見氏が関与	神奈川県神社誌 p82
首が当地に葬られたという。天保2年社殿再建し坂戸町総鎮守、白旗神社と称した	神奈川県神社誌 p214

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
*源義経	御霊神社			神奈川茅ヶ崎市南湖
源義朝(左馬頭)	飯田神社	延応1	飯田能信	神奈川横浜市区上飯田町
源義朝(左馬頭)	鯖社	中世	飯田家義	神奈川横浜市区下飯田町
源義朝(左馬頭)	左馬社			神奈川横浜市瀬谷区橋戸
源義朝	鯖神社	元禄15	井上瀬兵衛	神奈川藤沢市今田
源義朝	鯖明神社（七ツ木神社）	*文禄年中		神奈川藤沢市高倉
源義朝	佐波神社	慶長16頃		神奈川藤沢市石川
源義朝	左馬神社	宝暦14	渡辺兵左衛門・小川清右衛門	神奈川大和市上和田
源義朝	左馬神社	寛文10	辻忠兵衛	神奈川大和市下和田
源頼朝	浅間神社			神奈川横浜市磯子区森
源頼朝	白旗神社	乾元1		神奈川横浜市戸塚区平戸町
源頼朝	白旗神社（鶴岡八幡宮境内社）			神奈川鎌倉市雪ノ下
源頼朝	白旗神社	明治5		神奈川鎌倉市西御門
*源頼朝	海南神社			神奈川三浦市三崎町城ヶ島
源頼政	頼政神社	元文1		神奈川足柄上郡山北町神縄
*源頼義	壺井宮（壺井三社権現）	*元和8	福原家	神奈川藤沢市渡内
村岡良文	五霊神社	元亀2	森義秀	神奈川横浜市戸塚区汲沢町
村岡良文	日枝神社	応永27	福原忠次	神奈川藤沢市渡内
村岡公致	五霊神社	元亀2	森義秀	神奈川横浜市戸塚区汲沢町
村岡致成	五霊神社	元亀2	森義秀	神奈川横浜市戸塚区汲沢町
村上義光（彦四郎義光）	村上社（鎌倉宮境内社）			神奈川鎌倉市二階堂
和田義盛	白旗神社	弘長3	和田住民	神奈川三浦市和田
（新 潟）				
*井伊家祖霊	井伊神社			新潟三島郡与板町与板
上杉謙信（景虎）	春日山神社	明治27	小川澄晴など有志	新潟上越市大豆
奥田氏種	住吉神社			新潟蒲原郡村松町甲
*風間信昭	安塚神社	正応1		新潟東頸城郡安塚町安塚
*北畠親房	斐太神社			新潟新井市宮内
北畠親房	霊山神社			新潟新井市両善寺
榊原康政	榊神社	明治9	旧藩士	新潟上越市大手町
*榊原忠次	榊神社	明治9	旧藩士	新潟上越市大手町
*榊原政令	榊神社	明治9	旧藩士	新潟上越市大手町
*榊原政敬	榊神社	明治9	旧藩士	新潟上越市大手町
徳川家康	中屋敷東照宮（春日神社境内末社カ）			新潟長岡市中屋敷
徳川家康	東照宮（天宗寺）	寛永2	幕命カ	新潟上越市寺町
徳川家康	護念院東照宮		榊原氏	新潟上越市

備 考	典 拠
源頼朝の死は義経の怨霊との見方から、慰霊のため鎌倉景政に合祀	神奈川県神社誌 p261
能信は当地の地頭という。寛政12年、飯田大明神の神号。相模七鯖(左馬)の一つ	神奈川県神社誌 p95
一説に小田原後北条時代の川上藤兵衛勧請とも。天正18年、当地を領した寛為春が下飯田村鎮守として崇敬	神奈川県神社誌 p96
	神奈川県神社誌 p100
創祀者は当地住人で発起造立	神奈川県神社誌 p224
文禄年中に渋谷義重の崇敬が厚かったという。文政9年再建。「相模風土記」に鯖明神社。明治初年に七ツ本神社と改称	神奈川県神社誌 p225
相模七佐波の一つという	神奈川県神社誌 p213
創祀者は名主。文化13年には僧侶が五穀豊穡の祈願して利益があったことから、五穀豊穡・家内安全の守護神化	神奈川県神社誌 p341
創祀者は当地の地頭。武家・庶民ともに信仰。現在、痘瘡守護八方除の祈願がされる	神奈川県神社誌 p342
	神奈川県神社誌 p44
乾元1年勧請。新編相模風土記に記載	神奈川県神社誌 p84
	神奈川県神社誌 p198
頼朝の墓所を守る法華堂が前身。神仏分離後建立。頼朝を白旗大明神として祀ったのは、応安6年に西御門の報恩寺に祠が祀られていたという記録あり	神奈川県神社誌 p197
	神奈川県神社誌 p291
元文元年建立棟札あり	神奈川県神社誌 p416
福原氏は後北条氏、のち徳川氏家臣。源義家と合祀。元和8年徳川家康を合祀して壺井三社権現と称したという。	東照宮 p171
当地は村岡郷に属し、義秀が村岡郷宮前村の御霊社勧請。のちに鎌倉権五郎景政合祀	神奈川県神社誌 p90
高望王第5子村岡良文が当地村岡村渡内に居住する際に日枝大神勧請。福原が社殿を現在地に移した際、良文合祀	神奈川県神社誌 p230
当地は村岡郷に属し、義秀が村岡郷宮前村の御霊社勧請	神奈川県神社誌 p90
当地は村岡郷に属し、義秀が村岡郷宮前村の御霊社勧請	神奈川県神社誌 p90
鎌倉・南北朝期の信濃の武将。大塔給護良親王の身代わりとして吉野蔵王堂仁大門上で自害	本庁データ
北条氏討滅に失敗し自刃。旧領民が旧領主を祀る	神奈川県神社誌 p290
井伊氏(譜代)は牧野氏(譜代)にかわり宝永2年以降与板藩主	本庁データ
春日山城址に建設。小川は旧高田藩士	名鑑 p252、神社誌料上 p877
堀村松藩主の祖先か。村松藩は外様小藩	本庁データ
越後の南東方武将。本社は風間一家の武運長久を祈り建立。同氏没落後も代々の城主に祀られ、ことに吉田英忠は社殿建立。昭和8年、諏訪神社、同10年安塚神社と改名	名鑑 p262
	本庁データ
	本庁データ
榊原康政は慶長11年、上州館林で没。当地は寛保元年以降、康政の後裔が領主。明治9年城外大手前に社殿建立	名鑑 p252
榊原康政の子。高田藩榊原家の祖	本庁データ
榊原高田藩3代藩主	本庁データ
榊原高田藩6代で幕末の藩主	本庁データ
	東照宮 p218
明治初年廃絶	東照宮 p218
明治維新後、東京榊原邸に神体移遷	東照宮 p218

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
徳川家康	称念寺東照宮			新潟上越市寺町
徳川家康	東照宮（長恩寺境内）			新潟南魚沼郡塩沢町塩沢
徳川家康	東照宮（蓮華峰寺境内）	正保4		新潟佐渡郡小木町小比叡
徳川家康	東照宮	寛永10	佐渡奉行	新潟佐渡郡相川町下山ノ神
徳川家康	東照宮（正光院）	寛永17		新潟両津市羽吉外羽黒
* 徳川家康	諏訪神社			新潟五泉市土掘
徳川家康	白山神社			新潟見附市栢窪町
* 徳川家康	諏訪神社			新潟栃尾市小向
* 徳川家康	日光神社			新潟栃尾市土ヶ谷
* 虎御前	大和神社			新潟上越市今泉
内藤信成	藤基神社	享保2頃	内藤家	新潟村上市三ノ町
内藤信敦	藤基神社			新潟村上市三ノ町
内藤信忠	藤基神社			新潟村上市三ノ町
新田義貞	八木神社			新潟南蒲原郡下田村北五百川
新田義興	八木神社			新潟南蒲原郡下田村北五百川
新田義顕	八木神社			新潟南蒲原郡下田村北五百川
* 日野資朝	大膳神社			新潟佐渡郡真野町竹田
* 日野資朝	真野宮			新潟佐渡郡真野町真野
藤崎宣明（順左衛門）	宣明社（八幡宮境内社）			新潟三条市敦田
堀直奇（なおより）	住吉神社			新潟中蒲原郡村松町甲
堀直央（奥田直央）	直央神社	文久2		新潟中蒲原郡村松町6435
堀丹波守	神明神社			新潟南蒲原郡下田村鹿峠
牧野忠辰	蒼柴霊神（蒼柴神社）	享保7	牧野忠寿	新潟長岡市悠久町
* 溝口秀勝	諏訪神社			新潟新潟市諏訪町
溝口秀勝	豊田神社			新潟新潟市五十公野
溝口直諒	豊田神社			新潟新潟市五十公野
源義家（八幡太郎義家）	八幡社			新潟南蒲原郡田上町坂田
（富山）				
楠木正成	伊勢玉神社			富山永見市伊勢大町
徳川家康	東照宮	* 大正1	村民	富山黒部市中陳
* 徳川家康	埴生東照宮（護国八幡宮）		村民	富山小矢部市埴生
* 豊臣秀吉（豊臣大臣）	柳田神社			富山射水郡大門町串田
中黒六左衛門	中黒大明神（愛宕神社）	江戸期	町人	富山永見市地藏三ノ甲
前田利家	天神社（尾山神社）	弘化4	郡奉行	富山富山市岩瀬梅本町

備 考	典 拠
明治初年廃絶か	東照宮 p218
廃絶か	東照宮 p218
台徳院廟とも二棟	東照宮 p218
幕命により神像を安置する。廃藩後、相川の士族や奉行所員の産土神ゆえ、明治6年郷社に列す。昭和31年下戸村の善知鳥神社へ移遷	神社誌料上 p900, 東照宮 p218
旧羽黒権現別当寺境内	東照宮 p129
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
曾我兄弟の兄十郎祐成の恋仲の女性で、祐成死後、尼になったという	本庁データ
江戸内藤家屋敷内に藩祖信成を祀り、藤基神社と称す。嘉永2年村上城内八幡宮境内に現在の社殿を造営。江戸屋敷の藤基神社から信成の分霊を遷座し、在来の八幡神・稲荷神の二柱も合祀、藤基神社と称した	名鑑 p254
内藤村上藩6代藩主	名鑑 p254
内藤村上藩7代藩主	名鑑 p254
南北朝期武將。はじめ鎌倉御家人だがのち南朝方となる	本庁データ
新田義貞次子。主に東国で活動。多摩川矢口渡して謀殺されたという	本庁データ
新田義貞嫡子。越前金崎城で自害	本庁データ
正中の変の鎌倉幕府討幕計画が発覚し佐渡へ配流	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
掘村松藩祖。寛永16年に二男直時に遺領3万石が分与され村松藩成立	本庁データ
掘村松9代藩主。文政2—安政4年までの治政につき中興の祖として祀る	村松町史 p924
掘村松6代藩主直教か	本庁データ
牧野長岡藩3代藩主（譜代）。在位延宝2—享保6年。忠辰は神道に関心深く、神道家橘三喜を招いた。長岡城内に祭祀。吉田神祇官より事代主命の故事により、蒼棠霊神の神号授与。のち蒼棠大明神	名鑑 p251
初代溝口新発田藩主。大型寺藩から慶長3年に入封。本社は信濃国から移住した人々が本国の氏神を勧請したものといい、宝暦5年、藩主溝口直温が現在の社殿建立	名鑑 p253, 全国上 p371
初代溝口新発田藩主。秀勝は柴田勝家を討って功があり、加賀国大聖寺城に移封。慶長3年新発田城に移る	名鑑 p252
10代溝口新発田藩主	名鑑 p252
	本庁データ
本社は神明宮などをへて大保14年より現社号	富山県神社誌 p621
本村が争いで二村に分離した際、当社も分けて建立。大正元年洪水で崩壊、後に再建	富山県神社誌 p338
	東照宮 p218
	本庁データ
永見町奉行兼今石動奉行の時、地蔵町人などの難儀救済、奉行在任中に生祠。現在加賀藩前田氏家老中黒氏子孫を招き、5年ごとに中黒大明神報恩感謝祭	富山県神社誌 p650
郡奉行が新川郡出役所設置の際に申し出、天満天神に合祀することを住民と協議して一決。明治5年尾山神社と変更	富山県神社誌 p30

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
前田利家(菅原)	八幡社（雄山神社境内社）			富山中新川郡立山町岩崎寺
前田利家	天満宮		村民	富山射水郡小杉町塚越
前田利次	国玉社（於保多神社）	文化年間	前田利幹	富山富山市於保多町
前田利常	天満宮		村民	富山射水郡小杉町塚越
*前田利長	高岡神社（高岡閨野神社）	明治期		富山高岡市末広町
*前田利長	有磯正八幡宮			富山高岡市横田町
*前田利長	木町神社			富山高岡市木町
前田利長	天満宮		村民	富山射水郡小杉町塚越
*前田利保	於保多神社	明治44		富山富山市於保多町
前田治脩	天満宮	江戸期	領民	富山新川郡宇奈月町愛本新
*前田正甫（まさとし）	於保多神社	明治44		富山富山市於保多町
*前田正甫	鹿嶋神社			富山富山市鹿島町
*前田正甫	葉祖社（豊栄稻荷神社境内社）			富山富山市茶屋町
*水野藤兵衛	天満宮（移田神社境内社）			富山高岡市中田
源義仲（木曾義仲）	天照社（上大浦神社）	正治 1	海野道俊	富山上新川郡大山市上大浦
*源義将	櫛田神社			富山射水郡大門町串田
(石川)				
板屋兵四郎	八幡板屋神社	近世		石川金沢市袋板屋町
板屋兵四郎（平四郎）	板屋神社遙拝所(金沢神社境内社)			石川金沢市兼六町
*織田信長	泉野天神社（泉野菅原神社）			石川金沢市野町
九里（くのり）正長	弁財天社（本折日吉神社）			石川小松市本折町
斎藤実盛	多太神社			石川小松市上本折町
富樫忠頼	護国神社（布市神社）	文治 5	富樫泰家	石川石川郡野々市町本町
富樫泰家	関宮（安宅住吉神社）			石川小松市安宅町
徳川家康	東照宮（尾崎神社）	寛永18	前田利常	石川金沢市丸の内
徳川家康（東照神）	稲荷神社（久志伊奈太技比咩神社境内社）	元和 1	能登代官・村民	石川七尾市飯川町
*徳川家康	八幡神社			石川羽咋郡富木町豊後名
*徳川家康	瀬戸比古神社			石川羽咋郡志賀町直海
富木俊行	城山神社（日詰彦神社）			石川羽咋郡富来町貝田
富木斎藤	城山神社（日詰彦神社）			石川羽咋郡富来町貝田
豊臣秀吉	卯辰山王社・卯辰観音(豊国神社)	元和 2（慶長 6 とも）	前田利長	石川金沢市卯辰山
豊臣秀吉	多太神社			石川小松市上本折町
*新田貞貞	城山神社（日詰彦神社境内社）			石川羽咋郡富来町貝田

備 考	典 拠
	本庁データ
	富山県神社誌 p584
利次は初代富山藩主。3代加賀藩主前田利常二男。利幹は9代富山藩主。明治6年、天満宮と合祀し於保多神社と合併	全国上 p386, 富山県神社誌 p27
3代加賀藩主。初代富山藩主利次父	富山県神社誌 p584
2代加賀藩主。富山・高岡城主も歴任。本社は旧称稲荷社で慶長15年、前田利長が勧請。後、関野神社社地へ遷座、利長合祀。高岡・関野両社は、大正8年に合祀	富山県神社誌 p867
	本庁データ
	富山県神社誌 p488
富山城主も歴任し、2代加賀藩主。利家・利常などと合祀	富山県神社誌 p584
10代富山藩主	富山県神社誌 p27
11代加賀藩主。用水事業を十村の申請により決断、許した。地域領民が祀り、産土神・愛本神用水の守護神とした	富山県神社誌 p316
2代富山藩主	富山県神社誌 p27
本社は越中鎮護、薬神奉斎社として桃山時代の創建という。越中売薬の創始者富山2代藩主前田正甫当社境内産湯を使用。正甫は産土神・祈願所とし、売薬の振興を祈願	全国上 p389, 富山県神社誌 p21
越中売薬の祖神の一つとして合祀	富山県神社誌 p51
富山藩治水奉行。治水事業の遺徳により藩祖菅原大神と祀る	富山県神社誌 p521
道後は義仲家臣。主君亡き後出家、菩提を弔い天照社を創建し祀る	富山県神社誌 p162
	本庁データ
	石川県神社誌 p47
	本庁データ
	本庁データ
前田利常が小松在城時代の小姓で絹織物の普及につとめた	本庁データ、本折日吉神社
加賀篠原の戦いで戦死、屍が蛭になったという伝承あり、虫追いに効能	本庁データ
住吉三神に富樫家先祖忠頼の木像を祀り護国神社と称したという。同家滅亡後衰微したが、前田家が保護、明治1年富樫郷住吉神社	石川県神社誌 p227
源義経が奥州へ逃れる際に安宅関を通過した時の関守という。義経を見逃したという歌舞伎勧進帳の人物	本庁データ
日光東照宮神霊を利常が勧請、城内に社殿造営、寛永20年鎮座。別当寺をおいて神護寺と称す(明治2年廃止)。明治11年現在地に遷座	石川県神社誌 p35
天領61村の守護神として稲荷大明神とともに勧請	東照宮 p140
	東照宮 p218
	東照宮 p218
	本庁データ
	本庁データ
2代加賀藩主利長は卯辰山の一峰に秀吉を祀るが、徳川氏をはばかり卯辰山王社とする。卯辰観音院を別当とする。例祭には神事能を奉獻するのが例で「観音院」の神事能と呼ばれ、衆庶が群衆。明治2年、神仏分離の際、秀吉を主神として豊国神社。同19年大手町、同40年現在地に移り、卯辰山天満宮を合祀	名鑑 p278, 全国上 p416
	本庁データ
南北朝期の武将	本庁データ

祭 神 名	祭 祀 社	創祀時期	創 祀 者	所 在 地
長谷部信連	武健神社 (長谷部神社)	寛永21	長連頼	石川鳳至郡穴水町川島
長谷部信連	武建霊神 (長谷部神社)	明治 5		石川江沼郡山中町南町
畑時能	畑神社 (八幡神社)	* 昭和37		石川加賀市大聖寺畑町
* 福富行清	城山神社 (日詰彦神社)			石川羽咋郡富来町貝田
前田綱紀	加賀神社	享保 9	村人	石川河北郡津幡町湯端
前田利家	卯辰八幡 (尾山神社)	江戸期	前田家	石川金沢市尾山町
* 前田利家	菅原神社			石川羽咋郡志雄町菅原
前田利常	尾崎神社			石川金沢市丸の内
前田利常	小松神社 (小松天満宮)	* 昭和12		石川小松市天神町
前田利常	葭島神社	江戸期	前田家	石川小松市大川町
前田利常	金谷神社 (尾山神社)	慶長期	前田利長	石川金沢市尾山町
前田利長	金谷神社 (尾山神社)			石川金沢市尾山町
前田利治	松島神社 (江沼神社)	明治 7		石川加賀市大聖寺
前田斉広	天神社 (金沢神社)			石川金沢市兼六町
前田斉泰	天神社 (金沢神社)			石川金沢市兼六町
前田歴代藩主	祖霊社 (多太神社)			石川小松市上本折町
源義経	関宮 (安宅住吉神社境内社)			石川小松市安宅町
源頼義	高良社 (若宮八幡宮)			石川松任市若宮
(福 井)				
* 有馬晴信	御霊社 (霞城神社・国神社)	江戸期	有馬家	福井坂井郡丸岡町石城戸
瓜生保	杣山神社			福井南条郡南条町阿久和
酒井忠勝	小浜神社	明治 8	旧領有志	福井小浜市竹原御本丸
酒井忠勝	讃岐明神 (小讃岐神社)	寛文期	富田伝右衛門	福井小浜市下中井湿谷
酒井忠勝 (源)	白石神社		村民	福井速敷郡上中町熊川
酒井忠稠	鞠山神社	明治38		福井敦賀市鞠山
柴田勝家	柴田神社	明治 6		福井福井市中央
鈴木重栄	恒道神社 (福井神社境内社)	昭和18		福井福井市大手
鈴木重栄 (主税)	世直神社	昭和 2	有志	福井福井市みのり 3
鈴木重栄 (主税)	世直神社	江戸期	地域民	福井福井市みのり 1

備 考	典 拠
信連は後白河天皇に仕え、鳳至郡大屋庄穴水に居住し、建久年中加賀の平定など忠節。寛永21年に信連自作という肖像を穴水大町村来迎寺境内に影堂をたて安置。宝暦5年武健神社と称したが、明治6年現社号に改称。7月の例祭は穴水町祭。創祠者は信連や能登豪族長氏の後裔で加賀藩家老	名鑑 p293、石川県神社誌 p405
信連は建久年中加賀の平定により源頼朝より当地の塚谷保を加領という。山中温泉再興は信連によるといい、古くより当地医王寺に肖像を祀り武建霊神とされた。明治5年現称	石川県神社誌 p114
南朝方新田義貞の家臣。大聖寺城を攻める。本社は畑時能の崇敬が厚かったという。昭和37年に本社に合祀	石川県神社誌 p104
織田信長の能登攻略の際、当地富木におかれた	本庁データ
5代加賀藩主。元禄年間綱紀がこの地を開墾し、当村を開設、守護神として諏訪神社を創設。新開の業が完成したため村民協議し綱紀を合祀	全国上 p405、石川県神社誌 p248
慶長4年利家死亡後、子弟等は、当時の法をばばかり越中国射水郡寄山海老坂島帽子の八幡大神を遷座すると称して、加賀国河北郡卯辰山麓に祀り、卯辰八幡と称す。以来、前田家累代祭祀。明治4年前田氏東京へ移るに際し、前田氏屋敷跡に移し、同6年尾山神社と改称	名鑑 p275、石川県神社誌 p26
本社は天徳4年京都北野から勧請。天正10年利家社殿造営。慶長10年から33年目ごとに行われる開扉大祭には藩主の代参あり。菅原氏は前田氏祖という	全国上 p413
3代加賀藩主。東照宮を寛永18年に勧請	石川県神社誌 p35
利常が小松隠居・在城中の明暦3年、北野天神造営。昭和12年、金沢市尾山神社より小松神社還鎮	石川県神社誌 p156
寛永16年隠居後に小松在城。本社は利常が寛永19年建立。利常も早くから祀られたという。小松領は万治1年利常死去後消滅	石川県神社誌 p151
利常像が卯辰八幡社に安置。明治6年尾山神社。明治35年金谷神社として分霊	尾山神社誌
2代加賀藩主。利長自身が自己像作成、城内に安置。慶長10年以降は真言宗波着寺、明治元年に卯辰社へ合祀、明治6年尾山神社、明治35年金谷神社として分霊	尾山神社誌
初代大聖寺藩主。初め松島神社、明治7年利治祭祀。明治10年現社号に改称	全国上 p403、石川県神社誌 p96
12代加賀藩主。竹沢殿の鎮守として城内に祀る。明治5年天神社、同7年金沢神社と改称	名鑑 p277
13代加賀藩主	名鑑 p277
	本庁データ
奥州に逃れる際、安宅関を通ったという	本庁データ
平忠常の乱を平定し、前九年の役で安倍氏平定。本社を建立という	石川県神社誌 p198
有馬晴信の曾孫清純が元禄8年越後系魚川より入封。晴信は御霊社(天保8年丸岡城下絵図で確認)として祀られ、これが霞城神社の前身という。霞城神社は福井大震災後、国神社に合祀	本庁データ、国神社誌
保は南朝方の武将。仙山城主、檢非違使判官兼国司。新田義貞を応援するも樺曲村に戦死と伝える。落城の跡に霊を奉斎	神社名鑑 p312、全国上 p441
小浜藩酒井家初代。旧本丸の一部に一社を建立。城中守護神の天御中主を合祀	福井県神社誌 p335
社伝では忠勝が富田伝右衛門に耕地を与え開墾。寛文年間に一社創建	福井県神社誌 p342
寛永11年に入部した忠勝を村民が奉斎という	本庁データ
旧称稲荷神社が移遷し改称した際、小浜酒井家分知の鞠山藩初代藩主忠綱を合祀	福井県神社誌 p265
賤が岳の戦い後、北の庄城下の人々が祠を創建という。明治6年、祠が神社格となった。柴田神社碑の額字は松平慶永によった	福井県神社誌 p170
松平慶永側近として維新事業に参画。「恒道」は「続日本紀」からとったもの	福井県神社誌 p114
松平慶永側近として維新事業に参画	福井県神社誌 p233
天保8年、類焼していた当地荒町を、同13年福井町奉行就任後に救済。生祀としてまつられる	福井県神社誌 p232

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
鈴木準道	三社神社（神明神社境内社）	明治期		福井武生市北町
平維盛	平神社（天満神社）	*明治42		福井足羽郡美山町赤谷
平重盛	小松社（剣神社）			福井丹生郡織田町織田
武田耕雲斎	松原神社	明治7	根本弥七郎	福井敦賀市松島
*土屋正明（左馬助）	佐佳枝廼社	明治24		福井福井市大手
土井利忠	柳廼（やなぎの）社	明治15	郷民	福井大野市亀山
徳川家康	越前東照宮（佐佳枝廼社）	寛永5	松平忠昌	福井福井市大手
*徳川家康	正八幡宮（琵琶神社）	寛文3カ	松平光通カ	福井鯖江市神明町
徳川家康	敦賀東照宮（天満宮境内社カ）			福井敦賀市栄新町
徳川家康	源嶺神社（大塩八幡宮境内社）			福井武生市国兼町
徳川家康	丸岡東照宮（日吉神社境内社カ）			福井武生市丸岡
徳川家康（東照大神）	稲荷神社（神明神社境内社）	江戸期		福井勝山市元町
徳山朋定	三社神社（神明神社境内社）	明治期		福井武生市北町
中根師質	恒道神社（福井神社境内社）	昭和18		福井福井市大手
*永見長次	佐佳枝廼社	明治24		福井福井市大手
*新田義顕	藤島神社	明治11	明治政府	福井福井市毛矢
*新田義興	藤島神社	明治11	明治政府	福井福井市毛矢
新田義貞	新田塚（藤島神社）	万治3	松平光通	福井福井市毛矢
*新田義宗	藤島神社	明治9	明治政府	福井福井市毛矢
橋本左内	恒道神社（福井神社境内社）	昭和18		福井福井市大手
藤原利仁	天満神社			福井敦賀市公文名
本多富正	藤垣神社	明治15	旧藩士民	福井武生市本多
松平茂昭	三社神社（神明神社境内社）	明治期		福井武生市北町
松平茂昭	神明神社（栃原神社）	明治8	村民	福井吉田郡永平寺町栃原
*松平忠直	正八幡宮（琵琶神社）	延宝1		福井鯖江市神明町
松平慶永	佐佳枝廼社	明治24		福井福井市大手
松平慶永	福井神社	昭和18		福井福井市大手
松平慶永	木立神社（三国神社境内社）	明治24	氏子	福井坂井郡三国町山王
松平吉品（昌親）	霊宮（吉江神社）	正徳1	旧領民	福井鯖江市吉江町
間部詮房	松阜（まつがおか）神社	天明年間	士民	福井鯖江市旭町

備 考	典 拠
明治2年の水争いに関し赦免請願を用水掛とともに藩主松平茂昭に行い、これが認められた恩による	今立郡神社誌 p159, 武生市史資料編人物・系譜・金石文 p423
文治2年に維盛が当地に来て天満社創建。明治42年平神社を天満社に合祀	福井県神社誌 p454
重盛は源平争乱の頃、荒廃した額神社に対し社殿造営	福井県神社誌 p693
幕末の勤王の志士武田以下、400名を祀る	福井県神社誌 p264
結城秀康家臣で殉死	福井県神社誌 p113
土井大野藩7代藩主。7代前の祖利房、大野に入封。利忠は藩政改革実施。柳廻は利忠の号・柳涯による	福井県神社誌 p359
忠昌、越前藩祖にあたる家康の遺業をたたえ、福井城内に社殿建立、越前東照宮と称する。明治7年、佐佐枝廻社に合祀	名鑑 p298、全国 p437
正八幡宮に合祀。時期は寛永3年とも。のち琵琶神社と公称	福井県神社誌 p429
	東照宮 p219
	本庁データ
	東照宮 p219
勝山藩主小笠原氏の邸内社で昭和5年保食神と合祀	福井県神社誌 p415
明治2年の水争いに関し赦免請願を郡奉行とともに藩主松平茂昭に行い、これが認められた恩による	今立郡神社誌 p159, 武生市史資料編人物・系譜・金石文 p423
松平慶永側近として維新事業に参画	福井県神社誌 p114
結城秀康家臣で殉死	福井県神社誌 p113
新田義貞嫡子。越前金崎城で自害	福井県神社誌 p140
新田義貞次子	福井県神社誌 p140
義貞は延元3年越前国吉田郡西藤島村燈明寺で戦死。明暦年間この地に古兜を発掘、万治3年3代福井藩主松平光通は同田跡に義貞戦死の石碑をたて、「新田塚」という。明治3年福井藩知事一祀をおこす。明治9年藤島神社の社号	名鑑 p297, 全国上 p448
新田義貞三男。藤島神社社名が与えられた際、新田義貞に配祠が命じられる	名鑑 p297, 全国上 p448, 福井県神社誌 p140
松平慶永側近として維新事業に参画	本庁データ
利仁は北陸道押領使。粟野郷は利仁の恩恵を蒙った土地という	神社名鑑 p300, 全国上 p442
関ヶ原合戦後、結城秀康が越前国主に封ぜられ、富正も越前府中の城を拝受。死後府中城の一角に祀られていたというが、明治15年福井県より創建許可	福井縣南條郡誌 p699, 武生市史資料編社寺の由来 p6
最後の福井藩主。明治2年の水争いに関する郡奉行等の赦免請願を許可した恩による	今立郡神社誌 p159, 武生市史資料編人物・系譜・金石文 p423
明治3年庄屋藤四郎が免租を訴え認められたため、茂昭の神霊を神明神社に合祀。4月7日殿様祭	福井県神社誌 p487
松平福井藩2代藩主(秀康を初代として)。のち豊後配流	福井県神社誌 p429
	全国上 p437
祭神は16代福井藩主で幕末期に公武合体を推進し、幕制改革し全藩統率	福井県神社誌 p114
明治7年、慶永が自分の死後「越の国」を守りたいと祈願し、自分の寿像を祭神として、後に創建。寿像は明治7年三国の者から寄付願いがあった	三国神社略縁起、家譜
祭神(はじめ昌親)は正保2年福井藩より分封され吉江藩成立。昌親が福井宗家の5代藩主に就くと廃藩。昌親死去に際し御館跡に霊宮建立。昭和15年吉江神社	福井県神社誌 p442
詮房は鯖江藩祖(初代詮言の父)ゆえ堂を営み報恩。明治15年当社建設、松阜神社と称した	福井県神社誌 p418

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
間部詮言	松阜神社	明治15	鯖江町民	福井鯖江市旭町
間部詮勝	松阜神社	明治15	鯖江町民	福井鯖江市旭町
山内筑後守	主計神社（角原神社境内社）	昭和29	主計土地改良区	福井福井市角原町
結城秀康（松平秀康）	佐佳枝迺社	明治6	松平慶永	福井福井市大手
*結城秀康（松平秀康）	正八幡宮（琵琶神社）	寛文3	松平光通	福井鯖江市神明町
*吉田善寛	佐佳枝迺社	明治24		福井福井市大手
*脇屋義助	藤島神社	明治9	明治政府	福井福井市毛矢
(山 梨)				
*逸見清光（黒源太清光）	八幡神社			山梨北巨摩郡大泉村谷戸
*加賀見遠光（信濃守遠光）	社宮地神社	嘉禎2以降		山梨富士吉田市大明見
加藤清正	清正神社	*文久4		山梨南巨摩郡早川町雨畑
*桑原安真	桑原稻荷神社	天明2		山梨富士吉田市大明見
小曲五郎（源朝臣小曲五郎）	小曲神社			山梨甲府市小曲町
佐藤忠信	奥平大明神（鼓楽社）	承久1		山梨北都留郡上野原町四方津
佐藤継信	奥平大明神（鼓楽社）	承久1		山梨北都留郡上野原町四方津
曾我祐成	曾我神社	文応1		山梨西八代郡下部町大炊平
曾我時致	曾我神社	文応1		山梨西八代郡下部町大炊平
平重盛（小松）	小松神社	文治2	平貞能	山梨大月市桑川町
武田勝頼	藤武神社	江戸初期	徳川家康	山梨韮崎市中田町
武田晴信（信玄）	武田神社	大正8	官民	山梨甲府市古府中町
武田晴信（信玄）	武田社		住民	山梨北巨摩郡双葉町竜地
*土屋昌山	八幡神社			山梨中巨摩郡敷島町島上条
徳川家康	東照宮（八幡神社）	寛文年中		山梨甲府市宮前町
徳川家康	御嶽東照宮（金桜神社境内社）	*文化9		山梨甲府市御岳町
徳川家康	三神社（富士浅間神社境内社）			山梨富士吉田市上吉田
徳川家康	東照神社（富士浅間神社境内社）			山梨富士吉田市小明見
徳川家康	東照宮（松尾神社境内社）			山梨塩山市小屋敷
*徳川家康	正八幡神社			山梨都留市下谷
徳川家康	谷村東照宮		代官・村民	山梨都留市川棚城山
徳川家康	東照宮（穂見神社境内社）			山梨韮崎市穴山町

備 考	典 拠
明治15年鯖江町制が施行されるのに際し、間部家の別館松阜仙窟跡地に一社建立し 詮房とともに祭祀。詮言は享保6年越後村上より入封した初代鯖江藩主	福井県神社誌 p418
間部鯖江藩7代藩主詮勝は幕末の藩主で幕政の要職にも就任。明治15年詮言とともに 合祀	福井県神社誌 p418
鎌倉より土着した山内が主計郷の治水事業	福井県神社誌 p171
明治6年、福井市民の要請をうけ、慶永が初代福井藩主秀康の遺業をたたえ、一社 を創建し佐佳枝神社と称した。当社前身は藩主菩提寺の瑠璃光寺	福井県神社誌 p113
3代松平福井藩主の光通が正八幡宮に合祀。のち琵琶神社と公称	福井県神社誌 p429
祭神は福井城築城総監	福井県神社誌 p113
藤島神社社名が与えられた際、新田義貞に配祠が命じられる	名鑑 p297、全国上 p 448、福井神社誌 p140
甲斐源氏の祖新羅三郎義光の孫で逸見黒源太清光。当地は居城谷戸城があった。本 社は同城本丸址に鎮座。清光が当地に居城の時本社祭祀。のち里民が信仰。清光配 祠時期不詳	本庁データ
鎌倉時代初期武将。当地加賀美を拠点として、源頼朝に仕え平家討伐に戦功。嘉禎 2年以降の合祀	山梨県神社誌 p349
老平・馬場地区の氏神。棟札に文久4年本殿造営とあり	山梨県神社誌 p185
天明2年、菅原道真とともに合祀、現社名となる	本庁データ
	山梨県神社誌 p36
平泉の藤原秀衡のもと、信夫、伊達、白河あたりまでを支配していた豪族・佐藤基 治の息子	山梨県神社誌 p414
陸奥出身平安末期の武士源義経の四天王の一人で、陸奥の人佐藤忠信の兄。延享2 年四方津村絵図には奥平大明神と記す	山梨県神社誌 p414
	山梨県神社誌 p152
	山梨県神社誌 p152
「甲斐国志」に文永・文明年間の古棟札の記述あり。宝永年中修復、延享年中再営 （北都留郡誌）	山梨県神社誌 p406
勝頼が築城した新府城跡にあり「お新府さん」と呼ばれる。藤井庄と武田庄とを前 後に見渡すところがあるので藤武神社といわれる（文化3年拝殿改築の棟札）。天 正年間勝頼築城の際、城内に祀る。落城後、改めて家康が再建し藤武神社と称した	山梨県神社誌 p272
大正4年大正天皇即位に際し、従三位を追贈、これを機に官民協力	神社名鑑 p318、全国 上 p468
信玄が要路にあたる竜地新町を開き、貢諸役免許としたことに報いるため、武田不 動尊にまつる	山梨県神社誌 p285
祭神は武田氏家臣。本社は神護景雲2年勧請の古社	山梨県神社誌 p226
本社の八幡神社は天正年中徳川家康が入国社参	神社誌料中 p24、本庁 データ
	東照宮 p220
本社の富士浅間神社はもと浅間大明神。徳治年代以前の成立か	神社誌料中 p21、東照 宮 p220
三神社と同一化か	本庁データ
本社の松尾神社は延喜の小社。古来松尾郷の鎮守	神社誌料中 p92
長生寺東照宮（東照宮 p220）と同一か	本庁データ
谷村から城山山頂に移遷	東照宮 p174
本社の穂見神社は逸見諸郷の祖稲を納める官庫の鎮守神という	神社誌料中 p61

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
徳川家康	駒井東照宮（当麻戸神社境内社）			山梨韮崎市藤井駒井
徳川家康	東照宮（大井俣神社）			山梨山梨市小原西
徳川家康	井尻家東照宮	寛政頃	井尻氏	山梨山梨市下井尻
徳川家康	東照宮（諏訪神社）			山梨東山梨郡牧丘町隼
徳川家康	一宮東照宮（浅間神社境内社カ）			山梨東八代郡一宮町
徳川家康	日光社	寛永4		山梨西八代郡下部町常葉
徳川家康	東照宮（弓削神社境内末社）			山梨西八代郡市川大門町
徳川家康	東照宮（穂見神社境内社）			山梨中巨摩郡穂形町高尾
徳川家康	龍王東照宮（窪八幡宮境内社）	文化9		山梨中巨摩郡龍王町
徳川家康	西野東照宮（西野八幡宮境内社）			山梨中巨摩郡白根町西久保
徳川家康	大井東照宮（浅間神社境内社）			山梨中巨摩郡甲西町大井
徳川家康	東照宮（当麻戸神社）			山梨北巨摩郡須玉町若神子
徳川家康	東照宮（建岡神社境内社）			山梨北巨摩郡長坂町大八田
徳川家康	東照宮（逸見神社）			山梨北巨摩郡大泉村谷戸
徳川家康	白須東照宮（若宮八幡神社境内社）			山梨北巨摩郡白州町白須
徳川家康	東照宮（若宮八幡神社）			山梨南巨摩郡中富町矢細工
中井清太夫	神明神社	江戸中期	塩部村民	山梨甲府市塩部
新田義貞	報国神社	延元1	勝保氏子孫	山梨富士吉田市小明見
*根子弾正	諏訪神社			山梨西八代郡下部町根子猪畑
波木井実長	山城神社	元久2カ		山梨南巨摩郡南部町南部
平岡治郎左衛門	平岡社（八幡神社境内社）			山梨甲府市富竹
平岡勘左衛門	平岡社（八幡神社境内社）			山梨甲府市貢川
藤原光親	金山神社	天福1		山梨富士吉田市大明見
藤原光親	天神社			山梨南都留郡山中湖村平野不動坂
源為朝	為朝神社			山梨韮崎市神山町
源経基	六社神社	明暦1以前		山梨南巨摩郡早川町雨畑
源義清	義清神社	久安1		山梨中巨摩郡昭和町西条
源義光（新羅三郎）	新羅神社	建中年中	南部光行	山梨南巨摩郡南部町南部
*源義光（新羅三郎）	愛宕神社	慶長1		山梨富士吉田市大明見
源義光	幸燈神社	文保年間	武田家	山梨北巨摩郡武川村山高
*源頼義	社宮地神社	嘉禎2	加賀見信濃守遠光子孫	山梨富士吉田市大明見
安田義定	神明神社			山梨東山梨郡牧丘町牧平
安田義定	想覚神（若宮八幡神社）	義定死後		山梨東山梨郡牧丘町西保中
（長 野）				
安倍貞任	安部神社			長野大町市平

備 考	典 拠
本社の大井俣神社は貞観元年宇佐八幡三神を勧請。武田氏が崇敬。徳川家光も朱印地を宛う	東照宮 p220 神社誌料中 p86
邸内社。井尻家は戦国期以来の在地土豪。「浪人」(郷土)身分獲得を祈願して勧請か	東照宮 p187
本社の諏訪神社はもこの地域の産土神	神社誌料中 p90
	東照宮 p220
建久2年常葉村領主常葉光季勧請の若宮八幡宮跡地に建立	山梨県神社誌 p151
弓削神社は古来二ノ宮を称す	神社誌料中 p37
本社の穂見神社は延喜式内社	神社誌料中 p129
	東照宮 p220
	東照宮 p220
	東照宮 p220
本社の当麻戸(たまべ)神社は笠宿の神事があったという諏訪神社の下社	神社誌料中 p41
本社の建岡神社に武田氏は社領を与える	神社誌料中 p70
本社の逸見(へみ)神社は逸見氏代々の崇敬をうける。国印地があった	神社誌料中 p72
	東照宮 p220
本社の若宮八幡神社は社殿が文政4年類焼	神社誌料中 p74
甲府代官。文禄年間の甲府城築城の際、塩部全戸は城郭内に強制移住させられ、農耕に不便。安永6年甲府に來任した中井によりようやく復帰願が認可。塩部繁栄の祖として祀る	山梨県神社誌 p24
勝俣氏は義貞家臣。義貞から拝領の刀をまつたという	山梨県神社誌 p351
本社は創建不詳だが嘉永4年社殿改築	山梨県神社誌 p159
祭神は南部光行の実子。創建は「建仁乙丑」というが元久2(乙丑)年か	山梨県神社誌 p209
元禄頃の代官。本社の八幡神社は慶長8年黒印神領3斗8升	本庁データ、山梨県神社誌 p25
	本庁データ
鎌倉前期の公卿。藤原光雅の子。貞享3年明見村大明見へ移遷。承久の乱に荷担したとして斬首	山梨県神社誌 p349
菅原道真と合祀。承久年間長池地区に身を隠し、学問・武芸を伝授し、建暦1年北条方に殺され、村人が現在地に葬ったと伝承	山梨県神社誌 p377
武田八幡宮(祭神は日本武尊の子の武田武大神)の境内社	本庁データ
天和元年に現在地に社殿創建	山梨県神社誌 p184
祭神は甲斐源氏祖。50年ごとの大年祭を寛政6年、弘化4年、明治32年、昭和25年(八百年祭)に実施	山梨県神社誌 p233
祭神は甲斐源氏。義満4代孫の南部光行が南部の城主の時、まつたという	山梨県神社誌 p208
慶長元年合祀、天和2年現社地に移遷	山梨県神社誌 p349
義光の新羅の名によって唐土の祠と号す。のち幸燈大神を合祀	山梨県神社誌 p326
甲斐源氏中祖としてまつる	山梨県神社誌 p349
鎌倉前期の武將。清和源氏、義清の四男。兄清光の養子。本拠地は甲斐。治承4年平氏追討の挙兵。のちに誅殺	本庁データ
若宮八幡神社は寿永元年安田義定の勧請という。死去後に配祠し理想神といい、毎年七月晦日夜相撲を行い、義定亡霊を慰めるという	山梨県神社誌 p67
前九年の役を起こし、陸奥守源頼義らに抵抗した奥州の豪族。純粋な史実としてよりも、弟の宗任とともに、浄瑠璃や歌舞伎「奥州安達ヶ原」の主人公として知られる	本庁データ

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
安倍宗任	安部神社			長野大町市平
一色義遠	片宮八幡宮（五社、松本神社）	江戸期	戸田家	長野松本市丸の内
今井兼平（若宮兼平）	兼平神社（續麻神社境内社）			長野松本市今井
*碓井貞光（定光）	神明宮			長野松本市並柳
*卜部季武	神明宮			長野松本市並柳
*海野広道	白鳥神社			長野小県郡東部町本海野
海野幸氏（小太郎幸氏）	愛宕神社			長野小県郡丸子町御嶽堂
大妻兼澄（太郎兼澄）	大妻神社			長野南安曇郡梓川村倭
大日方長利（彈正）	小川古跡神社（古山神社境内社）			長野上水内郡小川村瀬戸川
大日方直経（金吾）	小川古跡神社（古山神社境内社）			長野上水内郡小川村瀬戸川
大日方直経（金吾大膳）	金吾社（小川八幡宮境内社）			長野上水内郡小川村高府
加藤道光（道向）	道光神社			長野小県郡真田町長
*鎌倉景政（権五郎景政）	田中八幡宮			長野下伊那郡上郷町飯沼
木曾義仲（源義仲）	旗挙八幡宮			長野木曾郡日義村宮ノ原
木曾義重（冠者義重）	冠者社	鎌倉初期力	義重家臣	長野北佐久郡立科町芦田
*木曾家霊	八幡宮			長野木曾郡日義村3432-1
楠木正成（楠正成）	楠神社（大宮諏訪神社境内社）			長野飯田市宮ノ前
*坂田金時（坂田公時）	神明宮			長野松本市並柳
佐久間象山	象山神社	昭和6		長野長野市松代町
真田幸隆	真田神社（山家神社境内社）			長野小県郡真田町長
真田昌幸	真田神社（山家神社境内社）			長野小県郡真田町長
真田昌幸	上田神社（真田神社）	昭和28	氏子	長野上田市二の丸
真田信之	景德大明神（武靖大神、白鳥神社）	文化10	真田幸専	長野長野市松代町
真田信之	真田神社（山家神社境内社）			長野小県郡真田町長
真田信之	上田神社（真田神社）	昭和28	氏子	長野上田市二の丸
真田幸村	真田神社（山家神社境内社）			長野小県郡真田町長
真田幸村（信繁）	上田神社（真田神社）	昭和28	氏子	長野上田市二の丸

備 考	典 拠
平安中期、奥六郡（現在の岩手県）を束ねた豪族、「俘囚長」であった安倍頼時の三男。前九年の役では父・頼時、兄・貞任らと共に戦うが、敗戦。康平7年、伊予国に流され、さらに大宰府に移された	本庁データ
戸田氏三河在住時の先任の地頭	信州郷土史研究会編寺と神社 p234
若宮兼平は木曾義仲四天王の一人で今井兼平。謡曲「兼平」あり	本庁データ
平安時代中期の武將。源頼光に集う四天王の一人	本庁データ
平安時代中期の武將。源頼光に集う四天王の一人	本庁データ
里人が日本武尊を祀り、海野氏代々尊崇。同氏は真田氏に改姓し慶長5年信之の朱印状を献じる	神社名鑑 p356、全国上 p494
海野氏は真田氏の祖。幸氏は鶴岡八幡宮で流鏑馬の射手を勤め、弓馬の名手として、その高名は天下に知られる様になる	本庁データ
三浦胤義配下の信濃武士	本庁データ
当地は室町期、小川左右衛門貞綱の居城小川城があったが、牧野島城主香坂氏の養子大日方長利に攻略され、替わって長利が城主となり小川殿と呼ばれた	本庁データ
戦国期の小川城の家老	本庁データ
金吾大膳は戦国期の小川城の家老の大日方直経か	本庁データ
加藤清正の一族という	本庁データ
	本庁データ
当社地は木曾義仲が平家を討つため挙兵したところという	本庁データ
義重は木曾義仲の嫡子。義仲が木曾に隠れ、のち粟津ヶ原に於いて戦死後、義重故郷に隠れ卒死、という。義重家臣が地域守護神として祀ったとされる。義高とも	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
源頼光の郎党で四天王の一人とされる	本庁データ
昭和6年本社創立許可、13年創建。象山生誕地に当社は隣接	信州の神事 p182
海野小太郎棟綱の次男彈正忠幸隆が、信濃国小県郡海野郷（現在の上田市付近一帯）から真田郷に拠って真田氏を称したという	本庁データ
幸隆三男。真田家2代当主	本庁データ
松平神社に真田家一族も仙石歴代とともに合祀され、松平神社が上田神社と改称。昭和38年に真田神社に改称	本庁データ・上田市立博物館
真田松代藩初代藩主。幸専は7代松代藩主	信州郷土史研究会編寺と神社 p203
真田松代藩初代藩主。昌幸嫡男。沼田・上田を経て松代に入封。関ヶ原合戦に際して徳川方として父昌幸・弟幸村と戦う	本庁データ
昌幸嫡男。沼田を経て上田に一時入部。のち松代転封	本庁データ
昌幸次男。豊臣家と近く、関ヶ原合戦に際して豊臣方として父昌幸とともに兄信之と戦う。合戦後上田改易。大坂の陣でも豊臣方として夏の陣で戦死	本庁データ
昌幸次男。豊臣方として父昌幸とともに兄信之と戦う。合戦後上田改易。松平神社に仙石家一族とともに合祀	本庁データ

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
真田幸昌	上田神社（真田神社）	昭和28	氏子	長野上田市二の丸
真田信政	白鳥神社	昭和26	神社	長野長野市松代町
真田幸道	白鳥神社	昭和26	神社	長野長野市松代町
真田信弘	白鳥神社	昭和26	神社	長野長野市松代町
真田信安	白鳥神社	昭和26	神社	長野長野市松代町
真田幸弘	白鳥神社	昭和26	神社	長野長野市松代町
真田幸専	白鳥神社	昭和26	神社	長野長野市松代町
真田幸貫	白鳥神社	昭和26	神社	長野長野市松代町
真田幸教	白鳥神社	昭和26	神社	長野長野市松代町
真田幸民	白鳥神社	昭和26	神社	長野長野市松代町
下条頼氏（伊豆守）	寺尾社			長野下伊那郡下條村陽阜
下条頼氏	八幡神社			長野下伊那郡阿南町富草古城
諏訪頼忠	高島神社（諏訪大社境内社）			長野諏訪市中洲
諏訪頼水	高島神社（諏訪大社境内社）			長野諏訪市中洲
仙石政和	上田神社（真田神社）	昭和28	氏子	長野上田市二の丸
仙石忠政	上田神社（真田神社）	昭和28	氏子	長野上田市二の丸
仙石政俊	上田神社（真田神社）	昭和28	氏子	長野上田市二の丸
仙石政明	上田神社（真田神社）	昭和28	氏子	長野上田市二の丸
平維茂	十二神社（柵神社境内社）			長野上水内郡戸隠村栃原
武田信豊	大平神社			長野下伊那郡阿智村智里
武田家祖神	矢作社武田八幡社合殿			長野茅野市玉川
遠山景直（土佐之守）	遠山社（市場神社境内社）	江戸期	村民	長野下伊那郡大鹿村鹿塩
遠山氏祖霊（遠山景直）	大殿（遠山氏祖霊社。八幡社）	江戸期	村民	長野下伊那郡南信濃村八重河内
遠山景重	若殿	江戸期	村民	長野下伊那郡南信濃村八重河内
遠山氏祖霊	遠山氏祖霊社（八幡神社境内社）	江戸期	村民	長野下伊那郡南信濃村木沢

備 考	典 拠
幸村子。大坂の陣で戦死	本庁データ
真田松代藩2代藩主。松代藩主8代幸貫没後百年祭にあたり、信之以後の真田旧藩主を祀る	信州の神事 p181
真田松代藩3代藩主。松代藩主8代幸貫没後百年祭にあたり、信之以後の真田旧藩主を祀る	信州の神事 p181
真田松代藩4代藩主。松代藩主8代幸貫没後百年祭にあたり、信之以後の真田旧藩主を祀る	信州の神事 p181
真田松代藩5代藩主。松代藩主8代幸貫没後百年祭にあたり、信之以後の真田旧藩主を祀る	信州の神事 p181
真田松代藩6代藩主。松代藩主8代幸貫没後百年祭にあたり、信之以後の真田旧藩主を祀る	信州の神事 p181
真田松代藩7代藩主。松代藩主8代幸貫没後百年祭にあたり、信之以後の真田旧藩主を祀る	信州の神事 p181
真田松代藩8代藩主。幸貫没後百年祭にあたり、信之以後の真田旧藩主を祀る	信州の神事 p181
真田松代藩9代藩主。松代藩主8代幸貫没後百年祭にあたり、信之以後の真田旧藩主を祀る	信州の神事 p181
真田松代藩10代藩主。松代藩主8代幸貫没後百年祭にあたり、信之以後の真田旧藩主を祀る	信州の神事 p181
下条伊豆守は甲斐から大沢（下条）に移ったとされる下条頼氏か	本庁データ
甲斐から大沢（下条）に移ったとされる	本庁データ
諏訪上社の大祝。徳川家康傘下となり、天正18年、徳川氏とともに関東へ移り武蔵・上野と動く。子の頼水が諏訪に再封	本庁データ
頼忠の子。上野より日根野氏のあとに諏訪へ再封。初代諏訪高島藩主。以後幕末まで諏訪氏が定着	本庁データ
矢沢に分知された6代。松平神社（のち上田神社を経て眞田神社と改称）に眞田一族とともに合祀	本庁データ・上田市立博物館
信濃小諸から当地上田に元和8年入封。初代仙石上田藩主。2代後に但馬出石に転封となるが、昭和28年に眞田氏一族とともに、藤井松平家を祀った松平神社に合祠して上田神社、昭和38年に眞田神社に改称	本庁データ・上田市立博物館
2代仙石上田藩主	本庁データ・上田市立博物館
3代仙石上田藩主。宝永3年、但馬出石藩へ転封	本庁データ・上田市立博物館
平安中期武將。繁盛の子、将門を討った叔父平貞盛の養子となる。信濃守、出羽介、鎮西府將軍を歴任。維茂が鬼女を倒す謡曲『紅葉狩』の舞台は当地戸隠	本庁データ
武田勝頼の従兄弟・武田信繁の長男。永祿4年父の戦死後に家督を継ぐ。信玄・勝頼に仕えて親族衆として信濃小諸城を守る。天正10年3月織田信長の武田氏攻略に際して、城代の下曾根覚雲齋に誅殺という	本庁データ
当地域一帯の領主で和田城主遠山氏2代。大坂の陣に出陣したという。景直以後、相続争いが起こり同氏は改易される。のちに大殿と称して祀られたという	本庁データ
当地域一帯の領主。景直後、相続争いが起こり改易され、天領となる。なお遠山氏は鎌倉後期に当地荘官として入部、在地領主化したともいわれ、八幡社は遠山氏の勧請という	本庁データ・竜淵寺盛文雄氏聞取
景直の子・病弱で早世。これが原因で家督争い後、改易	竜淵寺盛文雄氏聞取
当地域一帯の領主で和田城主。景直後、相続争いが起こり改易され、天領となる	本庁データ・竜淵寺盛文雄氏聞取

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
遠山氏祖霊	遠山氏祖霊社（八幡社境内社）	江戸期	村民	長野下伊那郡上村字754
徳川家康	川合東照宮			長野長野市真島町川合
徳川家康	勝弦東照宮		村民	長野塩尻市北小野勝弦
徳川家康	有尾東照宮（飯笠山神社境内社）			長野飯山市飯山
徳川家康	杭瀬下東照宮			長野更科市杭瀬下
徳川家康	八幡東照宮（武水別神社末社）			長野更科市八幡
徳川家康	福島合社			長野伊那市福島
徳川家康	秋葉東照宮（荒神社境内社）			長野東筑摩郡四賀村中川
徳川家康	東照宮（板場諏訪社境内社）			長野東筑摩郡四賀村板場
徳川家康	東照社（神明宮境内社）			長野東筑摩郡明科町東川手
徳川家康	東照大権現社（飯田郷元神社境内社）			長野上高井郡小布施町飯田
徳川松姫	五社（松本神社）	天保2	松平光年	長野松本市丸の内
戸田宗光	今宮八幡宮（五社、松本神社）	江戸期	戸田家	長野松本市丸の内
中原兼氏	鎮神社	鎌倉初期カ		長野木曽郡槽川村奈良井
仁科盛遠	仁科神社			長野大町市平
野田正満（野田喜左衛門）	野田社（七面社）			長野上水内郡三木村赤東
野田正満（野田喜左衛門）	記念碑（水神社）	昭和初頃		長野上水内郡豊野町豊野
花井吉成（遠江守）	花井神社			長野長野市篠ノ井小松原
花井義雄（主水正）	花井神社			長野長野市篠ノ井小松原
樋口兼光	祖霊社	明治4	香蓮寺檀家	長野上伊那郡辰野町樋口
常陸坊海尊	青麻神社（美和神社境内社）			長野長野市三輪
*平井保昌	神明宮			長野松本市並柳
堀秀政（久太郎秀政）	長姫神社	江戸期	堀親貞	長野飯田市追手町
堀親良（美作守親良）	長姫神社	江戸期	堀親貞	長野飯田市追手町
堀親昌（美作守親昌）	長姫神社	江戸期	堀親貞	長野飯田市追手町
堀直重（淡路守）	奥田神社			長野須坂市須坂
堀直虎（内蔵頭）	奥田神社			長野須坂市須坂
本多広孝	葵神社			長野飯山市飯山
牧野氏歴代	懷古神社	明治13	旧小諸藩士	長野小諸市丁本丸跡
松平忠晴	松平神社（上田神社・眞田神社）	明治12	旧臣	長野上田市二の丸
松平忠昭	松平神社（上田神社・眞田神社）	明治12	旧臣	長野上田市二の丸

備 考	典 拠
当地域一帯の領主で和田城主	本庁データ
川合神社か	東照宮 p221
勝茲村の鎮守社	東照宮 p155
	東照宮 p221
高原神社相殿か	東照宮 p221
	東照宮 p221
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
一色義遠・戸田宗光を合祀していた賜谷大神社に合祀。松姫は初代松本藩主松平（戸田）康長の室。光年は第二次松平（戸田）松本藩の7代藩主	神社名鑑 p344、全国上 p502
松平（戸田）松本藩主の祖	信州郷土史研究会編 寺と神社 p234
はじめ鳥居峠に祀ったが天正10年に焼失後、奈良井義高が現在地に移したという	信州郷土史研究会編 寺と神社 p245
仁科（森）城主。本曾義仲にしたがった。また承久の乱にも京方として関わったという	本庁データ
松平（桜井）飯山藩堰奉行。新田開発に尽力。元禄9年死去	本庁データ
松平飯山藩堰奉行野田喜左衛門。昭和の初め頃追贈され碑建立	本庁データ、豊野町役場
松平忠輝時代の松代藩城代。堀花川などを改修。忠輝により重用されるもこれが原因で内紛発生	本庁データ
吉成の子	本庁データ
本曾四天王の一人。中原兼遠の子。伊那の樋口に館を構え、樋口氏と称した。本曾義仲が挙兵して以来、弟・今井兼平とともにこれを助け各地転戦という。廃仏毀釈で廃寺になる香蓮寺に兼光の墓があったとされる	本庁データ・辰野町教育委員会
源義経の郎党。もとは園城寺の僧という	本庁データ
源頼光の郎党で一人武者と呼ばれ、四天王とともに著名	本庁データ
堀飯田藩2代藩主親貞の時、堀家の祖三代（秀政・親良・親昌）を祀る。秀政は織田信長・豊臣秀吉に仕え越前北庄城主。2代後が初代飯田藩主親昌。明治13年城趾の丸に祠をたて遷座、この地の旧名長姫にちなみ長姫神社。同34年現在地に遷座	神社名鑑 p346、全国上 p490
秀政次男で寛永4年下野烏山城主	神社名鑑 p346、全国上 p490
親昌は堀親良子で堀飯田藩初代藩主	神社名鑑 p346、全国上 p490
堀須坂藩初代藩主	本庁データ
堀須坂藩13代藩主	本庁データ
本多飯山藩主の祖で徳川家康家臣。本多家は糸魚川から助芳が入封、幕末にいたる歴代小諸藩主。明治13年小諸藩の旧士族により本丸跡に創建。本丸の東北に城の鎮守神として祀られていた天満宮、火魂（荒神）社の2社と藩主牧野氏歴代の霊を合祀。藩主牧野氏は元禄15年越後与板藩主から小諸藩主として入封	本庁データ
初代藤井松平氏。3代忠周が仙石家にかわり上田藩入部。当初、藤井松平家3代が祭祀され、松平（しょうへい）神社。昭和28年4代以降と当地上田の旧主であった真田・仙石の歴代一族も合祀され上田神社、同38年には真田神社と改称	本庁データ・上田市立博物館
2代藤井松平氏。3代忠周が仙石家にかわり上田藩入部	本庁データ・上田市立博物館

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
松平忠周	松平神社（上田神社・眞田神社）	明治12	旧臣	長野上田市二の丸
松平忠愛	上田神社（眞田神社）	昭和28	氏子	長野上田市二の丸
松平忠順	上田神社（眞田神社）	昭和28	氏子	長野上田市二の丸
松平忠濟	上田神社（眞田神社）	昭和28	氏子	長野上田市二の丸
松平忠学	上田神社（眞田神社）	昭和28	氏子	長野上田市二の丸
松平忠優	上田神社（眞田神社）	昭和28	氏子	長野上田市二の丸
松平忠礼	上田神社（眞田神社）	昭和28	氏子	長野上田市二の丸
松平忠厚	上田神社（眞田神社）	昭和28	氏子	長野上田市二の丸
松平永兼（戸田永兼）	暘谷大明神（五社、松本神社）	寛永13	松平光重	長野松本市丸の内
松平康長（戸田康長）	五社（松本神社）	天保2	松平光年	長野松本市丸の内
三木秀綱	秀綱社（梓水社境内社）			長野南安曇郡安曇村大野川
源為朝（鎮西為朝）	為朝社（大山田神社）	永正3以前カ		長野下伊那郡下條村陽阜
源義光（新羅三郎源義光）	諏訪神社			長野南安曇郡三郷村明盛
源義光（新羅三郎源義光）	三柱神社			長野南安曇郡三郷村明盛
*源頼光	神明宮			長野松本市並柳
村上義光	自在神社			長野埴科郡坂城町上平
森義隆	亘理神社			長野松本市大手
*渡辺綱	神明宮			長野松本市並柳
（岐 阜）				
*姉小路基綱一族	諏訪神社			岐阜古城郡古川町杉崎
市右衛門	薩摩塚治水神社	昭和55	町老人クラブ	岐阜安八郡輪之内町大藪
江馬輝経	江馬神社（加茂若宮神社境内社）	鎌倉期カ	地域民	岐阜古城郡神岡町殿
*加藤景康	八幡神社	延応年間		岐阜恵那郡岩村町大路
*加藤景朝（遠山景朝）	武並神社			岐阜恵那郡岩村町一色
加藤清正	清正神社（松森神社）	弘化4	加藤家家臣	岐阜高山市上野町
金森長近	金龍神社（東照宮境内社）			岐阜高山市西之一色町

備 考	典 拠
3代藤井松平氏。忠周が仙石家にかわり上田藩入部。初代松平上田藩主。以後幕末までこの藤井松平家が上田藩定着	本庁データ・上田市立博物館
2代松平上田藩主で4代藤井松平氏。忠愛以降の松平上田藩主と当地の旧主の真田家・仙石家の歴代一族とともに、藤井松平家3代まで祀った松平神社に合祀され上田神社と改称。昭和38年眞田神社と改称	本庁データ・上田市立博物館
3代松平上田藩主	本庁データ・上田市立博物館
4代松平上田藩主	本庁データ・上田市立博物館
5代松平上田藩主	本庁データ・上田市立博物館
6代松平上田藩主	本庁データ・上田市立博物館
7代松平上田藩主	本庁データ・上田市立博物館
7代松平上田藩主忠礼の弟	本庁データ・上田市立博物館
松平（戸田）康長長子。享保11年松本移封後、五社として他の松平（戸田）氏一族とともに合祀。光重は康長の孫で2代松平（戸田）明石藩主	神社名鑑 p344, 全国 p502
松平（戸田）松本藩初代藩主。一色義遠・戸田宗光を合祀していた鳴谷大神社に合祀。昭和28年若宮八幡社を合祀して松本神社に改称。光年は第二次松平（戸田）松本藩7代藩主	神社名鑑 p344, 全国 p502
戦国時代の松倉城城主で飛騨一円を治めた。豊臣秀吉に攻略され、信濃に敗走という	本庁データ
社殿は永正3年頃、吉岡城主下条氏により建立	信州郷土史研究会編寺と神社 p295
平安後期の武将。新羅明神の前で元服したので新羅三郎と呼ばれた。父は頼義。義家の同母弟	本庁データ
平安後期の武将。父は頼義。弓馬の名人	本庁データ
源満仲の長子。藤原摂関家に接近した。酒吞童子伝説などあり	本庁データ
義光は信州埴科の武士で、護良親王に従って討幕活動をおこなっていたが、元弘3年吉野が落ちた時に護良親王の身代わりとなって蔵王堂前二天門で自害。首は吉野に里人が葬ったという	本庁データ
源義家6男森義隆か。義隆は鎌倉の森（毛利荘）拝領を機に森氏を称する	本庁データ
平安中期の武将。源氏の一族。坂田公時、平貞道、平季武とならんで源頼光の郎党で強者の四天王と称された	本庁データ
基綱は室町中期の飛騨国司。永正元年、64歳で死去。歌人としても著名	本庁データ
薩摩藩士。宝暦治水工事に際し責任をとり宝暦4年自刃という	本庁データ
江馬氏初代。飛騨国高原郷に諏訪城（現神岡町）を築く。輝経は、平経盛末子で清盛の甥。平氏滅亡後に北条時政の養子となり、時政没後に執権となった実子義時に追われ当地にきた（承久3年）という。のち地域民は殿村と称し祭祀と伝える	岐阜県神社要覧 p304, 飛騨の神社 p938
承久年間岩村城守護神として八幡神社を造営され、延応年間に岩村城・当地域の創始者景康を配神とした。景康は源頼朝の臣で当地遠山庄の地頭に任じられ、子の景朝は遠山氏を名乗る。明治4年現在地に移遷	神社名鑑 p376, 全国上 p539
加藤景康の子。領した地域名の遠山に改姓	本庁データ
加藤清正の孫光正が罪により高山に配流、2年で死去。その後当地に入植した家臣が創立。明治41年松森神社に合祀	飛騨の神社 p561
戦国期武将。豊臣秀吉に美濃地方を与えられ高山城築城	飛騨の神社 p471

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
鎌倉景政(権五郎景政)	青阪神社			岐阜不破郡関ヶ原町今須
木曾義仲(源義仲)	木曾神社			岐阜養老郡上石津町牧田
喜田吉右衛門	堰神社(春日神社境内社)			岐阜関市巾町
喜田吉右衛門	堰神社(貴船神社境内社)			岐阜関市貴船町
喜田吉右衛門	井神社			岐阜関市下有知
楠木正成	楠神社(伊奈波神社境内社)			岐阜岐阜市伊奈波通り
楠木正成	御旅所祠(桜ヶ岡八幡神社境内社)			岐阜高山市山口町
楠木正成	楠神社			岐阜揖斐郡谷汲村岐礼
頼綱縫之助	頼綱神社			岐阜可児郡御嵩町中
郷田喜八	薩摩堰治水神社	昭和55	町老人クラブ	岐阜安八郡輪之内町大藪
*酒井七左衛門	畑繁大神宮(畑繁神明神社)	文政2	松枝輪中	岐阜羽島郡柳津町丸野
平将門	御首神社			岐阜大垣市荒尾町
土岐頼兼	土岐神社			岐阜瑞浪市土岐町
徳川家康	東照宮神社(伊奈波神社境内社)			岐阜岐阜市伊奈波山
徳川家康	峯本宮(伊奈波神社境内社)			岐阜岐阜市伊奈波通
徳川家康	加納東照宮	明治9	町民	岐阜岐阜市加納
徳川家康	富茂登東照宮	明治9		岐阜岐阜市富茂登
徳川家康	飛騨東照宮	元和5	金森重頼	岐阜高山市西之一色町
徳川家康	大名田東照宮	元和5		岐阜高山市
徳川家康	東照宮(南宮神社境内社)			岐阜不破郡垂井町宮代
徳川家康	東照神社(阿夫志奈神社境内社)			岐阜加茂郡河辺町上川辺
戸田氏鉄	常葉神社	大正5		岐阜大垣市郭町
戸田一西	常葉大神(常葉神社)	嘉永5		岐阜大垣市郭町
永田李左衛門	薩摩堰治水神社	昭和55	町老人クラブ	岐阜安八郡輪之内町大藪
永山盛次(市左衛門)	薩摩堰治水神社	昭和55	町老人クラブ	岐阜安八郡輪之内町大藪
西尾道永(式部道永)	刈安神社			岐阜瑞浪市釜戸町
新田義貞(仁田四郎由定)	烏山神社(徳山神社境内社)			岐阜本巣郡本巣町文殊
根尾右京亮	根尾神社			岐阜本巣郡根尾村神所
八郎左衛門	薩摩堰治水神社	昭和55	町老人クラブ	岐阜安八郡輪之内町大藪
浜島紋右衛門	薩摩堰治水神社	昭和55	町老人クラブ	岐阜安八郡輪之内町大藪
林幽閑	堰神社(春日神社境内社)			岐阜関市巾町
林幽閑	堰神社(貴船神社境内社)			岐阜関市貴船町
林幽閑	井神社			岐阜関市下有知
平田正輔(靱負)	治水神社	昭和13		岐阜海津郡海津町油島
平田正輔(靱負)	平田神社(今尾神社境内社)			岐阜海津郡海津町今尾

備 考	典 拠
	本庁データ
源義賢の子。父が源義平に討たれたため乳母夫の中原兼遠のもと木曾で育つ	本庁データ
尾張藩浪人で寛文期に私財を投じ弟の林幽閑らとともに曾代用水をつくる	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	岐阜県神社要覧 p12
	飛騨の神社 p542
	本庁データ
当地域の旧領主か。緋綱は花房（はなふさ）とも	本庁データ
薩摩藩士。宝暦治水事に際し責任をとり宝暦4年自刃という	本庁データ
尾張藩北方代官兼川並奉行。文化2年畑繁堤の建設を許可。堤普請を訴え獄死した松枝輪中農民4人とともに祭祀	本庁データ、柳津町役場
将門の首が都の獄門を脱し、関東に下ろうとするところを、射落とされここに祀られ、首宮と称される。首より上の諸病が祈願により治癒という。参詣者多く回復の後は穴のあいた石を奉養。旧村社	神社名鑑 p365、全国上 p543
室町時代初代の美濃守護職となった頼貞の10男で、兄頼遠が家督を継いで長森城（岐阜市）に移った後、鶴ヶ城主になった。正中の変で戦死	本庁データ
	岐阜県神社要覧 p12
	本庁データ
加納城跡	東照宮 p163
伊奈波神社摂社丸山神社相殿か	東照宮 p221
高山3代藩主金森重頼が城内にまつり、寛永5年鴻巣山上に創建。文化15年当国郡代芝正盛再興。江戸期は松泰寺が別当	飛騨の神社 p471、東照宮 p61
飛騨東照宮のことか	東照宮 p221
	岐阜県神社要覧 p3
	岐阜県神社要覧 p236
戸田一西の子。寛永12年大垣城主。大正5年一西に合祀。	岐阜県神社要覧 p17
一西は大垣藩主戸田氏の中興の祖。徳川家康等に仕え戦功。嘉永5年一西の250年忌に際し城内に祭祀、常業大神と称す。大正5年氏鉄合祀	岐阜県神社要覧 p17
薩摩藩士。宝暦治水事に際し責任をとり宝暦4年自刃という	本庁データ
薩摩藩士。宝暦治水事に際し責任をとり宝暦4年自刃という。当社はこの宝暦治水事業で犠牲になった薩摩藩士のうち、町内の寺に葬られている8人を祭祀	本庁データ
当地の萩之島城・大久手城の城主	本庁データ
仁田四郎由定は新田義貞	本庁データ
根尾谷を中心とした当地域の領主で織田信長とも関係した	本庁データ
薩摩藩士。宝暦治水事に際し責任をとり宝暦4年自刃という。当社はこの宝暦治水事業で犠牲になった薩摩藩士のうち、町内の寺に葬られている8人を祭祀	本庁データ
薩摩藩士。宝暦治水事に際し責任をとり宝暦4年自刃という	本庁データ
尾張藩浪人の兄喜田吉右衛門らとともに寛文期に私財を投じ曾代用水をつくる	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
薩摩藩家老で、宝暦3年の同藩による木曾・揖斐・長良の治水手伝い普請の責任者。難工事で犠牲者が正輔他80余名でた（正輔は自害とも）	神社名鑑 p379、全国上 p530
	本庁データ

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
藤原信能	岩村神社		村人	岐阜恵那郡岩村町若宮
升屋伊兵衛	薩摩堰治水神社	昭和55	町老人クラブ	岐阜安八郡輪之内町大藪
*宮島平左衛門	黄金神社	寛永18	金森氏	岐阜高山市堀端町
宮島平左衛門	白山神社			岐阜大野郡清見村池本
*茂住宗貞	黄金神社	寛永18	金森氏	岐阜高山市堀端町
初木稲右衛門	薩摩堰治水神社	昭和55	町老人クラブ	岐阜安八郡輪之内町大藪
安江基政（中務尉）	光庵神社（大山白山神社境内社）	明治15		岐阜加茂郡白川町永戸野
吉村改元 （静岡）	吉村神社（白山神社境内社）			岐阜吉城郡上宝村蔵柱
井伊道政	井伊社（井伊谷宮境内社）	明治期カ		静岡引佐郡引佐町井伊谷
井伊高顕	井伊社（井伊谷宮境内社）	明治期カ		静岡引佐郡引佐町井伊谷
伊奈忠順（半左衛門源忠順）	伊奈神社		領民	静岡駿東郡小山町須走
伊奈忠順（半左衛門源忠順）	伊奈神社（水神社境内社）			静岡駿東郡小山町吉久保
*井堀玄蕃	小嶽天神社	鎌倉期カ		静岡榛原郡中川根町下泉
*織田信長	久能山東照宮			静岡静岡市根古屋
加藤清正	五柱神社（八幡神社境内社）			静岡浜松市東若林町
楠木正成	楠（くすのき）社			静岡清水市
楠木正成	脇宮楠神社（天神社境内社）			静岡掛川市孕石
近藤用随（縫殿助）	蘭草神社（細江神社境内社）			静岡引佐郡細江町気賀
曾我祐成（十郎）	曾我八幡宮			静岡富士市厚原
*曾我祐成（十郎）	八幡宮			静岡富士宮市猪之頭
曾我祐成（十郎）	曾我八幡宮			静岡富士宮市上井手
*曾我祐成（十郎）	曾我八幡宮			静岡富士宮市北山
曾我時致（五郎）	曾我八幡宮			静岡富士市厚原
*曾我時致（五郎）	八幡宮			静岡富士宮市猪之頭
曾我時致（五郎）	曾我八幡宮			静岡富士宮市上井手
*曾我時致（五郎）	曾我八幡宮			静岡富士宮市北山
*平兼隆	皇大神社			静岡田方郡韭山町山木
平重衡	中将宮（鷲頭神社境内社）			静岡沼津市大平
*平将門	丸子神社			静岡沼津市浅間町
土岐山城守	徳山神社			静岡榛原郡中川根町徳山

備 考	典 拠
承久の変で宮方として捕らえられ、当地の遠山（加藤）景朝に預けられ処刑。村人が祭祀という	本庁データ
薩摩藩士。宝暦治水工事に際し責任をとり宝暦4年自刃という。当社はこの宝暦治水事業で犠牲になった薩摩藩士のうち、町内の寺に葬られている8人を祭祀	本庁データ
もと加賀藩士。寛永6年金森氏に仕え、金山奉行に登用。同15年、同僚の讒訴により死罪。のち城中に怪異があり、鉾山も衰退したため本社に合祀	飛騨の神社 p419
	本庁データ
近世初期、初代高山藩主金森長近に金山奉行として仕えた鉾山開発。長近の死去した慶長13年頃飛騨を立ち退き、敦賀に行き打它宗貞また糸屋彦次郎と称した商人となる	飛騨の神社 p419
薩摩藩士。宝暦治水工事に際し責任をとり宝暦4年自刃という。当社はこの宝暦治水事業で犠牲になった薩摩藩士のうち、町内の寺に葬られている8人を祭祀	本庁データ
本社は、文明12年野原城主安江基政が神殿を再興して以来、安江氏が維持	本庁データ
祭神は江馬氏家臣	飛騨の神社 p1078
藤原冬嗣六世の孫遠江国司共資の子共保が当地井伊谷に土着し井伊氏を称した。南北朝時代、南朝方に属した井伊道政は、宗良親王を当地に招きいれ当地は南朝方の一拠点となる。本社は明治初年建立	本庁データ
井伊道政子	本庁データ
富士山の宝永4年噴火に際し、復興に尽力したが、米を難民に分配したとして自刃した関東郡代	本庁データ
	本庁データ
平安末期頃、玄蕃頭井堀某が都から菅原道真像を背負って家来と共に当地に潜隠、自ら祠を建てたという口碑あり	和田庫二家文書「小竹天満宮歴史」、本庁データ
	静岡県神社要覧 p6
	本庁データ
草薙神社（延喜式名帳に記された古社。天正17年徳川家康社殿造営）の末社	神社誌料上 p1765
	静岡県小笠支部神社誌 p186
江戸期の当地の領主気賀近藤家6代当主。用随は、宝永の大地震の荒田に、七島藺を植え、領民を救ったという。	本庁データ
いわゆる曾我兄弟（祐成が兄）が父祐重の敵を討った事件は曾我物語という軍記物として後世流布	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
いわゆる曾我兄弟	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
山本判官と呼ばれ、治承4年平家打倒に挙兵した源頼朝方に襲撃される	全国上 p569
平清盛5男	本庁データ
	本庁データ
中世の当地域領主の土岐氏一族か	本庁データ

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
徳川家康	東照社（久能山東照宮）	元和2	遺言	静岡静岡市根古屋
徳川家康	德音院東照宮（德音院境内社）	慶安1		静岡静岡市根古屋
徳川家康	松平家東照宮	明治5		静岡静岡市二番町（のち宮ヶ崎町へ移遷）
*徳川家康（東照神）	神部神社			静岡静岡市宮ヶ崎
徳川家康	東雲神社	元和8	徳川氏	静岡静岡市丸山町
徳川家康	宝台院東照宮	天保頃		静岡静岡市常葉町
徳川家康	臨濟寺東照宮			静岡静岡市大岩町
徳川家康	蓮永寺東照宮	元和4		静岡静岡市杵谷
徳川家康	幕ヶ谷神社	寛永8		静岡静岡市瀬名幕ヶ谷
徳川家康	東照宮（八幡宮境内社）	正徳4		静岡浜松市八幡町
徳川家康	東照宮（元城神社・三方原神社）	明治初	堀口勘蔵等	静岡浜松市三方原町
徳川家康	葵東照宮			静岡浜松市葵
*徳川家康	松尾（まつのお）神社			静岡浜松市元魚町
*徳川家康	東照宮（五社神社・諏訪神社）	寛永11	徳川家光	静岡浜松市利町
徳川家康	東照宮	明治9	井上延陵、田村弘蔵	静岡浜松市元城町
*徳川家康	八百神社	宝暦11		静岡浜松市寺島町
*徳川家康（東照宮）	亀山神社			静岡浜松市鹿谷町
徳川家康	東照宮（亀山神社境内社）			静岡浜松市竜光町
*徳川家康	伊雑宮神社（津毛利神社境内社）			静岡浜松市参野町
*徳川家康	八幡宮			静岡浜松市志都呂
徳川家康	成子東照宮			静岡浜松市三組町
徳川家康	池野家東照宮		池野氏	静岡浜松市伊佐地
徳川家康	和地山東照宮	昭和20頃		静岡浜松市和地山
徳川家康	宗円堂東照宮			静岡浜松市名残町
*徳川家康（東照大権現）	稲荷神社（城岡神社）	明治7	旧幕臣	静岡沼津市大手町
徳川家康（源家康）	東照宮	宝暦5		静岡富士宮市麓
*徳川家康	浅間神社	寛永4		静岡富士宮市人穴
*徳川家康	浅間神社	江戸初期		静岡富士宮市根原
*徳川家康	村山浅間神社	元禄10		静岡富士宮市村山
*徳川家康（東照宮）	東照宮（吾妻神社）	元和2		静岡御殿場市御殿場
徳川家康	牧之原東照宮	明治10	旧幕臣	静岡島田市初倉坂本
徳川家康	小島家東照宮		小島氏	静岡島田市初倉坂本
徳川家康	島田東照宮	昭和44		静岡島田市船木
*徳川家康	智満寺東照宮			静岡島田市
徳川家康	八幡宮			静岡島田市伊久美

備 考	典 拠
正保2年以降東照宮	静岡県神社要覧 p6
德音院は久能山東照宮別当	静岡県神社要覧 p6
義国寺東照宮を移遷。さらに明治30年静岡浅間神社境内社八千戈神社に合祀	東照宮 p222
松平東照宮と関係か	本庁データ
もと駿府城内にあった東照宮を現在地である府中浅間神社（現・静岡浅間神社）の別当、惣持院境内に移したと伝える。惣持院は明治元年の神仏分離令によって廃寺。東照宮は、明治8年村社、同33年に村内の八雲神社を合祀して現称	本庁データ
廃絶	東照宮 p222
位牌をまつるか	東照宮 p222
	東照宮 p222
	東照宮 p222
八幡宮は延喜式内社。徳川将軍家祈願所	静岡県神社要覧 p215
創祀者は旧幕臣。はじめ浜松城鎮守の五社神社跡地。明治34年家光を合祀し元城神社と改称。大正12年現在地へ移遷し現称	東照宮 p163
	本庁データ
もと浜松宿の総鎮守として白髭神を祀る。天正年間、家康が浜松城内の松尾神社を現在地に移す。その後城主より黒印領・朱印領をうけ、祈願所として代々崇敬	神社名鑑 p401、全国上 p589
五社神社は浜松城中に創建。永禄11年徳川家康が浜松城に入り城中に創設し産土神として崇敬。歴代徳川氏も同様。寛永11年家光上洛時に東照宮勧請。大正8年現在地移遷	神社誌料上 p1759
井上・田村とも旧延岡藩士。二人の申請により浜松城跡に明治19年竣工	東照宮 p162
	東照宮 p222
	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ
	東照宮 p222
浜松町成子町東照宮を神明宮に合祀	東照宮 p222
元亀3年、三方ヶ原の戦いに敗れた家康が身を隠し、その礼に朱印地拝領という。邸内社	東照宮 p149
公園内小祠	東照宮 p222
	東照宮 p223
沼津藩主水野忠成の室が城内に祀った稲荷神社に、旧幕臣が合祀。明治34年社名現称	東照宮 p223
	東照宮 p223
	東照宮 p223
	東照宮 p223
	東照宮 p223
吾妻神社に合祀	東照宮 p223
開墾にあたって勧請。昭和40年廃絶、大草神社に合祀	東照宮 p161
邸内社	東照宮 p161
ゴルフ場内	東照宮 p161
旧山王権現相殿	東照宮 p223
境内末社	東照宮 p223

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
徳川家康	東照宮（東光寺内）			静岡島田市東光寺
徳川家康	東照宮（府八幡宮境内社）			静岡磐田市中泉
徳川家康	東照宮（大井八幡宮境内社）			静岡焼津市一色
徳川家康	田尻東照宮（和田神社境内社）			静岡焼津市田尻
徳川家康（東照大権現）	五社神社（事任八幡宮境内社）	江戸初期		静岡掛川市八坂
徳川家康	龍華院東照宮			静岡掛川市
徳川家康	田中神社	明治8	菅沼定一、 加藤重威	静岡藤枝市田中
徳川家康	可睡斎東照宮			静岡袋井市久能
徳川家康	八幡神社			静岡浜北市竜南
徳川家康	於呂東照宮			静岡浜北市於呂
徳川家康	新野東照宮			静岡浜北市新野
* 徳川家康	白須賀東照宮（火鎮神社）	正保年中		静岡湖西市白須賀元町
徳川家康	権現山東照宮	* 明治8		静岡湖西市白須賀
徳川家康	吉見東照宮			静岡湖西市吉見
徳川家康	下田東照宮			静岡下田市・丁目
徳川家康（東照大権現）	八幡神社			静岡天竜市芦窪
徳川家康	西伊豆東照宮（哆胡神社境内社）	* 寛政11	伊奈氏力	静岡賀茂郡西伊豆町田子
徳川家康	東照宮逢洋所（東照宮）	明治3	旧幕臣	静岡駿東郡長泉町下長窪
徳川家康	東照宮（大井八幡宮境内社）	江戸初期	旧幕臣	静岡志太郡大井町藤守
徳川家康	池谷家東照宮		池谷氏	静岡志太郡大井町宗高
徳川家康	牧之原神社	明治2	中条景昭	静岡榛原郡榛原町静谷
徳川家康	本川根久能社	安永10		静岡榛原郡本川根町千頭
徳川家康	東照宮（軍神社境内社）	明治11	旧幕臣	静岡小笠郡大須賀町軍全
徳川家康	東照宮（閑入院内）			静岡小笠郡浜岡町池田新
* 徳川家康	若宮八幡神社			静岡周智郡森町薄場
徳川家康	森東照宮			静岡周智郡森町森
徳川家康	大鳥居東照宮（八幡宮境内社）	江戸初期		静岡周智郡森町大鳥居
徳川家康	東照宮（山住神社境内社）	江戸初期		静岡磐田郡水窪町山住
徳川家康	東照宮	明治17	士族	静岡磐田郡竜洋町掛塚
徳川家康	東照宮（諏訪神社境内社）	延享2		静岡浜名郡新居町中野
徳川家康	雄踏東照宮（白山神社境内社）			静岡浜名郡雄踏町布見
徳川家康	浅馬東照宮（八幡宮境内社）			静岡浜名郡浅馬村八幡
徳川家康	中之郷東照宮（浮見八幡宮境内社）			静岡引佐郡三ヶ日町三ヶ日
徳川家康	東照宮（方広寺境内社）			静岡引佐郡引佐町奥山
徳川家康	四所神社（細江神社境内社）			静岡引佐郡細江町久賀
* 徳川秀忠	東照宮（元城神社。三方原神社）	明治初	堀口勘藏等	静岡浜松市三方原町
徳川家光	元城神社（三方原神社）	明治34		静岡浜松市三方原町
* 豊臣秀吉	久能山東照宮			静岡静岡市根古屋
虎御前	玉渡神社			静岡富士市厚原
虎御前	曾我八幡宮			静岡富士宮市上井手
* 虎御前	曾我八幡宮			静岡富士宮市北山

備 考	典 拠
のちに日吉神社境内社に合祀	東照宮 p223
府八幡宮は聖武天皇の時、国府に勧請。徳川氏の保護を受ける	静岡県神社要覧 p40
	本庁データ
	東照宮 p223
	本庁データ
廃絶	東照宮 p223
旧田中城内稲荷神社に東照宮画像合祀。創祀者は当地に移住した旧幕臣	東照宮 p160
	東照宮 p223
	本庁データ
大正6年、於呂神社境内末社を本社に合祀	東照宮 p223
明治42年、八幡神社に移遷合祀	東照宮 p223
火鎮神社相殿	東照宮 p223
明治8年、神明宮境内末社に合祀	東照宮 p224
熱田神社境内末社に合祀	東照宮 p224
八幡神社相殿か	東照宮 p224
	本庁データ
寛政11年再建	東照宮 p224
はじめ遙拝所として設立。明治19年、改築して東照宮と称する	東照宮 p160
	東照宮 p224
池谷家は慶長6年遠州代官就任という。邸内社	東照宮 p150
旧幕臣の中条氏が当地に移住し、当家守護の神体を祭祀、のち村社。明治40年、八幡宮に移遷合祀	東照宮 p162
明治9年、敬満大井神社境内末社に合祀	東照宮 p224
	東照宮 p224
旧境内社を同寺に移遷	東照宮 p224
	本庁データ
金森神社境内末社に合祀	東照宮 p224
	東照宮 p224
	静岡県神社要覧 p35
貴船神社（室町時代以前の創立）の末社	神社誌料上 p1904
諏訪神社は延喜式所載。江戸幕府朱印地あり	神社誌料上 p1918
	東照宮 p224
	東照宮 p224
のちに浜名惣社神明宮境内社に合祀。細江町の四所神社と関係か	東照宮 p224
	東照宮 p224
浜名総社神明宮（古代、この地を領した県氏の社。豊臣・徳川は土地寄進）の末社	神社誌料上 p1950
はじめ五社神社跡地東照宮の相殿。明治34年家光も合祀、元城神社。大正12年、現在地へ移遷し現称	東照宮 p163
明治34年旧五社神社跡地の東照宮に家光が合祀され元城神社。大正12年現在地に移遷し現称	東照宮 p163
	静岡県神社要覧 p6
いわゆる曾我兄弟兄十郎祐成の恋仲の女性とされる	本庁データ
	本庁データ
	本庁データ

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
二条為冬	白旗神社			静岡駿東郡小山町竹之下
*二条為冬（藤原為冬）	熊野神社			静岡駿東郡小山町藤曲
*二条為冬（左近衛中将）	佐野原神社			静岡裾野市平松
新田義貞（源義貞）	熊野神社			静岡駿東郡小山町藤曲
日置弾正	弓矢八幡神社（御嶽神社境内社）			静岡周智郡森町天宮
本間氏清（八郎三郎）	祖霊社（高天神社境内社）			静岡小笠郡大東町峯向
丸尾義清（修理亮）	祖霊社（高天神社境内社）			静岡小笠郡大東町峯向
源為朝	御嶽神社			静岡三島市青木
源義光（新羅三郎）	新羅神社			静岡浜松市江之島町
源頼家	八幡神社			静岡田方郡修善寺町修善寺
*源頼朝	音無神社			静岡伊東市音無町
結城秀康	天神社			静岡浜名郡雄踏町字布見
（愛知）				
旭形亀太郎	昇龍大明神社（玉鉾神社境内社）	近代		愛知知武豊町向陽
足助重範（次郎重範）	足助神社	明治35	地域民	愛知東加茂郡足助町足助
加藤菊女	玉津浦神社（大濱熊野大神社）			愛知碧南市宮町
加藤清正	清正公社（豊国神社境内社）	近代		愛知名古屋市中村区中村町
加藤清正	熊本社（神明社境内社）	明治12	渡辺徳藏	愛知西春日井郡西枇杷島町小田井
鎌倉景政（権五郎景政）	権五郎殿神社（那古野神社）			愛知名古屋市中区丸の内
楠木正成	楠社（泥江縣神社境内社）			愛知名古屋市中区錦
楠木正成	湊川社（神明社境内社）			愛知名古屋市中区徳川
楠木正成	楠公碑（加具土神社内）			愛知宝飯郡小坂井町伊奈
楠木正儀（楠正儀）	楠公神社（三法神社境内社）		野田家	愛知葉栗郡木曽川町三ツ法寺
児島高德	児島社（巴江神社）	文化12	三宅康和	愛知渥美郡田原町田原
*児島高德	広瀬神社	安永9		愛知豊田市東広瀬町
佐久間家勝	佐久間社（御器所八幡宮境内社）		佐久間家	愛知名古屋市中区昭和区御器所
*柴田勝家	勝淵神社	寛政期	柴田出雲守	愛知岡崎市福岡町
平景清	景清社	寿永1		愛知名古屋市中区熱田区神戸町
為守重長（右馬允）	重長神社（素戔鳴神社境内社）			愛知豊橋市石巻本町
徳川家康	東照宮	元和5	徳川義直	愛知名古屋市中区丸の内

備 考	典 拠
尊良親王の臣下で南朝に仕え、建武2年、尊良親王を奉じて足利尊氏追討の軍に従い、箱根竹の下（当地）で戦死	本庁データ
藤原為冬は二条為冬のこと	本庁データ
	本庁データ
足利尊氏離反後、箱根竹の下（当地小山町）の戦いで敗れる	本庁データ
弓道日置流の祖	本庁データ
徳川家康に属する小笠原与八郎長忠（氏助）のもとで第九尾義清などとともに高天神城守護。武田勝頼により天正2年落城するがその合戦で戦死	本庁データ
兄本間氏清などとともに高天神城守護。武田勝頼により天正2年落城、その合戦で戦死	本庁データ
鎮西八郎とも。保元の乱で崇徳上皇方に加わるが敗北、伊豆大島配流	本庁データ
平安後期武将。源頼義の子。後三年合戦で兄義家の救援に下向	本庁データ
鎌倉幕府2代将軍。のちに伊豆修善寺に幽閉、北条氏により殺害	本庁データ
	本庁データ
徳川家康2男、遠江に生まれる。天正18年結城晴朝の養子	本庁データ
禁門の変に殉じた力士出身の旭形亀之助の遺品を受け継いだ力士隊長。本社創建、本社には天皇家関係者参拝	愛知県神社名鑑 p155
足助城主で南朝方武将。のち東国へ去る	愛知県神社名鑑 p617
旗本代官である父親の代わりに流罪となった夫のために写経し手紙を書き流す。これが夫の島につき、夫は許される	本庁データ
	本庁データ
大正3年に本社（神明社）へ合祀	愛知県神社名鑑 p214
本社の那古野（なごの）神社ははじめ天王社。織田信長復興	神社誌料上 p1526
本社の泥江縣（ひじえがた）神社は宇佐八幡宮勧請	本庁データ
本社の神明社は吉見家訓により、赤塚町創建の際、元和2年氏神としたと記される	神社誌料上 p1556
	本庁データ
祭神は楠木正成の子で、その子孫という野田家が邸内に祀っていた。三ツ法寺村の分村を契機に一部地域の村民が氏神とした	愛知県神社名鑑 p140
田原藩主三宅氏遠祖。文化12年江戸麹町本邸に祭祀。明治2年、東京より二の丸社（三宅康貞）に合祀、現社名に改称	愛知県神社名鑑 p773
本社は安永9年勧請という。社地は南朝方武将児島の居城広瀬城跡	愛知県神社名鑑 p587
嘉吉1年当地の領主佐久間家勝が本社（八所大明神）を修造という（尾張志）	愛知県神社名鑑 p46
武州仙川郷の勝淵神社を勧請という。寛政頃領主柴田出雲守（勝家玄孫）が本殿再建。この時、勝家合祀か	愛知県神社名鑑 p554
景清は芝居・謡曲にでてくる平家の臣で、源頼朝を討つためねらっていたが、失敗し日向へ流されたという。熱田大宮司と血縁があり潜伏していた宅跡と伝える。眼病に霊験ありという	全国上 p611
本社棟札に為守が永享9年に本社を造営したという。為守は当時馬の越の領主とも考えられる	愛知県神社名鑑 p659
城郭内三の丸に創建。名護屋鎮台創設により現在地に移す	愛知県神社名鑑 p37

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
徳川家康	東照宮遙拝所（鳴海神社）			愛知名古屋市緑区鳴海町
徳川家康	正及社（正及神社）	享保 1	徳川繼友	愛知名古屋市瑞穂区田辺通
徳川家康	東照宮（龍城神社）	寛永期	本多忠政	愛知岡崎市康生町
* 徳川家康	菅生天王（菅生神社）			愛知岡崎市康生町
徳川家康	大樹寺東照宮	正保 1	徳川家光	愛知岡崎市鶴田町
徳川家康	松応寺東照宮	* 万治 3		愛知岡崎市松本町
徳川家康	法蔵寺東照宮	* 安政 2		愛知岡崎市本宿町
徳川家康	大聖寺東照宮			愛知岡崎市中之郷町
徳川家康	伊賀八幡宮	寛永13	徳川家光	愛知岡崎市伊賀町
* 徳川家康	八幡宮			愛知岡崎市六供町
* 徳川家康	山中八幡宮			愛知岡崎市舞木町
徳川家康	瀧山東照宮	正保 2	徳川家光	愛知岡崎市滝町
徳川家康	東照宮遙拝所（針綱神社境内社）			愛知犬山市大山
徳川家康（源）	吉野社（神明社，現在那迦島神社）	* 大正 6		愛知尾西市小信中島
* 徳川家康	東照宮（柄江神社）			愛知尾西市明地字柄
徳川家康（徳川大権現）	大將軍社（八幡神社）			愛知豊田市配津町
* 徳川家康（東照公）	寿恵野神社	明治16	徳川茂昭	愛知豊田市竹元町
徳川家康	東照宮（八幡神社松平東照宮）	元和 4	松平尚栄	愛知豊田市松平町
* 徳川家康	白山媛神社			愛知安城市上城町
* 徳川家康	田戸社			愛知高浜市田戸町
* 徳川家康	玉津浦神社（大演熊野大神社）			愛知碧南市宮町
* 徳川家康	八幡社			愛知西尾市寺津町
徳川家康	鳳来山東照宮	慶安 4	徳川家光・徳川家綱	愛知南設楽郡鳳来町門谷
徳川家康	大恩寺東照宮			愛知宝飯郡御津町
徳川家康	東照社（神明社境内社）			愛知渥美郡田原町田原
徳川家康	東照宮（八幡社境内社）			愛知渥美郡渥美町八王子
徳川綱誠	稲荷神社		尾張徳川家	愛知名古屋市中区正木
徳川綱誠	牛頭天王ノ社（川島神社）	宝永 5		愛知江南市宮田町
徳川信康（岡崎三郎信康）	岡崎三郎信康公首塚（若宮八幡宮）			愛知岡崎市朝日町
徳川光友	稲荷神社			愛知名古屋市中区正木
徳川光友	牛頭天王ノ社（川島神社）	宝永 5		愛知江南市宮田町
徳川慶勝	東照宮（尾陽神社）	明治31		愛知名古屋市昭和区御器所
徳川義直	東照宮（尾陽神社）	明治 8		愛知名古屋市昭和区御器所
徳川義直	稲荷神社			愛知名古屋市中区正木

備 考	典 拠
本社の鳴海神社は延喜式内社	神社誌料上 p1563
創祠者は6代尾張藩主。代々の藩主は祭礼に奉幣あり	愛知県神社名鑑 p41
家康岡崎城（龍ヶ城）に生まれ、産湯井の場所に鎮祭。慶長15年本多忠勝が伊勢桑名で卒し、忠政姫路在城の時祭祀。明和7年忠肅岡崎に転じる。明治9年、映世明神と合祀し龍城神社と改称	愛知県神社名鑑 p424, 神社名鑑 p443, 全国上 p630
本社は播磨より祇園牛頭天王の勧請という。永禄9年家康が社殿再建	愛知県神社名鑑 p427
大樹寺は徳川家祖の松平家菩提寺	東照宮 p28
万治3年修築	東照宮 p225
安政2年再建	東照宮 p225
	東照宮 p225
本社は文明2年松平親忠が三河額田郡下井田村に勧請。寛永13年家光社殿を造営して東照宮合祀	神社名鑑 p443, 全国上 p603
本社は安城の城内鎮守として松平忠親が勧請。清康が岡崎に遷座	愛知県神社名鑑 p443
	愛知県神社名鑑 p558
幕府は朱印地を与え数度にわたり修理	愛知県神社名鑑 p561
本社の針綱神社は延喜式内社。濃尾開拓の尾張氏の祖神をまつる	神社誌料上 p1532
大正6年に神明社に合祀し現社名に改称	愛知県神社名鑑 p294
	東照宮 p225
明治41年、大將軍社に八幡社合祀	愛知県神社名鑑 p483
創祠者は旧紀州藩主。西河内内の開拓に祭祀。明治16年、天照皇大神・持統天皇とともに合祀	本庁データ
松平親氏も合祀	愛知県神社名鑑 p595
本社は養老2年加賀国白山よりの勧請という。家康社領50石寄進	愛知県神社名鑑 p435
本社の創建は応永6年という	愛知県神社名鑑 p449
本社には慶安元年幕府朱印地が寄進される	愛知県神社名鑑 p455, 本庁データ
本社の八幡社はこの地域の古社で本殿を家康再興	愛知県神社名鑑 p499, 本庁データ
広忠が鳳来寺峯業師に祈願して得たのが家康と伝えられていたので、家光はこの山に東照宮創設の工をおこし、家綱の時、慶安4年創祠	愛知県神社名鑑 p739
	東照宮 p225
本社の新明社は大坂の陣で加護を得た本多康紀が保護	神社誌料上 p1712, 愛知県神社名鑑 p775
	本庁データ
3代尾張藩主。1代・2代藩主とともに本社（稲荷神）へ合祀	愛知県神社名鑑 p33
3代尾張藩主。1代義直・2代光友とともに本社（牛頭天王ノ社）に合祀	愛知県神社名鑑 p248
徳川家康嫡男。天正7年信康が遠州二股城で自害。その後岡崎城中に異変があり、慰霊のため祭祀（清水氏由緒書）	愛知県神社名鑑 p430
2代尾張藩主。1代・3代藩主とともに本社（稲荷神）へ合祀	愛知県神社名鑑 p33
2代尾張藩主。1代義直・3代綱誠とともに本社（牛頭天王ノ社）に合祀	愛知県神社名鑑 p248
14代尾張藩主。明治8年東照宮（中区）に合祀されたが、同43年名古屋開府300年を記念し、別に社殿造営（尾陽神社）	愛知県神社名鑑 p45
初代尾張藩主。明治8年東照宮（中区）に合祀されたが、同43年名古屋開府300年を記念し、別に社殿造営（尾陽神社）	愛知県神社名鑑 p45
初代尾張藩主。2代・3代藩主と合祀	愛知県神社名鑑 p33

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
徳川義直	牛頭天主ノ社(川島神社)	宝永5		愛知江南市宮田町
戸田実興	老津神社			愛知豊橋市老津町
戸田光忠	老津神社			愛知豊橋市老津町
豊臣秀吉	豊国神社	明治16	国貞康平	愛知名古屋市中村区中村町
成瀬正成	相生社(犬山神社)	正徳6	成瀬正幸	愛知犬山市犬山
新田義重	新田白山宮(白山神社)	永禄9	徳川家康	愛知岡崎市康生町
萩原芳信	萩原大明神(萩原神社)	大永2	今泉助右衛門	愛知宝飯郡御津町赤根
本多忠勝	映世大明神(龍城神社)	明和7	本多忠肅	愛知岡崎市康生町
前田利家	富士天満社			愛知名古屋市中川区荒子
松平親氏	八幡神社松平東照宮			愛知豊田市松平町
松平信綱	豊城神社	明治45		愛知豊橋市東田町
松原広長	八王子神社			愛知瀬戸市後田城屋敷町
源為朝(鎮西八郎源為朝)	鶴之宮(津島社)			愛知海部郡八開村二子
源頼政	豊城神社	江戸期	吉田藩主	愛知豊橋市東田町
三宅康貞	二の丸社(巴江(ともえ)神社)	文化6	三宅康和	愛知渥美郡田原町田原
渡辺畢山	畢山神社	昭和41	有志	愛知渥美郡田原町田原
渡辺守綱	守綱神社	明治13	旧藩士	愛知豊田市寺部町
(三 重)				
愛洲惟孝	小宮社(若宮八幡神社境内社)		上泉信綱	三重一志郡美杉村川上
石川義純	真澄(ますみ)神社(亀山神社)	延享1	石川家	三重亀山市西丸町
石川家成	真澄(ますみ)神社(亀山神社)	延享1	石川家	三重亀山市西丸町
*板倉家祖先	椿大神社			三重鈴鹿市山本町
*大内但馬守	大内神社(八柱神社)	*明治40		三重度会郡大内山村1138
*大内但馬守(神)	頭之宮四方神社			三重度会郡大内山村3314-2
*加藤清正	長島神社			三重北牟婁郡紀伊長島町長島
*加藤清正	平泉神社			三重津市分部
加納直盛	加納神社(三柱神社、現在美波多神社)	承応3		三重名張市新田
*蒲生氏郷	小宮社(若宮八幡神社境内社)			三重一志郡美杉村川上
蒲生氏郷	大山祇神社(御厨神社境内社)			三重松阪市本町
北畠顕能	北畠八幡宮(北畠神社)	寛永20	鈴木家次	三重一志郡美杉村上多気
*北畠親房	北畠八幡宮(北畠神社)	寛永20	鈴木家次	三重一志郡美杉村上多気
*北畠顕家	北畠八幡宮(北畠神社)	寛永20	鈴木家次	三重一志郡美杉村上多気
北畠具行	留魂社(北畠神社境内社)			三重一志郡美杉村上多気
北畠満雅	留魂社(北畠神社境内社)			三重一志郡美杉村上多気
北畠顕雅	大河内神社	天正4	里人	三重松阪市桂瀬町

備 考	典 拠
初代尾張藩主。2代光友・3代綱誠とともに本社(牛頭天王ノ社)に合祀	愛知県神社名鑑 p248
三河国の吉田(豊橋)から渥美半島の田原付近を占めた土豪。子孫はのち徳川氏家臣	本庁データ
三河国吉田(豊橋)付近の土豪。松平氏により奪われるが子孫はのちに徳川氏家臣	本庁データ
創祠者は県令。秀吉誕生地を記念。明治16年創立許可、18年社殿完成	全国上 p635
4代正幸が初代正成を相生山に祭祀。明治16年現在地に移され、現名に改称	愛知県神社名鑑 p243
古来新田白山宮と称され、明治維新にいたるまで岡崎竜ヶ城鎮守として城内に鎮座。当社は家康が祖先の地主州新田郡新田村より白山宮ならびに遠祖新田義重の霊を勧請したもの	全国上 p639
文明年中、当地の領主であった方信は従者に殺害。嫡子四郎は今泉家に養われその子助右衛門が建立	愛知県神社名鑑 p768
慶長15年本多忠勝が伊勢桑名で卒。明和7年忠肅(後本多の岡崎藩初代藩主)、石見浜田より岡崎に転じる際に祀る。明治9年、東照宮と合祀し龍城神社と改称	愛知県神社名鑑 p424、 神社名鑑 p443、全国 上 p630
利家は当地の領主で弘治1年、祖神菅原道真を祀る社殿修造。天正4年越前府中への国替に際し本社は残る	愛知県神社名鑑 p64
松平親氏が松平郷の城山に若宮八幡宮勧請。松平尚榮が同社を慶長18年城山より現在地へ遷座し、元和4年東照宮建立。親氏創始時期などは不詳	愛知県神社名鑑 p595
旧吉田藩主松平氏(大河内)の祖。前期の幕府老中	愛知県神社名鑑 p670
当地尾張今村城主の松原広長が文明5年本社(八王子神社)創建	愛知県神社名鑑 p197
祭神は鬼頭家の祖先とされる	愛知県神社名鑑 p378
平安後期武將。清和源氏。一時、平清盛方	愛知県神社名鑑 p670
田原藩中興の祖。康和が田原藩主となって建立。明治2年、東京の児島社と合祀、現社名に改称	愛知県神社名鑑 p773
旧田原藩家老。蛭子の獄で蟄居、のち自刃。昭和15年の百年忌を契機に曲折を経て創設	愛知県神社名鑑 p782
徳川家康の家臣で、その嫡流は尾張徳川家重臣	愛知県神社名鑑 p578
影流を創始。上泉信綱は惟孝の子惟脩の門人という	本庁データ
亀山藩主石川家の祖として源義家などとともに祭祀	三重県神社誌 p587
亀山藩主石川家の祖として源義家などとともに祭祀	三重県神社誌 p587
寛文期以降、亀山藩主として人封した板倉重常から重冬代にかけ本社修繕・祭祀再興。板倉氏は再入封も果たしたが延享1年以降は石川氏定着	三重県神社誌 p541
明治40年本社合祀	三重県神社誌 p266
	三重県神社誌 p267
	三重県神社誌 p316
	三重県神社誌 p360
本社(三柱神社)は承応3年新田開発と同時に祀られ、開発に功があった奉行加納を境内社に祀ったという	三重県神社誌 p557
近江日野出身。天正12年、伊勢松が島12万石。後に奥州へ転封	本庁データ
天正12年、氏郷は松阪城築城、本社を城郭大手先に移す	本庁データ
顯能は親房の子。公卿・武將。北畠氏一族の坂井具政の後裔鈴木家次の創立という。元禄5年、北畠旧臣の子孫や村人の創立とも。明治14年、現社名	三重県神社誌 p199
南朝方公卿	三重県神社誌 p199
親房長男。公卿・武將	三重県神社誌 p199
鎌倉時代後期の公卿で後醍醐天皇に拔擢。幕府に斬殺	三重県神社誌 p199
顯能の孫。武將、伊勢国司	三重県神社誌 p199
満雅弟。応永22年北畠氏の乱に際し大河内城を守り以後居城。天正4年、北畠氏滅亡の際、里人が大河内五代として本社へ合祀	三重県神社誌 p467

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
北畠親郷	大河内神社	天正4	里人	三重松阪市桂瀬町
北畠親忠	大河内神社	天正4	里人	三重松阪市桂瀬町
北畠親泰	大河内神社	天正4	里人	三重松阪市桂瀬町
北畠具教	大河内神社	天正4	里人	三重松阪市桂瀬町
北畠具教	留魂社（北畠神社境内社）			三重一志郡美杉村上多気
北畠具教	国司堂（北畠神社）	慶長1		三重多気郡大台町上三瀬
北畠家祖霊	小宮社（若宮八幡神社境内社）			三重一志郡美杉村川上
北畠一族・郎党・家臣・農民	留魂社（北畠神社境内社）			三重一志郡美杉村上多気
北畠国司歴代・一族	北畠神社	明治28		三重多気郡大台町上三瀬
九鬼澄隆（弥五郎）	九鬼神社（九鬼岩倉神社）	*明治42		三重鳥羽市岩倉町
*楠木正成（楠正成）	雲出神社			三重津市雲出本郷町
*楠木正成（楠正成）	崇忠神社（宇治神社）	*明治41		三重伊勢市宇治今在家町
小泉太郎左衛門	猪田神社			三重上野市下郡
佐々木高綱	三神社（丸山神社）	*江戸期		三重員弁郡北勢町川原
須藤経俊	多賀津島神社（菅原大邊神社境内社）			三重上野市大野木
曾我神	波瀬神社			三重飯南郡飯高町波瀬
平景清	豊富稲荷神社			三重四日市市采女町
田原忠秀（依）	御霊社（鶴森神社）	慶長・万治期	田原家旧臣	三重四日市市鶴の森
田原藤綱（依）	御霊社（鶴森神社）	慶長・万治期	田原家旧臣	三重四日市市鶴の森
田原元綱（依）	御霊社（鶴森神社）	慶長・万治期	田原家旧臣	三重四日市市鶴の森
田原重綱（依）	御霊社（鶴森神社）	江戸期	田原家旧臣	三重四日市市鶴の森
塚原卜伝	小宮社（若宮八幡神社境内社）			三重一志郡美杉村川上
藤堂高虎	高山神社	明治11	藤堂家	三重津市丸之内
*藤堂高虎	八幡神社（津八幡宮）	寛永9	藤堂高次	三重津市藤方
藤堂高通	高通神社（久居神社、現在野邊野神社）	明治12	旧藩士	三重久居市二ノ町
藤堂高通	久居神社（野邊野神社）	明治期		三重久居市鷹跡町
藤堂高吉	寿栄神社	寛文10	藤堂家	三重名張市丸之内
藤堂家祖霊	小宮社（若宮八幡神社境内社）			三重一志郡美杉村川上
徳川家康	津東照宮（寒松院境内）		藤堂家	三重津市幸町
徳川家康	下弁財東照宮			三重津市下弁財町
徳川家康	八柱神社（城田神社）	*明治42		三重伊勢市上地町
*徳川家康	伊賀東照宮	昭和52	坂野氏	三重名賀郡青山町老川
徳川頼宣	豊御崎神社（伊奈富神社境内社）			三重鈴鹿市稲生西
徳川頼宣	花園神社	*明治41		三重松阪市大黒田町
豊臣秀吉	椿岸神社			三重四日市市智積町

備 考	典 拠
大河内五代	三重県神社誌 p467
大河内五代	三重県神社誌 p467
大河内五代。星合	三重県神社誌 p467
織田信長軍に大河内城を落とされた。大河内五代	三重県神社誌 p467
戦国期武将、伊勢国司。織田信長に攻略され自刃	三重県神社誌 p199
明治7年八幡神社境内へ移し国司神社。同28年現社名	三重県神社誌 p233
	本庁データ
	本庁データ
国司神社を現社名に改称する際に、顕能より信雄まで祭祀	三重県神社誌 p233
織田水軍の中核をなした九鬼嘉隆の甥。澄隆は嘉隆のために横死し祟ったため霊を祀ったという（志陽略誌）	三重県神社誌 p577
	三重県神社誌 p363
崇忠神社には菅原道真・和気清麿などと合祀。明治41年に本社へ合祀	三重県神社誌 p427
藤堂家家臣	三重県神社誌 p492
員弁雑誌に佐々木大明神として記載	三重県神社誌 p88
源頼朝臣で当国の守護	三重県神社誌 p477
曾我兄弟か	三重県神社誌 p213
平安末期の平家方武将。目の神	三重県神社誌 p388
初代浜田城主。浜田城は文明2年築城。後に領主の忌諱にふれ、御霊社を創祠してこちらに移し、本社には天照大御神などを祀る	三重県神社誌 p337
2代浜田城主	三重県神社誌 p337
3代浜田城主。天正3年、織田信長家臣滝川一益により落城	三重県神社誌 p337
田原一族	三重県神社誌 p337
戦国期の剣術家。ト伝流を創始し伊勢国司北畠具教に極意伝授という	本庁データ
旧津藩主藤堂家において高虎を津城内に祭祀、許可を得て、明治11年神祠を津市下部田に建立。津城趾への仮遷宮（同34年）	三重県神社誌 p353
建武年中、山城国男山八幡宮より勧請。藤堂家二代高次の崇敬あつく、寛永9年、藤方村結城で社殿建立、高虎の霊合祀。神領300石を与える。寛永12年8月大祭挙行。永世祭祀のため本社宝前の備金を津市中各町へ貸し渡す。8月の祭礼には神輿が城内と市中各町を渡御。この時、各町役々の者に至るまで供奉。藩よりも誓固。各町より練物を出す。廃藩置県後に市の産土神	神社誌料上 p1411
津藩支藩でその初代藩主。旧藩士の願いで高通を祀る高通神社が本社の八幡宮境内に建立。明治13年久居神社、同41年現社名	三重県神社誌 p613
明治41年本社へ合祀	三重県神社誌 p615
若狭の丹羽長秀の子で藤堂高虎養子。名張藤堂家初代。寛文10年死後すぐに邸内に一祠建立。社名は法号に因む	三重県神社誌 p549
	本庁データ
寒松院は天台宗で藤堂氏菩提寺。廃絶。下弁財東照宮に合祀か	東照宮 p74
明治40年市好島姫神社に合祀	東照宮 p75
明治42年、城田神社に合祀	三重県神社誌 p440
坂野氏が日光東照宮より分霊勧請	東照宮 p186
初代紀州藩主	本庁データ
初代紀州藩主。源頼信と混同の可能性あり（本庁データ）	三重県神社誌 p456
豊国神	三重県神社誌 p398

祭神名	祭祀社	創祀時期	創祀者	所在地
*西島之友	小宮社（若宮八幡神社境内社）			三重一志郡美杉村川上
西島之友（八兵衛）	水分神社（高茶屋神社）			三重津市高茶屋小森町
野呂春房	五箇大明神（五箇谷神社）	天正2	北畠具教	三重多気郡勢和村朝柄
野呂春房	古殿神社			三重多気郡勢和村朝柄
土方雄氏	菰野神社（広幡神社）			三重三重郡菰野町菰野
土方雄永	菰野神社（広幡神社）	明治期		三重三重郡菰野町菰野
日野資朝	小宮社（若宮八幡神社境内社）			三重一志郡美杉村川上
藤原秀郷	鶴森神社	慶長・万治期	田原家旧臣	三重四日市市鶴の森
本多忠統	本多神社（神館飯野高市本多神社）			三重鈴鹿市神戸
松平定綱	鎮国神社（鎮国・守国神社）	天明4	松平定信	三重桑名市吉之丸
松平定綱	御霊大明神（平野神社）	承応明暦期	松平定良	三重員弁郡北勢町平野新田
松平定信	守国神社（鎮国・守国神社）	天保4	松平定永	三重桑名市吉之丸
源家宗	波瀬神社			三重飯南郡飯高町波瀬
源為朝（八郎為朝）	多賀津島神社（菅原大邊神社境内社）			三重上野市大野木
源範頼（蒲冠者範頼）	御曹子神社（大木神社境内社）			三重鈴鹿市石薬師町
*源満仲	宇都可神社（波多岐神社境内社）			三重上野市土橋
*源義家	宇都可神社（波多岐神社境内社）			三重上野市土橋
源義家以下数代	真濃（ますみ）神社（亀山神社）	延享1	石川家	三重亀山市西丸町
源義時	真濃（ますみ）神社（亀山神社）	延享1	石川家	三重亀山市西丸町
*源頼信	宇都可神社（波多岐神社境内社）			三重上野市土橋
源頼信	花岡神社	*明治41		三重松阪市大黒田町
*源頼政	勝手神社			三重名張市黒田
*源頼光	宇都可神社（波多岐神社境内社）			三重上野市土橋
*源頼義	宇都可神社（波多岐神社境内社）			三重上野市土橋
*山中為綱	高岡神社			三重一志郡一志町高野
結城親光	結城明神（結城神社）			三重津市藤方
結城宗広	結城明神（結城神社）	中世		三重津市藤方

備 考	典 拠
17世紀前半の藤堂家家臣。土木普請などで伊勢・讃岐で尽力	本庁データ
2代津藩主藤堂高次の命により、高茶屋村など14ヶ村を対象に灌漑普請、飢饉より農民を救う	三重県神社誌 p357
篠山城主。誠忠を称え当地に祀ったという。当地の産土神となった	三重県神社誌 p231
五箇谷神社より分霊	三重県神社誌 p231
初代菰野藩主。寛永7年雄氏は八幡神を勧請して本社創建、土方家の総鎮守となった	三重県神社誌 p139
12代の最後の菰野藩主	三重県神社誌 p139
公卿。後醍醐天皇と討幕計画を立てるが発覚（正中の変）	本庁データ
田原忠秀などとともに祭祀。しかし後に領主の忌諱にふれ、別に御霊社を創祠、主祭神には改めて天照大御神などを祀る	三重県神社誌 p377
近江膳所藩の分家出身、本多神戸藩初代、享保17年入部、譜代。以後維新时期まで定着	三重県神社誌 p505
定綱は寛永11年に桑名藩主。鎮国神社は松平定信が初め藩祖として白河城中に祭祀（桑名のあと越後高田、陸奥白河、再び桑名）、文政6年定永桑名再封に際し、同地桑名城内本丸へ遷座	全国下 p19, 神社誌料上 p1415
桑名藩主定綱は用水を引かせて当地を開墾。定良（次藩主）は御殿に霊を祭祀。後に村人の願いで氏神とし、御霊大明神と称した。「御領内控記」（天明4年）などに記載	三重県神社誌 p94
定信は陸奥白河から入封した桑名藩主定永の父であるため祭祀か。鎮国神社境内に祀る	神社誌料上 p1416, 三重県神社誌 p50
	三重県神社誌 p213
平安後期の武將。源為義八男	三重県神社誌 p477
源頼朝の異母弟。頼朝との関係悪化で伊豆幽閉	三重県神社誌 p526
平安中期の武將。越前・武藏などの国主	本庁データ
平安時代後期の武將。頼義長子。八幡太郎	本庁データ
亀山藩主石川氏始祖。石川氏が延享元年入封後に城内旧館跡に祭祀。明治41年亀山神社と改称	三重県神社誌 p587
亀山藩主石川家の祖源義家の五男として祭祀	三重県神社誌 p587
満仲の子、河内源氏祖。平の忠常の乱平定	本庁データ
明治41年、本社に合祀	本庁データ
平安時代末期の武將、歌人。清和源氏だが一時平清盛方につく。以仁王の挙兵に呼応するも自害	本庁データ
満仲嫡男	本庁データ
平安時代後期の武將。頼信嫡子。父とともに平忠常の乱平定。前九年の役平定。鎌倉に石清水八幡宮勧請	本庁データ
津藩士、一志郡郡奉行。地誌の勢陽雜記を著わす	本庁データ
宗広二男。南朝側武將	三重県神社誌 p362
宗広は南朝側の武將。東国で活躍したが、伊勢に戻り没。没後、墓傍に祠がたてられ結城明神と称される。病難に利益をもたらしたので結城医王大明神ともいう。文政7年、藩主藤堂高兎は社殿を改築し規模を大きくする	名鑑 p478